

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	葵会仙台看護専門学校
設置者名	学校法人 医療創生大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
看護課程	看護学科	夜・通信	61 単位	9 単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにてシラバスの公開 https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	葵会仙台看護専門学校
設置者名	学校法人 医療創生大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	特定非営利活動法人萌 木 理事長 元文部科学副大臣	2022年4月 1日～2023 年3月31日	教育行政等の観点 からの学校法人運 営
非常勤	千葉・柏りハビリテーシ ョン病院 院長	2022年4月 1日～2023 年3月31日	医療人材養成の観 点からの学校法人 運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	葵会仙台看護専門学校
設置者名	学校法人医療創生大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。		
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)		
【授業計画書の作成】 授業計画書(シラバス)の作成は、授業評価に基づき担当者が案を作成し、教員会議での検討の上で、運営会議にて決定となる。		
【授業計画書の公表】 新入生に関しては、4月の入学ガイダンスにて配付し説明を行っている。 在校生に関しては、3月末から4月初旬の進級オリエンテーションにて配付し説明を行っている。また、ガイダンス前にWeb上での公表を実施する。		
授業計画書の公表方法	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。		
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)		
【学習評価】 当該科目の定められた授業時数の3分の2以上の出席を必要とする。並びに当該科目の以下の評価により、単位認定会議の議を経て、学校長が認定する。		
〔本校の評価〕		
得点区分	評価区分	合 否
100点～80点	優	合格
79点～70点	良	合格
69点～60点	可	合格
59点～0点	不可	不合格
※詳細は本校学則細則を参照。		

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、成績評価データとして以下の方法を用い、全学生の成績分布状況の把握を行っている。</p> <p>〔成績評価のデータ計算方法〕 学生ごとの定期試験各科目の素点を合計した上で、受験すべき科目数で除し、平均点を割り出す。その平均点により、学年における順位付けを実施している。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【卒業の認定】 以下の教育理念や教育目標に基づき、全課程を修了した学生に対して、単位認定会議の議を経て学校長が認めることとしている。</p> <p>【本校の教育理念】 葵会グループが目指す「“治す”と“防ぐ”を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、進撃な態度で看護を提供できる人材を育成する。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立した人間性を養う。 2. 人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。 3. 健康の維持増進、疾病の予防、疾病の回復及び終末期における対象のニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる基本的な能力を養う。 4. 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。 5. 専門職業人として生涯にわたり看護を探求し、地域社会に貢献し、成長し続けられる能力を養う。 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	葵会仙台看護専門学校
設置者名	学校法人 医療創生大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
財産目録	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
事業報告書	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
監事による監査報告（書）	https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3,000時間（97単位） 単位時間／単位	1965 単位時間 80/単位	単位時間 /単位	1035 単位時間 23/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		3000 単位時間／103 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
360人		358人	0人	24人	45人	69人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
【授業計画書の作成】 授業計画書（シラバス）の作成は、授業評価に基づき担当者が案を作成し、教員会議での検討の上で、運営会議にて決定となる。
【授業計画書の公表】 新入生に関しては、4月の入学ガイダンスにて配付し説明を行っている。 在校生に関しては、3月末から4月初旬の進級オリエンテーションにて配付し説明を行っている。 また、ガイダンス前にWeb上での公表を実施する。
成績評価の基準・方法
（概要）
【学習評価】 当該科目の定められた授業時数の3分の2以上の出席を必要とする。並びに当該科目の以下の評価により、単位認定会議の議を経て、学校長が認定する。
〔本校の評価〕
得点区分 評価区分 合 否

100点～80点	優	合格
79点～70点	良	合格
69点～60点	可	合格
59点～0点	不可	不合格

※詳細は本校学則細則を参照。

卒業・進級の認定基準

(概要)

【卒業の認定】

以下の教育理念や教育目標に基づき、全課程を修了した学生に対して、単位認定会議の議を経て学校長が認めることとしている。

【本校の教育理念】

葵会グループが目指す「“治す”と“防ぐ”を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、進撃な態度で看護を提供できる人材を育成する。

【教育目標】

1. 生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立した人間性を養う。
2. 人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。
3. 健康の維持増進、疾病の予防、疾病の回復及び終末期における対象のニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる基本的な能力を養う。
4. 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。
5. 専門職業人として生涯にわたり看護を探究し、地域社会に貢献し、成長し続けられる能力を養う。

学修支援等

(概要)

- ・ 面談等による学習指導を実施している。
- ・ 入学前後から教員・職員による補習授業(カリキュラム上の授業を受ける際に前提となる中学・高校レベルの基礎知識の学び直し)を実施している。
- ・ 自習室を設置し、学修に集中できる環境作りに取り組んでいる。
- ・ 各演習室を授業時間以外でも学生に開放し、自主的な練習を可能にしている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
120人 (100%)	1人 (0.8%)	119人 (99.2%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 病院、医療（看護師）
(就職指導内容) 履歴書等添削、面接指導
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家資格、専門士称号
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
365 人	7 人	0.02%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員による三者面談等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科	300,000 円	700,000 円	400,000 円	実験実習費 (200,000 円) 施設費 (200,000 円)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
葵会修学支援制度 (医療法人社団葵会より全額 360 万の貸付)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 全教職員による自己点検・自己評価をもとに、学校関係者評価委員会で検討し、改善を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
葵会仙台病院	2022年4月1日から 2023年3月31日	病院関係者
葵会仙台病院	2022年4月1日から 2023年3月31日	病院関係者
医療福祉コンサルティング会社所属	2022年4月1日から 2023年3月31日	学校関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.isu.ac.jp/facility/senmonn.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H104391030050
学校名	葵会仙台看護専門学校
設置者名	学校法人 医療創生大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		55人	55人	59人
内訳	第Ⅰ区分	27人	26人	
	第Ⅱ区分	13人	-	
	第Ⅲ区分	15人	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				59人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-
訓告	-
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

実務経験のある教員による授業科目の一覧表

科目名		履修年次	単位数	時間数	担当教員	実務経験教員	
基礎分野	人間と生活・社会の理解	スタートアップセミナー	1年次	1	15	木島 上	○
		医療英語 I	1年次	1	15	佐竹 深雪	○
		医療英語 II	1年次	1	30	佐竹 深雪	○
		人間関係論	1年次	1	30	木島 上	○
		地域文化	1年次	1	15	山口 俊一郎	○
		川口 知子	○				
小計		5	105		6		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造機能学 II	1年次	1	30	齋藤 淑子	○
		小計		1	30		1
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1年次	1	30	日野 美代子	○
		病態治療学 II	1年次	1	30	松木 琢磨	○
		病態治療学 III	1年次	1	30	齋藤 淑子	○
		病態治療学 IV	1年次	1	30	東海林 互	○
			佐藤 哲朗			○	
			川口 奉洋			○	
			矢澤 由加子			○	
			遠藤 英徳			○	
			内田 浩喜			○	
		病態治療学 V	1年次	1	30	大沼 歩	○
			川村 仁			○	
			佐々木 勝忠			○	
			稲葉 洋平			○	
		齋藤 淑子	○				
	阿部 裕子	○					
	病態治療学 VI	2年次	1	30	宮本 慶一	○	
	統合臨床判断	2年次	1	15	庄司 好己	○	
	松木 琢磨	○					
	香織 香織	○					
	薬理学	1年次	1	30	木村 勝彦	○	
	工藤 尚哉	○					
リハビリテーション論	2年次	1	15	菊池 佑馬	○		
田邊 理	○						
小計		9	240		23		
健康支援と 社会保障制度	総合医療論	1年次	1	15	目黒 邦昭	○	
	看護関係法令	3年次	1	15	木島 上	○	
	経済と看護	3年次	1	15	加賀谷 恵美子	○	
	小計		3	45		3	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1年次	1	30	太田 久子	○
		基礎看護学援助論 I	1年次	1	30	宇野 由佳	○
		守 花絵	○				
		基礎看護学援助論 II	1年次	1	30	森田 由紀子	○
		吉村 裕子	○				
		基礎看護学援助論 III	1年次	1	30	守 花絵	○
		鈴木 久美子	○				
		基礎看護学援助論 IV	1年次	1	30	守 花絵	○
		森田 由紀子	○				
		基礎看護学援助論 V	1年次	1	30	鈴木 久美子	○
		渡辺 有希	○				
		基礎看護学援助論 VI	1年次	1	30	宇野 由佳	○
		大沼 良美	○				
		渡辺 有希	○				
	基礎看護学援助論 VII	1年次	1	15	鈴木 久美子	○	
	渡辺 有希	○					
	守 花絵	○					
	基礎看護学援助論 VIII	1年次	1	30	森田 由紀子	○	
	鈴木 久美子	○					
	鈴木 晴美	○					
	渡辺 有希	○					
小計		10	285		21		
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論 I	1年次	1	15	伊藤 明美	○	
	稲邊 照子	○					
	齊藤 恵理香	○					
地域・在宅看護概論 II	1年次	1	15	伊藤 明美	○		
稲邊 照子	○						
齊藤 恵理香	○						
小計		2	30		6		
成人看護学	成人看護学概論	1年次	1	30	内田 祝子	○	
	成人看護学援助論 I	2年次	1	30	高野 岳史	○	
	飯牟禮 明子	○					
	齊藤 香織	○					
	成人看護学援助論 II	2年次	1	30	齊藤 香織	○	
	飯牟禮 明子	○					
	成人看護学援助論 III	2年次	1	30	内田 祝子	○	
	鈴木 晴美	○					
成人看護学援助論 IV	2年次	1	30	内田 祝子	○		
高野 岳史	○						
飯牟禮 明子	○						
成人看護学援助論 V	2年次	1	15	鈴木 晴美	○		
齊藤 香織	○						
飯牟禮 明子	○						
小計		6	165		14		
老年看護学	老年看護学概論	1年次	1	30	猪狩 綾	○	
	老年看護学援助論 I	2年次	1	30	猪狩 綾	○	
	猪狩 綾	○					
	老年看護学援助論 II	2年次	1	30	高橋 さくら	○	
	吉村 裕子	○					
老年看護学援助論 III	2年次	1	15	猪狩 綾	○		
高橋 さくら	○						
吉村 裕子	○						
小計		4	105		8		
小児看護学	小児看護学概論	2年次	1	30	庄司 宗和	○	
	大沼 良美	○					
	小児看護学援助論 I	2年次	1	30	庄司 宗和	○	
	大沼 良美	○					
	小児看護学援助論 II	2年次	1	30	飯沼 一宇	○	
庄司 宗和	○						
大沼 良美	○						
小児看護学援助論 III	2年次	1	15	庄司 宗和	○		
小計		4	105		8		
母性看護学	母性看護学概論	2年次	1	30	小長根 恵美子	○	
	母性看護学援助論 I	2年次	1	30	野辺地 郁子	○	
	母性看護学援助論 II	2年次	1	30	野辺地 郁子	○	
	母性看護学援助論 III	2年次	1	15	野辺地 郁子	○	
	小計		4	105		4	
精神看護学	精神看護学概論	1年次	1	30	阿部 利寿	○	
	中川 誠秀	○					
	精神看護学援助論 I	2年次	1	30	吉村 淳	○	
	山田 和男	○					
	阿部 利寿	○					
精神看護学援助論 II	2年次	1	30	藤田 亨	○		
坂本 洋生	○						
中野 弘枝	○						
精神看護学援助論 III	2年次	1	15	阿部 利寿	○		
小計		4	105		9		
在宅看護学	在宅看護概論	2年次	1	30	稲邊 照子	○	
	伊藤 明美	○					
	在宅看護援助論 I	2年次	1	15	伊藤 明美	○	
	齊藤 恵理香	○					
	在宅看護援助論 II	2年次	1	30	伊藤 明美	○	
齊藤 恵理香	○						
在宅看護援助論 III	2年次	1	30	伊藤 明美	○		
伊藤 明美	○						
小計		4	105		7		
看護の統合と実践	看護研究の基礎	3年次	1	15	高野 岳史	○	
	桐田 三世	○					
	太田 久子	○					
	看護管理	3年次	1	15	武田 幸子	○	
	加賀谷 恵美子	○					
	医療安全	3年次	1	15	桐田 三世	○	
	菱沼 和子	○					
	稲邊 照子	○					
災害・国際看護学	3年次	1	30	加賀谷 恵美子	○		
佐々木 麻未	○						
飯牟禮 明子	○						
臨床実践の統合	3年次	1	30	加賀谷 恵美子	○		
桐田 三世	○						
小計		5	105		13		
総計			61	1530		123	

学校法人医療創生大学 役員一覧

(理事5名、監事2名)

令和4年4月1日

役職名	氏名	現職等	備考
理事長	シンタニ 新谷 タカヨシ 幸義	医療創生大学 総長 医療法人社団 葵会 理事長	
理事	シンタニ 新谷 マサコ 正子	医療法人社団 葵会 副理事長	
理事	タグチ 田口 ノブタカ 信教	学校法人医療創生大学 理事	
理事	イケノボウ 池坊 ヤスコ 保子	特定非営利活動法人萌木 理事長 元文部科学副大臣	学外理事
理事	ヤマモト 山本 ハルヤス 晴康	千葉・柏リハビリテーション病院 院長	学外理事
監事	ワシダ 鷺田 チアキ 千秋	学校法人医療創生大学 監事	
監事	モリ 森 ヤスヒコ 保彦	森田・森法律事務所 弁護士 中央競馬馬主社会福祉財団理事	

2022年度

シラバス

第3学年（第4回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

3 回生：教育課程・学科進度表

科目名		内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考	論理学	1	30						
		情報科学	1	30						
		看護物理学	1	15	15					
	人間と生活・社会の理解	音楽	1	30	30					
		倫理学	1	30					30	
		心理学	1	30	30					
		教育学	1	30				30		
		社会学	1	30	30					
		医療英語 I	1	15	15					
		医療英語 II	1	30			30			
		運動と健康	1	30	30					
		人間関係論	1	30	30					
		ホスピタリティ論	1	15	15					
小計		13	345	195	90	30	30	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I	1	30	30					
		人体構造・機能学 II	1	30	30					
		人体構造・機能学 III	1	30	30					
		人体構造・機能学 IV	1	30			30			
	生化学	1	30	30						
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物	1	30	30					
		栄養学	1	30			30			
		病態治療学 I	1	30			30			
		病態治療学 II	1	30			30			
		病態治療学 III	1	30			30			
		病態治療学 IV	1	30			30			
		病態治療学 V	1	30			30			
		病態治療学 VI	1	30				30		
		薬理学	1	30			30			
		リハビリテーション論	1	15			15			
	社会保険支援助と	総合医療論	1	15	15					
		公衆衛生学	1	15			15			
		社会保障	1	15			15			
		社会福祉	1	15			15			
		看護関連法令	1	15						15
		経済と看護	1	15						
小計			21	525	165	240	90	0	15	15
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		基礎看護学援助論 I	1	30	30					0
		基礎看護学援助論 II	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 III	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 IV	1	30	30					
		基礎看護学援助論 V	1	30			30			
		基礎看護学援助論 VI	1	30			30			
		基礎看護学援助論 VII	1	15			15			
		基礎看護学援助論 VIII	1	30				30		
		基礎看護学援助論 IX	1	30				30		
	小計		10	285	120	135	30	0	0	0
	基礎看護学実習 I	1	45	45						
	基礎看護学実習 II	2	90			90				
小計		3	135	45	90	0	0	0	0	
専門分野 I 小計		13	420	165	225	30	0	0	0	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	30			30			
		成人看護学援助論 I	1	30			30			
		成人看護学援助論 II	1	30			30			
		成人看護学援助論 III	1	30			30			
		成人看護学援助論 IV	1	30				30		
		成人看護学援助論 V	1	30				30		
	小計		6	180	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論	1	30			30			
		老年看護学援助論 I	1	30			30			
		老年看護学援助論 II	1	30			30			
		老年看護学援助論 III	1	15				15		
	小計		4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			30			
		小児看護学援助論 I	1	30			30			
		小児看護学援助論 II	1	30				30		
		小児看護学援助論 III	1	15				15		
	小計		4	105	0	0	60	45	0	0
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			30			
		母性看護学援助論 I	1	30			30			
		母性看護学援助論 II	1	30				30		
		母性看護学援助論 III	1	15				15		
小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
精神看護学	精神看護学概論	1	30			30				
	精神看護学援助論 I	1	30			30				
	精神看護学援助論 II	1	30			30				
	精神看護学援助論 III	1	15				15			
小計		4	105	0	30	60	15	0	0	
臨地実習	成人看護学実習 I	3	135					135		
	成人看護学実習 II	3	135						135	
	老年看護学実習 I	2	90					90		
	老年看護学実習 II	2	90						90	
	小児看護学実習	2	90						90	
	母性看護学実習	2	90						90	
	精神看護学実習	2	90						90	
小計		16	720					225	495	
専門分野 II 小計		13	810	0	90	330	405	495	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30			30			
		在宅看護援助論 I	1	15			15			
		在宅看護援助論 II	1	30				30		
		在宅看護援助論 III	1	30				30		
	小計		4	105	0	0	45	60	0	0
	看護実践の統合	看護研究の基礎	1	30			30			
		看護管理と医療安全	1	30					15	15
		災害・国際看護学	1	15					15	15
		臨床実践の統合	1	30					15	15
	小計		4	105	0	0	30	0	45	30
臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90		
	統合実習	2	90						90	
小計		4	180	0	0	0	0	90	90	
専門分野 I 小計				0	0	75	60	135	120	
講義時間 総計			74	1965	480	555	555	270	60	45
実習時間 総計			23	1035	45	90	225	585	90	
総時間数			97	3000	1170		1050		780	

3年次 学科目

科目名		内容	単位数	時間数	3学年		
					前期	後期	
専門 野 基礎 分	健康支援と社会保 障制度	看護関連法令	1	15		15	
		経済と看護	1	15	15		
専門 分野 II	臨地実習	成人看護学実習 I					
		成人看護学実習 II	3	135	135		
		老年看護学実習 I	(老人保健施設実習 30時間含む)				
		老年看護学実習 II		2	90	90	
		小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)	2	90	90	
		母性看護学実習		2	90	90	
		精神看護学実習		2	90	90	
統合 分野	看護の統合と 実践	看護研究の基礎					
		看護管理と医療安全	1	30	15	15	
		災害・国際看護学	1	15	15		
		臨床実践の統合	1	30	15	15	
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90	90		
		統合実習	2	90		90	
			20	780	645	135	

領域	専門基礎分野		科目	看護関連法令		担当	木島 上
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
木島 上							
到達目標		看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。					
授業概要		保健師助産師看護師法の理解にとどまらず、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解を深め、生活や健康に関わる幅広い知識を学んでいく。					
学習者への期待 (含む準備学習)		看護は人間の生命に直接関わる職業であることを認識し、与えられた職責を正しく遂行するために関連する法令をしっかりと学んで欲しい。					
回数	単元		授業内容			授業方法	
1	法の概念 医事法		(1) 法の概念 (2) 医事法 (看護法・医師法医療関係資格法)			講義	
2	保健衛生法		(1) 保健衛生法 a 共通保健法 b 分野別保健法 c 感染症に関する法			講義	
3	薬務法 環境衛生法		(1) 薬務法 a 医薬品 b 毒物等 (2) 環境衛生法 a 営業 b 環境整備			講義	
4	社会保険法		社会保険法 (1) 雇用保障 (2) 年金手当			講義	
5	福祉法		福祉法 (1) 共通的福祉 (2) 分野別福祉			講義	
6	労働法と社会基盤整備		労働法と社会基盤整備 (1) 労働法 (2) 社会基盤整備等			講義	
7	環境法		環境法 (1) 環境保全の基本法 (2) 公害の防止法 (3) 自然保護法			講義	
8	単位認定試験					試験	
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門基礎分野		科目	経済と看護		担当	加賀谷 恵美子	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
加賀谷 恵美子		病院での看護管理業務の経験あり。						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医療を経済的側面から考察することができる。 2. 社会における医療費、社会保障費の動向と課題について理解できる。 3. 診療報酬制度と看護業務の関連性が理解できる。 						
授業概要		今日の高齢社会の進展に伴い、国民医療費の高騰、看護師不足、病院の経営危機などの諸問題が生じており、単に財政的問題にとどまらず、看護・医療の質に関わる問題につながっている。これからの看護職を目指す者として、看護師の雇用環境や働き方、看護実践においても経済的発想を持つことが求められる。看護・医療を経済的視点から捉えて有用性を知る。						
学習者への期待 (含む準備学習)		医療従事者になる者として、また看護学生最高学年として、社会における医療費問題に関する関心と看護業務における経済的観念を自分の将来の働き方に反映できるよう主体的に学習してほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法	
1	看護と経済		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職に経済学の知識が必要な理由 ・看護サービスのとらえ ・医療・看護サービスの特殊性 ・医療サービスの規制 				講義	
2	社会と医療費		<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費の増大 ・将来人口と課題 				講義	
3	看護に関わる収入・支出		<ul style="list-style-type: none"> ・直接的収入・支出管理 ・間接的収入・支出管理 				講義	
4	診療報酬のしくみ①		基本診療料・特掲診療料・DPC制度				講義	
5	診療報酬のしくみ②		場面ごとの診療報酬				講義	
6	診療報酬のしくみ③		看護業務と診療報酬(病院)				講義	
7	診療報酬のしくみ④		看護業務と診療報酬・介護報酬(在宅)				講義	
8	単位認定試験						試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院						
参考文献		ナーシング看護学テキスト 看護管理学 南江堂 診療報酬のしくみと基本 メディカ出版 イラスト図解 医療費のしくみ 日本実業出版社 中堅どころが知っておきたい医療現場のお金の話 メディカ出版 診療報酬点数早見表 医学通信社						
備考								

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)	担当	内田 祝子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
2年次 後期 3年次 前期		3単位	135時間	1回	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
内田 祝子	成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す					
授業内容	慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に対象の持てる力を活用したセルフケアを目指し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を学ぶ。					
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論で積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んで欲しい。					
実習内容						
<p>【実習時期】 2年次12月下旬 ～ 3年次6月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴を理解し、発達段階に応じた健康障害と共に生きていくことを支える看護実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ対象の身体面・心理面・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 慢性疾患をもつ対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 慢性疾患をもつ対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるように対象の持てる力を活用したセルフケアを目指した看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 						
教科書						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	詳細は実習要項を参照					

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅱ (急性期)	担当	内田 祝子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
3年次 前・後期		3単位	135時間	1 回	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
内田 祝子	成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す					
授業内容	周手術期の患者、慢性疾患の急性増悪患者など侵襲的な治療検査を受ける成人患者・家族を多面的に理解し、看護過程を通して侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を学ぶ。					
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識・技術をもって、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨むようにしましょう。急性期・周手術期、特に手術直後の患者は容態や治療経過の変化が早いので、主体的・積極的に看護展開ができるようにして欲しい。					
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次 5月～10月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>急激な身体侵襲により、生命の危機や身体の苦痛が大きい状態にある患者及び家族の特徴を理解し、侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように基礎的な実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の心理・身体・社会的影響を理解し、対象が心身共に良好な状態で検査・治療を受ける為の看護援助に活用できる。 急性期にある対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 手術などの侵襲的検査・治療を受ける対象の侵襲に伴う変化を理解し、合併症を予防し心身の回復と日常生活への適応に向けた看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で急性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、学生1～2名で急性期にある患者1名を受け持ち、術前・術後の看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 						
教科書						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ	科目	老年看護学実習Ⅰ	担当	猪狩 綾 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法
2年次 3年次	後期 前期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
猪狩 綾	急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターの制度上の意義と活動を理解し、健康維持やQOL向上のための活動に参加させていただく。 ・介護老人保健施設では入所者の方を受け持ち、生活支援を視点とした問題の抽出と残存機能を意識した日常生活援助の実践を学ぶ 					
学習者への期待 (含む準備学習)	健康維持のためにがんばっている高齢者と接し、その心理や生きがい・QOLなどが考えられるようになってほしい。					
実習内容						
<p>【実習期間】 2年後期～3年前期</p> <p>【実習目的】 地域や施設における高齢者との関わりを通して、対象者を生活者として理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な高齢者との触れ合いを通して、暮らしや健康への思いを知り、健康維持のために老人福祉センターの果たす役割について理解できる。 2 施設における各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる。 3 加齢変化や健康課題を持ちつつ生きる老年期にある対象の特徴について理解する。 4 対象の生活機能上の課題に応じた援助が実践できる。 5 自己の老年観・看護観を確認することができる。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターは主体事業への参加または、デイサービス、サークルなどに参加させていただき高齢者の方との関わりを通し、老年観を深める。 ・介護老人保健施設実習においては、1名の方を受け持ち、生活者の視点で情報収集し必要な援助を考え、スタッフの援助に参加させていただく。介護保険制度の理解や多職種の連携と役割について学ぶ。 						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院					
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ	科目	老年看護学実習Ⅱ	担当	猪狩 綾 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法
3年次	前期 後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
猪狩 綾	急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり					
授業の概要	入院中の健康障害を有する高齢者を受け持ち、生活が健康に及ぼす影響を知り、健康の保持・増進、疾病の予防に向けた適切な援助を日常生活に視点をおき看護過程を展開し必要な援助を考え実践する。					
学習者への期待 (含む準備学習)	老化に伴って起こる疾病や障害を理解し、「できること」や「可能性」を大切に、その人らしさを尊重した関わりを意識して看護過程展開ができるようになってほしい。					
実習内容						
<p>【実習期間】 3年次後期</p> <p>【実習目的】 老年期にある受け持ち患者とその家族を総合的に理解し、受け持ち患者の健康上の問題に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象の身体的、心理的、社会的側面と生活史や生理的機能低下及び健康の段階から総合的に理解する。 2 健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用出来るような看護を計画し、実践、評価する。 3 老年期にある対象に対し、保健・医療・福祉チームにおける連携の必要性を理解する。 4 老年期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院において一人の高齢者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院					
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	※詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学実習	担当	庄司 宗和 他
開講年次・開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験				
庄司 宗和	小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す				
授業概要	保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)	大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。				
実習内容					
<p>【実習時期】 2年次後期から3年次前期まで</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う</p> <p>【実習目標】</p> <p style="padding-left: 2em;">(保育所実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な乳幼児の成長発達及び、個別性を理解できる 2 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる 3 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる 4 看護者としての望ましい態度が自覚できる <p style="padding-left: 2em;">(病棟実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害を持つ小児の特性を理解し小児とその家族の抱える問題を捉えることができる 2 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる 3 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる 4 健全な小児観を養うとともに、小児看護の在り方について考えることができる <p>【実習計画】</p> <p style="padding-left: 2em;">保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。</p> <p style="padding-left: 2em;">実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。</p>					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ				
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				
備考					

領域	専門分野Ⅱ	科目	母性看護学実習		担当	宇野 由佳 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期		2単位	90時間	10日間	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子	助産師としての実務経験あり。						
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象及びその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考えて、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。						
実習内容							
<p>I 実習目的</p> <p>女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。</p> <p>II 実習目標</p> <p>1 妊娠期、分娩期、産褥期及び新生児期の特徴を理解し、母子及びその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。</p> <p>(1) 妊娠期</p> <p>a 妊婦健診や妊婦対象の教室等を通して、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。</p> <p>b 対象への保健指導を理解できる。</p> <p>(2) 分娩期</p> <p>a 分娩第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。</p> <p>b 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。</p> <p>(3) 産褥期</p> <p>a 身体的・心理的变化及び子育て環境について理解できる。</p> <p>b 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。</p> <p>c 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。</p> <p>d 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。</p> <p>(4) 新生児期</p> <p>a 出生直後の新生児の観察ができる。</p> <p>b 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。</p> <p>c 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）</p> <p>2 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子及び家族支援のための社会資源について理解することができる。</p> <p>3 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。</p> <p>4 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。</p> <p>III 実習計画</p> <p>1 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。</p> <p>2 グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。</p> <p>3 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学を通して学ぶ。</p> <p>4 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。</p> <p>IV 実習時間</p> <p>原則 8：30～16：30</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考							

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学実習	担当	阿部 利寿 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験				
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり				
中野 弘枝		精神科外来において実務経験あり				
授業概要		病棟実習を通して、精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対しての看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)		病態などの基礎的知識を理解し、個別性を踏まえた看護過程を展開できるようになってほしい。				
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次 5月～9月</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、病院での療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対して看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神に障害のある対象及び家族の状況や抱える心理的負担を理解する。 2 社会生活に適応することを目指した日常生活の自立への援助を実践できる。 3 尊厳のある人間としての患者-看護師間の相互関係を構築して、自己の援助的関わりの振り返りができる。 4 精神医療における看護の役割・機能を理解する。 5 他職種との連携について理解する。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院では一人の対象者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院					
参考文献	薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会					
備考						

領域	統合分野		科目	看護管理と医療安全論(1) (看護管理)		担当	太田久子 武田幸子 加賀谷 恵美子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	14/30時間	7/15回	講義	単位認定試験		50%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
太田 久子		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有する						
武田 幸子		看護部長として病院勤務・認定看護管理者取得						
加賀谷 恵美子		看護部教育看護師長、病棟看護師長、准看護学院教務主任の実務経験あり						
到達目標		保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療を取り巻く環境の変化について理解する。						
授業概要		看護のマネジメントは人・物・金・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。						
学習者への期待 (準備学習含む)		2年次までの各領域の知識を復習し、看護師として組織の中で働くための必要な知識であることを踏まえ、主体的に学習に臨んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	看護とマネジメント		・看護管理学とは ・看護におけるマネジメント				講義：太田	
2	看護職のキャリアマネジメント		・看護職のキャリア形成 ・タイムマネジメント・ストレスマネジメント				講義：加賀谷	
3	看護サービスのマネジメント		・組織目的達成のマネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり ・人事・施設・物品・情報・リスクのマネジメント ・サービスの評価				講義：加賀谷	
4								
5	マネジメントに必要な知識と技術		・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整				講義：加賀谷	
6	看護を取り巻く諸制度		・看護職 ・医療制度 ・看護政策と制度					
7	看護管理の実際						講義：武田	
8			単位認定試験				試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	統合分野		科目	看護管理と医療安全論(2) (医療安全)		担当	桐田 三世 菱沼 和子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	16/30時間	8/15回	講義	単位認定試験	50%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
桐田 三世		医療安全管理者講習を修了。看護部・病棟においてセイフティマネージャーとして医療安全対策の実務経験あり						
菱沼 和子		主任看護師として病院勤務・医療安全管理室副室長・高度医療安全管理者取得						
到達目標		人は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点からしてはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。						
授業概要		医療現場で起こりうるさまざまな看護事故の種類について実際の例を基に学び、その防止についても理解を深める。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護師は最終的な医療行為者や観察者となることを認識しつつ、観察の不足が重大事故に繋がる日常に身を置くことを考えながら真剣に取り組んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	医療安全を学ぶことの大切さ		<ul style="list-style-type: none"> 人はなぜ間違いを犯すのか 医療事故とは 医療安全に関わるキーワード 				講義・桐田	
2	診療の補助の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器での事故防止 輸血業務と事故防止 内服与薬業務と事故防止 経管栄養(注入)業務と事故防止 チューブ管理と事故防止 					
3								
4			療養上の世話の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 転倒、転落・窒息・誤嚥・異食・入浴中の事故防止 			
5	医療安全とコミュニケーション 看護師の労働安全衛生上の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 職業感染 抗がん剤の暴露・放射線暴露・ラテックスアレルギー・院内暴力 					
6	組織的な安全管理体制への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 組織としての医療安全対策 我が国の医療安全対策の潮流 					
7	医療安全の実際							
8	単位認定試験(看護管理と医療安全)						試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院						
参考文献		医療におけるヒューマンエラーなぜ間違えるどう防ぐ(第2版) 河野龍太郎 医学書院 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 川島みどり 医学書院 ヒヤリ・ハット1 1,000事例によるエラーマップ完全本 川村治子 医学書院 医療事故 看護の法と倫理の視点から(第2版) 石井トク 医学書院						
備考								

領域	統合分野		科目	災害・国際看護学	担当	稲邊 照子 加賀谷 恵美子 佐々木 麻未 飯牟禮 明子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
稲邊 照子		防衛省における災害派遣の管理業務の経験あり。					
加賀谷恵美子		防衛省における災害派遣の経験あり。					
佐々木 麻未		手術センター看護師として病院勤務 資格：手術看護実践指導者看護師・ICLS認定インストラクター・宮城DMAT					
飯牟禮 明子		海外青年協力隊での海外看護活動の実績あり。					
到達目標		(1)災害医療・看護の概念と災害各期の看護を学び、災害時における看護の役割について理解できる。 (2)世界の保健・医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性和役割について理解できる。					
授業概要		(1)災害における健康問題と医療・看護の基礎知識を災害サイクルに沿って学ぶ。 (2)医療・看護の国際協力とそのしくみ、活動の実際などを学ぶ。					
学習者への期待 (準備学習含む)		災害は、地域の人々の暮らしと密接に関連しながら健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康ニーズに応じた看護の必要性和役割を認識してほしい。また、国際化、グローバル化されている現代社会における看護の役割や身近な外国人への医療支援の必要性和理解してほしい。					
回数	項目		授業内容			授業方法・担当	
1	災害医療の基礎知識		・災害看護の歩み・災害の定義 ・災害の種類と健康被害 ・災害と情報(災害看護と情報)			講義：稲邊	
2			・災害看護の定義と役割 ・災害看護の対象 ・災害看護と救急看護の基本的な違い ・災害看護と法律(災害対策基本法・災害救助法)			講義：稲邊	
3	災害サイクルに応じた災害看護		・災害サイクルとそれに応じた災害看護活動 (急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期)			講義：稲邊	
4	被災者の特性に応じた災害看護		・子供・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害・慢性疾患 ・原子力災害・在留外国人			講義：稲邊	
5	避難所における健康と生活支援		・避難所(看護の役割・種類・運営) ・災害と感染予防 ・災害とこころのケア			講義：加賀谷	
6	災害看護の実際		・災害医療実施のための体系的アプローチ(CSCATTT) ・ トリアージ・DMAT・DPAT・DHEAT			講義：佐々木	
7	国際看護への理解		・国際看護とは ・日本における国際看護 ・海外における災害看護と国際看護活動			講義：飯牟禮	
8	単位認定試験・まとめ					試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	統合分野		科目	臨床実践の統合		担当	加賀谷 恵美子 桐田 三世		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	前期 後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	レポート	60%	演習評価	40%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
加賀谷 恵美子		看護部・看護教育機関における管理者・教育者としての実務経験あり							
桐田 三世		看護課長としての看護管理者実務経験あり。							
到達目標		1 統合実習を効果的に学ぶために、学生個々に十分な準備ができる。 2 看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。							
授業概要		統合演習では、本学での3年間で履修した学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに実習できるように、その準備を行い、実習後の演習では、統合実習での学びを通して自己の看護の実践能力（知・技・心）を評価し、発表の場を設け専門職としての自己の課題を明確にする内容とする。							
学習者への期待 (準備学習含む)		今までの臨地実習を振り返り、自己の課題や技術経験の不足などを踏まえ統合実習の準備ができる。複数受け持ちの場合の優先すべき根拠を明確にし、考えられるようになってほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	統合演習について事例展開		実習前演習				講義：加賀谷 演習		
2			・統合実習のキーワードに関する講義 ・看護記録の記載 ・報告要領						
3									
4									
5	多重課題対応		・入院時病歴聴取				講義：加賀谷 演習		
6			・複数患者受け持ちを想定した1日の業務計画立案 ・多重課題対応について（講義，演習，振り返り）						
7									
8	実習のまとめ		実習後演習				演習：加賀谷・桐田		
9			・統合実習のまとめ (KJ法にて、グループワーク，発表)						
10									
11							発表		
12									
13	看護観		・自己の看護観の整理（論文作成）				演習：加賀谷		
14									
15									
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	統合分野	科目	在宅看護論実習	担当	稲邊照子・伊藤明美 齋藤恵里香	
開講年次・開講時期		単位数	時間数	授業形態	評価方法	
3年次 前期 3年次 後期		2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験				
授業概要		訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、居宅事業所の実習を通し、在宅療養者とその家族の生活を理解し、在宅看護を実践するために必要な基礎的能力を習得する。また、病院・地域社会の看護の継続性とそのために必要な社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。				
学習者への期待 (含む準備学習)		臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。				
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次前期・後期(2020年5月～10月)まで</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】 地域で療養しているあらゆるライフステージにある対象者とその家族を理解し、健康レベルに応じた援助を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で療養する対象者と、その家族の生活状況を知り、疾病や障害が生活に及ぼす影響を理解することができる。 2 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解できる。 3 社会資源の活用及び関係職種との連携・協働の必要性が理解でき、看護職の果たす役割が考えられる。 4 在宅看護を学ぶ学生として望ましい態度を身につけることができる。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーション：同行訪問4日間、振り返り、事例検討会2日間（学内） <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師とともに在宅療養者宅を同行訪問をし、訪問看護の看護援助の実際を学び、訪問看護の役割や生活環境の場に応じた看護援助を体験する。 2) 通所リハビリテーション、居宅支援事業所：実習2日間、振り返り1日（学内） <ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリテーション施設でスタッフの方とともに利用者の方のケアに参加したり、利用者の方々との関わりを通して、在宅生活の理解を深め、利用者・家族を支援する社会資源の意味を考える。 ・介護支援専門員から利用者宅の訪問や関係機関との連絡調整などケアマネジメントの援助の実際について説明を受け、ケアマネジメントの展開、ケアマネジャーの役割や連携の必要性を学ぶ 						
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅看護論 在宅療養を支える技術				
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				
備考						

領域	統合分野		科目	統合実習		担当	加賀谷 恵美子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
3年次	前期 後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
加賀谷 恵美子		看護部・看護教育機関における管理者・教育者としての実務経験あり。						
授業の概要		看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。						
学習者への期待 (含む準備学習)		“タイムマネジメント”・“優先順位”・“チーム医療”・“組織の中でのそれぞれの看護師の役割”について考える機会にしてほしい。						
実 習 内 容								
<p>【実習期間】 3年次 8月～10月</p> <p>【実習目的】 看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。 また、看護の意義について考え、療養する人々とその家族の健康上及び日常生活上の問題を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の果たす役割を認識して行動できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病棟管理の実際や、他部門との調整等の見学を通して看護マネジメントについて理解する。 2 複数の患者を受け持ち、患者の状況のアセスメントやケアの優先順位の判断、時間管理し、適切な看護の提供を考えることができる。 3 チームリーダーの役割、チームメンバーの役割を理解し、業務の調整や、医師や他部門との連携・協働、及びチームの一員としての役割が理解できる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院において複数の患者を受け持ち、情報収集し優先順位の根拠を考え必要な援助をグループで協力し実践する。 ・看護チームに対する理解をふかめるため、チームリーダーからの説明や行動を共にし、退院調整などの他職種を交えたカンファレンスに参加することでチーム医療の実際を学ぶ。 ・看護管理の業務を知るために、看護師長からの説明や行動を共にし、管理の実際を学ぶ。 								
教科書		既習の教科科目及び参考図書						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		※詳細は実習要項を参照						

第4回生

学籍番号

氏名

葵会仙台看護専門学校

(TEL 022-380-1122)

2022年度

シラバス

第2学年（第5回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

4回生：教育課程・学科進捗表

科目名		内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の 基礎	論理学	1	30		30					
		情報科学	1	30		30					
		看護物理学	1	15	15						
	人間と生活・社会の理解	音楽	1	30	30						
		倫理学	1	30			30				
		心理学	1	30		30					
		教育学	1	30			30				
		社会学	1	30	30						
		医療英語 I	1	15	15						
		医療英語 II	1	30		30					
		運動と健康	1	30	30						
		人間関係論	1	30	30						
		ホスピタリティ論	1	15	15						
	小計		13	345	165	120	30	30	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30					
		人体構造・機能学 II	呼吸器系 循環器系 泌尿器系	1	30	30					
		人体構造・機能学 III	消化器系 血液 内分泌系	1	30	30					
		人体構造・機能学 IV	神経系 免疫系 生殖系	1	30		30				
		生化学		1	30	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物		1	30	30					
		栄養学		1	30		30				
		病態治療学 I	概論	1	30		30				
		病態治療学 II	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30		30				
		病態治療学 III	消化器 内分泌・代謝	1	30		30				
		病態治療学 IV	運動器 脳・神経 神経内科	1	30		30				
		病態治療学 V	皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 歯・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器	1	30		30				
		病態治療学 VI	外科総論 外科各論 放射線治療 臨床検査	1	30			30			
		薬理学		1	30		30				
		リハビリテーション論		1	15			15			
	社会保健と健康支援	総合医療論		1	15	15					
		公衆衛生学		1	15			15			
		社会保障		1	15			15			
		社会福祉		1	15			15			
		看護関連法令		1	15					15	
		経済と看護		1	15					15	
	小計		21	525	165	240	90	0	15	15	
	専門分野 I	基礎看護学	看護学概論		1	30	30				
			基礎看護学援助論 I	コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30				
基礎看護学援助論 II			ヘルスクエアセスメント	1	30	15	15				
基礎看護学援助論 III			活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	15	15				
基礎看護学援助論 IV			清潔・衣生活	1	30	30					
基礎看護学援助論 V			食事 排泄	1	30		30				
基礎看護学援助論 VI			看護過程	1	30		30				
基礎看護学援助論 VII			呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15		15				
基礎看護学援助論 VIII			薬物療法と看護 診察・検査に伴う看護	1	30		30				
基礎看護学援助論 IX			健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護 治療処置を受ける対象者への看護 創傷管理技術	1	30		30				
小計			10	285	120	165	0	0	0	0	
基礎看護学実習 I			1	45	45						
基礎看護学実習 II			2	90				90			
小計		3	135	45			90				
専門分野 I 小計		13	420	165	165	0	90	0	0		
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論 I	系統別健康問題のある患者への看護援助	1	30			30			
		成人看護学援助論 II	系統別健康問題のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30			30			
		成人看護学援助論 III	手術療法を受ける患者の看護 急性機能不全患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論 IV	手術を受ける患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論 V	慢性期・周手術期の看護技術 がん看護	1	30				30		
	小計		6	180	0	30	90	60	0	0	
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論 I	老年期のヘルスクエアセスメント 日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論 II	老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15				15		
	小計		4	105	0	30	60	15	0	0	
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		小児看護学援助論 I	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30			30			
		小児看護学援助論 II	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30				30		
		小児看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15				15		
	小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論 I	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30			30			
		母性看護学援助論 II	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30				30		
		母性看護学援助論 III	褥婦の看護過程	1	15				15		
	小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		精神看護学援助論 I	精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30			30			
精神看護学援助論 II		精神看護とサポート	1	30			30				
精神看護学援助論 III		看護過程の展開	1	15				15			
小計		4	105	0	30	60	15	0	0		
臨床実習	成人看護学実習 I		3	135					135		
	成人看護学実習 II		3	135					135		
	老年看護学実習 I	(老人保健施設実習 30時間含む)	2	90				90			
	老年看護学実習 II		2	90					90		
	小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)	2	90					90		
	母性看護学実習		2	90					90		
	精神看護学実習		2	90					90		
小計		16	720				225	495			
専門分野 II 小計		13	810	0	90	330	405	495	0		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	看護の対象と目的 関連する制度	1	30		30				
		在宅看護援助論 I	在宅療養を支える看護技術 (日常生活)	1	15			15			
		在宅看護援助論 II	在宅療養を支える看護技術 (医療)	1	30				30		
		在宅看護援助論 III	在宅援助技術 (看護過程)	1	30				30		
	小計		4	105	0	30	15	60	0	0	
	看護の統合と実践	看護研究の基礎		1	30				30		
		看護管理と医療安全		1	30					15	
		災害・国際看護学		1	15					15	
		臨床実践の統合		1	30					15	
		小計		4	105	0	0	0	0	45	
臨床実習	在宅看護論実習		2	90					90		
	統合実習		2	90					90		
小計		4	180					90			
統合分野 小計		12	390	0	0	15	60	135	120		
講義時間 総計			74	1965	450	645	465	270	60	45	
実習時間 総計			23	1035	45	0	30	315	585	90	
総時間数			97	3000	495	645	500	585	675	135	

2年次 学科目

科目名		内容	単位数	時間数	2学年		
					前期	後期	
人間と生活・社会の理解	音楽						
	倫理学		1	30		30	
	心理学						
	教育学		1	30	30		
	社会学						
	医療英語 I						
	医療英語 II						
	運動と健康						
	人間関係論	家族論含む					
	ホスピタリティ論						
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物						
	栄養学						
	病態治療学 I	概論					
	病態治療学 II	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器					
	病態治療学 III	消化器 内分泌・代謝					
	病態治療学 IV	運動器 脳・神経 神経内科					
	病態治療学 V	皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 歯・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器					
	病態治療学 VI	外科総論 外科各論 放射線治療 臨床検査	1	30	30		
	薬理学						
リハビリテーション論		1	15	15			
社会健康支援と社会保障制度	総合医療論						
	公衆衛生学		1	15	15		
	社会保障		1	15	15		
	社会福祉		1	15	15		
	看護関連法令						
	経済と看護						
	基礎看護学実習 II		1	90		90	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的				
		成人看護学援助論 I	系統別健康問題のある患者への看護援助	1	30	30	
		成人看護学援助論 II	系統別健康問題のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30	30	
		成人看護学援助論 III	手術療法を受ける患者の看護 急性機能不全患者の看護	1	30	30	
		成人看護学援助論 IV	手術を受ける患者の看護	1	30		30
		成人看護学援助論 V	慢性期・周手術期の看護技術 がん看護	1	30		30
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的				
		老年看護学援助論 I	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助	1	30	30	
		老年看護学援助論 II	老年期の健康障害時の看護	1	30	30	
		老年看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15		15
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30	30	
		小児看護学援助論 I	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30	30	
		小児看護学援助論 II	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30		30
		小児看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15		15
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30	30	
		母性看護学援助論 I	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30	30	
		母性看護学援助論 II	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30		30
		母性看護学援助論 III	褥婦の看護過程	1	15		15
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的				
		精神看護学援助論 I	精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30	30	
		精神看護学援助論 II	精神看護とサポート	1	30	30	
		精神看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15		15
	臨地実習	成人看護学実習 I		3	135		135
		成人看護学実習 II					
		老年看護学実習 I	(老人保健施設実習 30時間含む)	2	90		90
		老年看護学実習 II					
		小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)				
母性看護学実習							
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	看護の対象と目的 関連する制度				
		在宅看護援助論 I	在宅療養を支える看護技術 (日常生活)	1	15	15	
		在宅看護援助論 II	在宅療養を支える看護技術 (医療)	1	30		30
		在宅看護援助論 III	在宅援助技術 (看護過程)	1	30		30
	看護の統合と実践	看護研究の基礎		1	30		30
		看護管理と医療安全					
		災害・国際看護学					
		臨床実践の統合					
総計			36	1080	465	615	
					1080		

領域	基礎分野 (科学的思考の基礎)		科目	教育学		担当	本間 明信	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
本間 明信		宮城教育大学、教育学部および教職大学院（修士）において教授（教授学） 授業研究、教育の方法・技術、教育臨床論、など担当						
到達目標		教育により人間は人間になる。だから「人間とは何か」を考えるのが教育学である。すべての人が生きている限り考え続けなければならない。						
授業概要		興味深い事例・活動を通して、人間特有の活動に興味を喚起する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		堅苦しくなく、「教育」を身近に感じ、看護に結びつけてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	教育学の定義・教育の意味						講義	
2	ルソーの教育、コメニウスの教育						講義	
3	林竹二「人間について」						講義	
4	学習と発達（自己教育） 「視覚論」						講義	
5	動物における発達（視覚2）						講義	
6	教授学習過程における無意識（体系と教育1）						講義	
7	無意識の意味（ユング心理学）						講義	
8	生活のなかで行われる教育（特別な日）・・・「星座」						講義	
9	積極的に相手の気持ちを知る（発問論）						講義	
10	心の変化と身体の変化（心と身体1）						講義	
11	表情の獲得と発達（心と身体2）						講義	
12	集団の中の感情の変化・連動						講義	
13	教えるための体系（体系と教育2）化学と音楽						講義	
14	メディアの教育						講義	
15	単位認定試験・まとめ						試験	
教科書		なし。毎回の資料による学習。						
参考文献		毎回資料を紹介する。						
備考								

領域	基礎分野			科目	倫理学	担当	菅原 宏道		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	課題	50%		
						単位認定試験	50%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
菅原 宏道									
到達目標		医療の発展や生命科学の進展によって生じている、人間の生命や医療に関する倫理（哲学）的、社会的問題について、医療者として、患者・家族として、そして社会の市民として考えることで、それらについての自分自身の考えを根拠とともに表現できるようになる。							
授業概要		倫理的な考え方、概念、理論を理解する。そして、人間の生命や医療に関する倫理（哲学）的、社会的な諸問題が一般にどのように議論され、公的に規定されているかを学び、各問題に対して自分自身の考えをまとめてもらう。理解とリアリティの促進のため、映画と数回の動画を観ます。							
学習者への期待 (含む準備学習)		私たちは生殖によって生まれ、状況ごとに判断と行為をなし、時に変遷する人生観を持ちながら、他者とともに社会に生き、いつかは死にゆく。講義では、そうした一般的、抽象的な生からいったん離れ、諸問題を、自分自身が直面しているリアルな事象と観て取り組んで欲しいと思います。なお、最低限のこととして、授業で学んだことを整理して理解した上で、知識として定着させてください。							
回数	単元	授業計画						授業方法	
1	イントロダクション	ヒトと人、事実と価値の違いについて考える。						講義	
2	自己理解	自分とはどのような存在であるかについて考える。						講義	
3	原則の倫理と徳倫理	自分（医療者）は「どうすべきか」と「どうあるべきか」との違いについて考える。						講義	
4	他者理解	自分と他者はどのように違うのかについて考える。						講義	
5	生殖医療と優生思想	子どもを産むために、どのまで医療を用いてよいかについて考える。						講義	
6	人工妊娠中絶	子どもを産むことと、産まないことについて考える。						講義	
7	健康と医療化	他者より賢くない、強くない、美しくないことはよくないことなのかについて考える。						講義	
8	老化と寿命	不老不死はのぞましいことなのかについて考える。						講義	
9	幸せと病の告知	幸せであるとはどういうことかについて考える。						講義	
10	人生の最終段階	映画を観て、終末期患者の人生観や終活について考える。						講義	
11	ICと意思決定	パターナリズムと患者の自己決定について考える。						講義	
12	脳死と臓器移植	ヒトの死と人の死は違うのかについて考える。						講義	
13	安楽死	患者自身が望むなら、死なせてあげるのがよいのかについて考える。						講義	
14	専門職の倫理	医療者と患者・家族との関係について考える。						講義	
15	単位認定試験と解説						試験・講義		
教科書		『マンガで学ぶ生命倫理』、児玉聡（著）、化学同人、2013年							
参考文献		『入門・医療倫理Ⅰ（改訂版）』、赤林朗（編）、勁草書房、2017年							
備考		配布する自作のレジユメを主とし、教科書を従とします。必要に応じて資料も配付します。							

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学VI		担当	宮本 慶一(20) 庄司 好己(4)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
宮本 慶一		消化器外科医師として病院勤務。資格：医学博士、外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、消化器病専門医、がん治療認定医、消化器がん外科治療認定医、食道科認定医						
庄司 好己		病院長として勤務。資格：医学博士、日本胸部外科学会認定医、日本外科学会認定医						
到達目標		【外科総論】外科療法における手術侵襲と生体反応について理解する。術後合併症の原因、病態の対応法について理解すると共に術後疼痛管理の重要性を理解する。手術に必須な手技である麻酔法と輸血管理について理解する。 【外科各論】頭頸部から腹部まで外科的疾患の診断治療について理解する。						
授業概要		外科的疾患に関連する病態・治療、麻酔について理解する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	外科総論		1 手術侵襲と生体反応、炎症			講義・宮本 慶一		
2			2 ショック、播性血管内凝固症候群（DIC）多臓器不全					
3			3 術後合併症とその対策 術後疼痛管理					
4			4 麻酔法、輸液管理					
5	外科各論		5・6 頭頸部、肺、胸部			講義・庄司 好己		
6								
7			7・8 心臓、脈管系			講義・宮本 慶一		
8								
9			9・10 消化器および腹部			講義・宮本 慶一		
10								
11			11・12 救急			内部講師		
12								
13	13・14 学習のまとめ			内部講師				
14								
15	単位認定試験					試験		
教科書								
参考文献		系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 医学書院						
備考								

領域	専門基礎分野		科目	リハビリテーション論		担当	工藤 尚哉 田邊 理 菊池 佑馬		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
工藤 尚哉		理学療法士として病院勤務							
田邊 理		リハビリスタッフとして病院及び老健施設での勤務経験を有す							
菊池 佑馬		リハビリスタッフとして病院及び老健施設での勤務経験を有す							
到達目標		人間が人間として権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学ぶ。 リハビリテーションの理念とチーム医療における看護師の役割を理解する。							
授業概要		リハビリテーション概要と障害・状態別リハビリテーションの実際について講義を通して学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		教科書を事前学習し不明な点は明確にすることを習慣にしてリハビリテーションの理解に臨むこと。							
回数	授業内容						授業方法・担当		
1	リハビリテーションの基本的考え方 (1) リハビリテーション理念 (2) リハビリテーションの対象と目標 (3) リハビリテーションの種類と特徴						講義・工藤		
2	チームで取り組むリハビリテーション (1) チームケアの必要性 (2) チーム間の連携の在り方						講義・工藤		
3	リハビリテーションにおける評価 (1) リハビリテーション医療における到達目標と評価 (2) 障害の評価						講義・工藤		
4	障害・症状別リハビリテーションの実際 (1) 内部障害：呼吸器・心疾患のリハビリテーション						講義・菊池		
5	(2) 身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション (リハビリの実際)						講義/演習・菊池		
6	(3) 身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション (高次脳機能障害を含む)						講義・田邊		
7	(4) 在宅でのリハビリテーション						講義・田邊		
8	単位認定試験								
教科書		系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野	科目	公衆衛生学			担当	萩原 潤	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
萩原 潤								
到達目標		公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。						
授業概要		環境と人との関わりや、保健統計などによる現在の社会の状態を学んだ上で、健康にとって有害な要因を取り除くための社会に取り組みについて学習する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		自分が所属する自治体のこと、そして自身の周りにある健康や保健に関する社会的な取り組みを調べてみてください。						
回数	授業内容						授業方法	
1	公衆衛生の概念と歴史		公衆衛生の活動対象				講義	
2	公衆衛生のしくみ		環境と健康 1				講義	
3	環境と健康 2						講義	
4	感染症とその予防策		国際保健				講義	
5	地域保健 1						講義	
6	地域保健 2						講義	
7	学校と健康		職場と健康		健康危機管理・災害保健			講義
8	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院						
参考文献		鈴木庄亮ほか「シンプル衛生公衆衛生学」南光堂、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会						
備考								

領域	専門基礎分野		科目	社会保障		担当	村山 くみ		
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
村山 くみ									
到達目標		社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。							
授業概要		講義では、社会保障制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深めます。							
学習者への期待 (含む準備学習)		予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておいてください。 復習：授業で使用したプリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめてください。							
回数	授業内容					授業方法			
1	現代社会の理解					講義			
2	変動する現代社会と社会保障（定義・理念・機能）					講義			
3	社会保障の展開（歴史）					講義			
4	医療保障制度					講義			
5	介護保険制度					講義			
6	所得保障制度					講義			
7	生活保護制度					講義			
8	単位認定試験と解説					試験			
教科書		守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい							
参考文献		系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院							
備考									

領域	専門基礎分野	科目	社会福祉	担当	村山 くみ	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験 90% 受講態度 10%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
村山 くみ						
到達目標	社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。					
授業概要	講義では、社会福祉制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深めます。					
学習者への期待 (含む準備学習)	予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておいてください。 復習：授業で使用了プリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめてください。 その他：福祉に関するさまざまなニュースに目を通すよう心掛けてください。					
回数	授業計画				授業方法	
1	社会福祉と私たちの生活・社会福祉の実施体制と実施機関				講義	
2	児童家庭福祉				講義	
3	障害者福祉				講義	
4	高齢者福祉				講義	
5	地域福祉				講義	
6	ソーシャルワーク実践				講義	
7	保険医療と福祉の連携				講義	
8	単位認定試験と解説				試験	
教科書	守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい					
参考文献	系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院					
備考						

領域	専門基礎 I	科目	基礎看護学実習 II	担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
2年次	後期	2単位	90時間	12日間	実習	事前学習、実習中の行動・態度、提出された記録類など実習にかかわる全てのプロセスを評価の対象とする。
担当者名	担当講義に関する実務経験					
宇野由佳	臨床における看護実践経験有					
授業概要	学習した知識を実践の場において統合し、一人の対象との関わりを深め、看護過程を実践して看護の思考過程を学ぶ。特に対象に必要な基本的な日常生活援助方法を考え、看護師と共に指導を受けながら実践する。					
学習者への期待 (含む準備学習)	良い看護を行うためには、対象をしっかり理解することが大切です。三重の関心を持ってその人の持てる力に働きかける関わりをしましょう。分からないことは、文献で調べ、それでもわからないときは、質問していきましょう。					
実習内容						
<p>I 実習目的</p> <p>対象に三重の関心を寄せ、対象の理解を深めながら、一連の看護過程を実践し看護の思考過程を学び看護について考える。</p> <p>II 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 からだ・こころ・社会関係がつながっていることを理解し、一人の生活者として全人的に対象を捉えることができる。 2 一連の看護過程を実践し、看護の思考過程を理解できる。 3 実施したことを振り返り、看護について考えることができる。 4 学生として責任のある行動をとり、主体的に学びを深める。 <p>III 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病院施設で実習を行う。 2 グループを編成し、1病棟1グループ配置する。 3 実習時間 原則 8:30 ~ 16:00 (病棟: 9:00~15:00) 4 1名の学生が、対象1名を受持ち、対象に必要な看護援助を計画・実施・評価する。 5 受持ち患者への看護援助は、実習指導者または教員の助言・指導のもと実践する。 6 カンファレンスの運営は、学生主体で行い、学生同士での学びを共有する。 <p>*詳細は実習要項を参照する</p>						
教科書	『科学的看護論』及び基礎看護学領域で使用したテキスト、配付プリントを活用					
参考文献	必要に応じて提示する					
備考	基礎看護学実習 I を履修していること					

領域	専門分野Ⅱ	科目	成人看護援助論Ⅰ		担当	高野 岳史 飯牟禮 明子 斉藤 香織	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
高野 岳史		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。					
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。					
斉藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。					
達成目標		消化器系機能障害・内分泌代謝系に機能障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。また、手術療法における生体反応や術後合併症について理解できる。					
授業概要		系統別に消化器系機能障害・内分泌代謝系に機能障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。また、手術療法における生体反応や術後合併症について学ぶ。					
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしています。基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んで欲しい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	消化器系に障害のある対象の看護		消化器系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割 消化器系疾患の全体像			講義 高野 飯牟禮	
2			食道疾患を持つ患者の看護				
3			胃疾患を持つ患者の看護				
4			胆・膵疾患を持つ患者の看護				
5			肝疾患を持つ患者の看護①				
6			肝疾患を持つ患者の看護②				
7			腸疾患を持つ患者の看護				
8	内分泌・代謝系に障害がある対象の看護		内分泌・代謝系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割 内分泌・代謝系疾患の全体像			講義 高野	
9			視床下部・下垂体疾患を持つ患者の看護 甲状腺・副甲状腺疾患を持つ患者の看護				
10			副腎疾患を持つ患者の看護 内分泌疾患を持つ患者の看護				
11			代謝疾患（糖尿病他）を持つ患者の患者の看護				
12	手術を受ける患者の看護		急性期・周手術期看護ガイダンス 手術前・中の看護			講義 斉藤	
13			手術後看護① 生体侵襲 手術後合併症とその予防				
14			手術後看護② 創傷治癒過程 回復促進へ向けての看護				
15	単位認定試験 講義まとめ						
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [5] 消化器 [6] 内分泌・代謝 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護					
参考文献		随時提示					

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護援助論Ⅱ		担当	齊藤 香織 飯牟禮 明子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
齊藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
達成目標		呼吸器系機能障害・脳神経系機能障害・運動器系機能障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。						
授業概要		系統別に呼吸器系機能障害・脳神経・運動器系機能障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。						
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしています。基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んで欲しい。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	呼吸器系に障害のある 対象の看護		呼吸器系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割			講義 齋藤		
2			呼吸器の症状・アセスメント・看護					
3			呼吸感染症、慢性閉塞性肺疾患の患者の看護					
4			肺癌・肺切除術を受ける患者の看護					
5			気胸・胸腔ドレーンを挿入している患者の看護					
6	脳・神経系に障害のある 患者の看護		脳・神経系に障害をもつ対象の特徴と看護の役割			講義 齋藤 飯牟禮		
7			脳・神経の症状・検査・アセスメント・看護					
8			脳疾患をもつ患者の看護①					
9			脳疾患をもつ患者の看護②					
10			脳・神経系の感染症の患者の看護					
11			脱髄・変性疾患と末梢神経障害をもつ患者の看護					
12	運動器に障害のある 患者の看護		運動器系に障害をもつ対象の特徴と看護の役割			講義 齊藤		
13			運動器の症状・検査・アセスメント・看護					
14			外因性・内因性の運動器疾患をもつ患者の看護					
15	単位認定試験 講義まとめ							
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [2]呼吸器 [7]脳・神経 [10]運動器 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		随時提示						

領域	専門分野Ⅱ	科目	成人看護援助論Ⅲ			担当	内田 祝子 鈴木 晴美				
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法					
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%				
担当者名		担当講義に関する実務経験									
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。									
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。									
達成目標		循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の機能障害およびアレルギー・膠原病・感染症をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。									
授業概要		系統別に循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の機能障害およびアレルギー・膠原病・感染症をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。									
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしています。基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んで欲しい。									
回数	単元		授業内容			授業方法・担当					
1	循環器系に障害のある 対象の看護		循環器障害をもつ対象の特徴と看護の役割 冠動脈疾患と症状、アセスメント、看護			講義 内田					
2			ペースメーカ挿入する患者の看護								
3			弁膜症をもつ患者の看護								
4			心不全をもつ患者の看護								
			血管系に障害をもつ患者の看護								
5			心臓手術（開胸術）を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション								
6	腎・泌尿器系に障害のある 患者の看護		腎・泌尿器系に障害のある患者の特徴と看護			講義 鈴木					
7			主な症状の観察とアセスメント								
8			検査・治療を受ける患者への看護								
9			腎機能障害をもつ患者の看護								
10	血液・造血器系に障害のある 患者の看護		血液・造血器系に障害のある患者の特徴と看護			講義 鈴木					
12			主な症状の観察とアセスメント								
13	アレルギー・膠原病・感染症のある 患者の看護		アレルギー・膠原病・感染症のある患者の特徴と看護						鈴木		
14			主な症状の観察とアセスメント								
15	単位認定試験 講義まとめ										
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [3] 循環器 [4] 血液・造血器 [8] 腎泌尿器 [11] アレルギー・膠原病・感染症器 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護									
参考文献		随時提示									

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学援助論Ⅳ		担当	内田 祝子 高野 岳史 飯牟禮 明子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	レポート 演習態度	80% 20%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
高野 岳史		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
到達目標		成人期における対象者が最良の健康状態を維持するために、実在または顕在する健康問題や健康問題が与える生活への影響を考え系統的で意図的な手段や方法について理解できる。 紙上事例を通して急性期および周手術期にある患者・家族の看護過程を展開できる。						
授業概要		成人期における対象者が最良の健康状態を維持するために、実在または顕在する健康問題や健康問題が与える生活への影響を考え系統的で意図的な手段や方法について、事例を通して一連の思考過程を学習する。						
学習者への期待		アセスメントするために病態や症状、生体反応など既習科目の復習や事前学習を行い授業に臨む。また、臨地実習を意識し記録が遅れないよう真剣に看護過程の展開に取り組んで欲しい。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	成人期の看護過程		看護過程の基盤となる考え方 看護診断の意義と目的			講義 演習 内田		
2			情報分類の枠組みと情報の整理（ゴードンの機能的健康パターン） アセスメントの方法					
3			関連図の意味と目的・作成方法、 統合（検証）の意味と方法					
4			看護目標の設定方法、看護計画・評価の方法					
5			各病期の看護過程の特徴					
6 7	周手術期の看護過程 展開の実際		周手術期のアセスメントの特徴 術前：情報の整理、アセスメント（分析・解釈）			講義 演習 高野 飯牟禮 他		
8			関連図の作成					
9			術前：統合（検証、仮診断から確定診断）、確定診断、 看護目標、看護計画作成					
10 11			術後：情報の整理、アセスメント、仮診断、全体像、統合					
12 13			術後：確定診断、看護目標、看護計画立案					
14			実施・評価					
15	看護過程のまとめ							
教科書		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 2. NANDA-I看護診断（第11版）2021-2023 医学書院 3. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 4. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 5. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 6. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 7. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 8. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		1. 江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 2. 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研						

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学援助論Ⅴ		担当	鈴木 晴美 齊藤 香織 飯牟禮 明子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験 演習態度	70% 30%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
齊藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す。						
到達目標		がんの特殊性を多角的に捉え、患者・家族のQOLを高め、患者と家族が主体的に生きるための看護支援、人生の最期の時を支える看護について理解する。 急激健康破綻をきたした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、生命の危機的状況に働きかける看護能力を養う。						
授業概要		がんや終末期にある成人・家族に対して生活を支える看護援助方法について学習する。 急激に健康破綻を来たした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、心身の侵襲に伴う変化への対応と回復への適応がはかれる看護技術について学習する。						
学習者への期待		これまで学習した基礎看護学・病態治療学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識と技術を想起させ関連づける。また、演習へは集中力と緊張感をもって積極的に臨んで欲しい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	がん看護		がんの特殊性、予防・早期発見・患者のQOL、倫理的問題				講義 鈴木	
2			がん治療に対する看護					
3			がん看護①					
4			がん看護②					
5	急性機能不全患者の看護		救急看護①				講義 齊藤	
6			救急看護②					
7			集中治療室の看護					
8 9	急性期・周手術期の看護技術		急性期・周手術期技術演習ガイダンス 手術後の観察、観察方法、観察後の報告				講義 演習 齊藤 飯牟禮 他	
10 11			呼吸・循環状態・意識状態などの観察、アセスメント					
12 13			呼吸器合併症の予防技術・早期離床の促進技術					
14	急性期看護・看護技術のまとめ							
15	単位認定試験 講義まとめ							
教科書		1. 山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 2. 小松浩子他：系統看護学講座 別巻 がん看護学 3. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 4. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 5. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 7. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		随時提示						

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅰ		担当	猪狩 綾		
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	80%	レポート	20%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり。							
到達目標		1 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解できる。 2 老年者の特性をふまえた援助方法を理解できる。 3 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解できる。							
授業概要		加齢変化、疾患、障害を関連してとらえ、基本動作を基盤とした生活行為と生活リズムの援助技術を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		老化に伴う生理的变化と疾患とのつながりを理解し予防的な関わりについて学んでほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法・担当		
1	4章 高齢者のヘルスアセスメント		A ヘルスアセスメントの基本				講義		
2			B 身体の高齢変化とアセスメント（皮膚・視聴覚）				講義		
3			（循環系・呼吸系・消化器系・ホルモン・泌尿生殖器系・運動系）				講義		
4	5章 高齢者の生活機能を整える看護		A 日常生活を支える基本的活動（基本動作と環境）				講義		
5			〃 （転倒・廃用症候群のアセスメントと看護）				講義		
6			B 食事・食生活 アセスメントと看護				講義		
7			口腔の変調・嚥下機能（とろみ剤の使用）				講義/演習		
8			C 排泄 アセスメントと看護				講義		
9			排泄障害（臥位・立位でのおむつ交換）				講義/演習		
10			D 清潔 アセスメントと看護				講義		
11			清潔のケア				講義		
12			E 生活リズム アセスメントと看護				講義		
13			F コミュニケーション アセスメントと看護				講義		
14	G セクシャリティ・社会参加				講義				
15	単位認定試験		単位認定試験 まとめ				試験/講義		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅱ		担当	猪狩 綾 高橋 さくら 吉村 裕子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
本木 泉		病院及び老健施設での老年看護実務経験をあり。						
到達目標		1 老年者に特有な健康障害が理解できる。 2 健康障害に応じた援助方法が理解できる。						
授業概要		老年特有な疾患理解とともに、生活障害や合併症・二次障害を踏まえ、どのような場面でのような看護が実践されているのかを学んでいく。						
学習者への期待 (含む準備学習)		老化や生活習慣などによってどのような疾患がおきやすいか、予防も含め必要な看護を学んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	検査・治療を受ける高齢者への看護		(1) 入院治療と看護 検査と看護 栄養ケアマネジメント				講義 高橋	
2			(2) 薬物療法と看護				講義 高橋	
3			(3) 放射線療法・化学療法と看護				講義 高橋	
4			(4) 手術療法と看護 (5) リハビリテーションと看護				講義 高橋	
5	疾患を持つ高齢者への看護		1 老年特有の疾患 (1) 脳卒中 (2) 心不全(うっ血性心不全) (3) パーキンソン病・パーキンソン症候群				講義 高橋	
6			(4) インフルエンザ (5) 肺炎 (6) 感染性胃腸炎 (7) 糖尿病 (8) 慢性閉塞性肺疾患 (9) 骨粗鬆症 (10) 骨折 (11) 褥瘡				講義 高橋	
7								
8								
9								
10	認知機能障害のある高齢者の看護		(1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症				講義 高橋	
11	エンド・オブ・ライフケア		(1) エンド・オブ・ライフケアの概念 (2) 「生ききる」ことを支えるケア (3) 意思決定への支援 (4) 末期段階に求められる援助				講義 高橋	
12	生活・療養の場における看護の展開		(1) 高齢者とヘルスプロモーション (2) 保健医療福祉施設及び居住施設における看護				講義 猪狩 吉村	
13			(3) 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 (4) 多職種連携実践による活動				講義 猪狩 吉村	
14	高齢者のリスクマネジメント		(1) 高齢者と医療安全 (2) 高齢者と救命救急 (3) 高齢者と災害				講義 猪狩 吉村	
15	単位認定試験		単位認定試験 まとめ				試験/講義	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院						
参考文献		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						
備考								

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅲ		担当	猪狩 綾 高橋 さくら 吉村 裕子		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義 演習	看護過程 レポート	80%	アクティビティ 評価	20%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟での老年看護実践経験あり。							
高橋 さくら		急性期・慢性期病棟での老年看護実践経験あり。							
到達目標		1 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護問題を理解する。 2 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。							
授業概要		生活機能をもとにアセスメントし実践場面で応用できる思考を養うために、高齢者の特徴的な事例を提供し考えさせる。							
学習者への期待 (含む準備学習)		事例をもとに、生活機能重視の高齢者の「もてる力」を引き出し、老化による廃用症候群の予防を組み込んだ看護計画を立案できるようになってほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法・担当		
1	看護過程の展開方法		高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 (1) 看護過程の展開方法 ゴードンによる機能的健康パターンとは 事例紹介				講義 高橋		
2	「大腿骨頸部骨折の高齢者」 看護過程の展開		(2) 情報とカテゴリー分類 (GW)				講義・演習 高橋		
3			(3) 高齢者の分析・解釈方法 情報の分析・解釈① (GW) 仮診断				講義・演習 高橋		
4			(4) 情報の分析・解釈② (GW) 仮診断				講義・演習 高橋		
5			(5) 関連図 (GW)				講義・演習 高橋		
6			(6) 仮診断の統合と検証 確定診断 (GW)				講義・演習 高橋		
7			(7) 看護目標・計画作成 (GW)				講義・演習 高橋		
8			(8) アクティビティ企画 (個人)				講義・演習 高橋 吉村		
教科書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院						
参考文献									
備考									

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	庄司 宗和 大沼 良美							
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法								
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	90%							
						レポート	10%	こども観 5% 自分史 5%						
担当者名		担当講義に関する実務経験												
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践, 看護教員, 看護全般にわたる経験を有す												
大沼 良美		小児専門病院での看護実践, 看護教員, 看護全般にわたる経験を有す												
到達目標		子どもの健康的な成長発達過程を学び、それぞれの過程の基本的な理解と子どもや家族を取り巻く社会環境を学びながら、小児看護の役割や課題について理解できる。												
授業概要		小児看護の特徴と倫理についての学習を基に、子どもの成長・発達の特徴と看護について学ぶ。さらに小児看護の対象となる家族を理解し子どもを取り巻く社会について学ぶ。												
学習者への期待 (含む準備学習)		子どもの成長発達の特徴と看護については国家試験にも多く取上げられる重要なところなので、予習をして臨んでほしい。												
回数	項目		授業内容				授業方法・担当							
1	小児看護の特徴と理念		小児看護の目的 小児と家族の諸統計				講義・庄司							
2			小児看護の変遷と課題 小児看護における倫理虐待と看護				講義・庄司							
3			こども観とは				演習・庄司							
4														
5	子どもの成長発達		子どもの成長発達と評価				講義・庄司							
6			新生児・乳児期				講義・庄司							
7														
8														
9									幼児期				講義・庄司	
10														
11			学童期・思春期				講義・庄司							
12														
13	家族の特徴とアセスメント		家族とは 現代家族の特徴 家族アセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 ・予防接種 ・学校保健				講義・大沼							
14	病気や障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害が子どもと家族に与える影響子どもの健康問題と看護 入院中の子どもと家族の看護外来、在宅療養中の子どもと家族の看護				講義・大沼							
15			単位認定試験 解説				試験・庄司							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学概論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ												
参考文献														
備考														

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅰ		担当	庄司 宗和 大沼 良美	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	70%	
						レポート	30%	プレパレーション10% 技術演習 20%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		子どもの健康障害によって生じる諸問題を理解し、それに伴う適切な看護援助方法が理解できる。						
授業概要		子どもを取り巻くさまざまな諸問題に対する適切なアセスメント方法と看護援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学についての復習をして臨むことを期待する。						
回数	項目		授業内容			授業方法・担当		
1	病気や障害を持つ 子どもと家族の看護		慢性期、急性期にある子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護			講義・庄司		
2			周手術期、終末期の子どもと家族の看護					
3	プレパレーション		プレパレーション			演習・庄司		
4			・講義、ガイダンス、事例紹介					
5			・ロールプレイ発表 ・まとめ、総括					
6	身体のアセスメント 子どもが示す症状と 看護		アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント1			講義・大沼		
7			身体的アセスメント2					
8			症状を示す子どもの看護					
9	検査・処置を受ける 子どもの看護		検査、処置時の看護			講義・大沼		
10								
11	小児看護に必要な技術		・バイタルサインの測定・移動の援助 (抱っこ、ベビーカー) ・身体計測 ・抑制(おくる身法、点滴の固定方法) ・検査・処置時の看護(座薬、腰椎穿刺)			演習・大沼		
12								
13								
14								
15	単位認定試験 解説					試験・庄司		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ						
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版 ・児童虐待おかやま116人の提言 吉備人出版						

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅱ		担当	飯沼 一字 庄司 宗和 大沼 良美	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
飯沼 一字		東北大名誉教授・石巻赤十字看護専門学校長 認定NPO法人理事長・小児科専門医・小児神経専門医・てんかん専門医						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		子どもの疾患とそれらの病態及び治療法について理解し、そこから生じる諸問題への適切な看護援助方法が理解できる。						
授業概要		子どもの疾患やそれらの病態及び治療法、そこから生じる問題に対する看護援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学についての復習をして臨むことを期待する						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1. 子どもに関連する疾患の病態と治療		小児科とは・染色体異常・先天異常・新生児				講義・飯沼	
2			免疫疾患・アレルギー性疾患・自己免疫疾患				講義・飯沼	
3			感染症				講義・飯沼	
4			呼吸器疾患・循環器疾患				講義・飯沼	
5			消化器疾患・代謝性疾患・内分泌疾患				講義・飯沼	
6			血液、造血器疾患・悪性新生物				講義・飯沼	
7			腎・泌尿器および生殖器疾患・				講義・飯沼	
8			神経疾患・運動器疾患・精神疾患				講義・飯沼	
9	2. 主な疾患とその子どもの看護		染色体異常・先天異常と看護 代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患と看護				講義・庄司	
10			呼吸器疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護				講義・大沼	
11			感染症・事故・外傷と看護				講義・大沼	
12			循環器疾患・血液、造血器疾患と看護 消化器疾患・悪性新生物と看護				講義・大沼	
13			腎・泌尿器および生殖器疾患と看護				講義・庄司	
14			神経疾患・運動器疾患・皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患・精神疾患				講義・庄司	
15	単位認定試験 解説						試験・庄司	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院						
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版						

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学援助論Ⅲ		担当	庄司 宗和	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	1単位	15時間	8回	演習	グループワーク, レポート	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践, 看護教員, 看護全般にわたる経験を有す					
到達目標		演習を通して、子どもを対象とした看護過程の展開方法について学ぶことができる。					
授業概要		子どもの主要な疾患を中心にそれらの病態及び治療法について学び、その知識を基に紙上事例での看護過程の展開を行う。					
学習者への期待 (含む準備学習)		大切な基礎である病態をしっかりと学び、基礎看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。					
回数	単元	授業内容					授業方法・ 担当
1	看護過程の展開	看護過程の展開 (ガイダンス、グループワーク演習1)					演習・庄司
2		看護過程の展開 (グループワーク演習2), まとめ					
3		看護過程の展開 (グループワーク演習3), まとめ					
4		看護過程の展開 (グループワーク演習4), まとめ					
5		看護過程の展開 (グループワーク演習5), まとめ					
6		看護過程発表会					
7		看護過程発表会					
8		総括					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 科学的看護論 薄井坦子					
参考文献		ナースが見る病気 薄井坦子					
備考		<ul style="list-style-type: none"> 紙上事例の症例は脳性まひの事例を展開する。 評価は評価表に沿って行う。評価表は前もって学生に提示するものとする。 					

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	小長根恵美子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
小長根恵美子		助産師の資格を有し、臨床及び教育の経験も長い。					
到達目標		母性の概念と母性看護の意義・特性を理解し、母性看護の置かれている現状と動向をふまえて女性のライフサイクルにおける思春期・成熟期・更年期・老年期の母性看護のあり方が理解できる。 さらに母性看護を取り巻く、家族・性と生殖などの問題について学び理解することができる。					
授業概要		母性看護の概念の学習から始まり、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を学びつつ母性看護学の対象の理解に繋げていく。また、女性のライフステージ各期における看護についてはリプロダクティブ・ヘルツ/ライツの概念とともに学びを深める。					
学習者への期待 (含む準備学習)		女性を取り巻く感染症や、虐待を含めた社会の状況や喫煙の害などにも興味を持って学習に臨んで欲しい。					
回数	項目		授業内容			授業方法 担当教員	
1	母性看護の概念		母性看護の基盤となる概念：母性とは、母子関係と家族			講義	
2			セクシャリティ：セクシャリティとは、セクシャリティの発達と課題リプロダクティブ・ヘルツ/ライツヘルスプロモーション			講義	
3	母性看護を取り巻く社会の変遷と現状		母性看護の歴史の変遷と現状：母性看護の変遷			講義	
4			母性保健統計の動向			講義	
5			母性看護の対象を取り巻く環境			講義	
6	母性看護の対象の理解		女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化			講義	
7			女性のライフサイクルと家族			講義	
8			母性の発達・成熟・継承			講義	
9	女性のライフステージ各期における看護		思春期の健康と看護			講義	
10			成熟期の健康と看護			講義	
11			更年期、老年期の健康と看護			講義	
12	リプロダクティブヘルスケア		家族計画・性感染症予防・HIV感染症			講義	
13			喫煙・性暴力虐待			講義	
14			国際社会と看護			講義	
15			単位認定試験・まとめ			試験	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院					
参考文献		リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス 谷口真由美 南山堂 「若者の性」白書 第7回 日本児童教育振興財団 小学館					

領域	専門分野Ⅱ	科目	母性看護学援助論Ⅰ		担当	野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	2単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80% 小テスト・提出物（授業態度含む）20%	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す					
学習目標		1) リプロダクティブ・ヘルスの向上を目指した支援について学ぶ 2) 妊娠期における生理的变化とその特性を理解し、胎児の発育に伴って変化する母親の身体的・精神的特徴を学ぶ 3) 妊婦と胎児の健康の保持・増進のための、妊婦のセルフケア能力を高める援助について保健指導及び分娩・育児への準備等具体的な内容を学ぶ 4) 分娩期における正常経過を学び、分娩の進行に沿ってアセスメントの視点を具体的に学ぶ 5) 産婦や家族に必要な援助を学ぶ					
授業概要		妊婦及び家族援助について理解し、妊婦や胎児のアセスメント、保健指導、家族を含めた看護を学ぶ。また分娩期の産婦及び家族援助について理解し、アセスメントと看護の実際を学ぶ。					
学習者への期待 （含む準備学習）		母性看護学概論を復習し、母性看護学に興味をもち予習をしてから講義に臨んでほしい					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当	
1	母性の発達を促す看護	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって 出生前からのリプロダクティブヘルスケア				講義 野辺地	
2	妊娠期における看護	妊娠期における看護① 妊娠期の身体的特徴				講義 野辺地	
3		妊娠期における看護② 妊娠期の心理・心理的特性 妊婦と胎児のアセスメント①				講義 野辺地	
4		妊婦期における看護③ 妊婦と胎児のアセスメント② 妊婦と家族の看護				講義 野辺地	
5		妊婦の看護にかかわる技術① 妊娠カレンダーの作成（グループワーク）				講義・演習 野辺地	
6		妊婦の看護にかかわる技術② 妊娠カレンダーの作成（グループワーク）・発表				講義・演習 野辺地	
7		妊婦の看護にかかわる技術③ 演習 レオポルド触診法				講義・演習 野辺地	
8		分娩期における看護	分娩期における看護① 分娩の要素 分娩の経過				講義 野辺地
9	分娩期における看護② 産婦・胎児・家族のアセスメント				講義 野辺地		
10	分娩期における看護③ 分娩期の看護の実際				講義・演習 野辺地		
11	分娩期における看護④ 分娩期の看護の実際				講義・演習 野辺地		
12	妊娠・分娩期の異常	妊娠・分娩期の異常と看護①				講義 野辺地	
13		妊娠・分娩期の異常と看護②				講義・ 野辺地	
14		妊娠・分娩期の異常と看護③				講義 野辺地	
15	単位認定試験					試験	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院					
参考文献		ナーシンググラフィカ 母性看護技術					

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅱ		担当	野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80% 小テスト・提出物（授業態度含む）20%		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す						
到達目標		1.女性生殖器疾患を有する患者及び家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、看護援助について学ぶ 2.産褥・新生児期の各期の特徴を知り、必要な看護援助について学ぶ。 3.産褥・新生児期に起こりうる異常と看護について学ぶ 4.褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について学ぶ 5.褥婦及び新生児とその家族の看護支援方法を学ぶ						
授業概要		女性生殖器疾患を有する患者及び家族について理解し、ライフステージ各期における特徴的な病態生理と治療を必要な看護実践を考える。 褥婦・新生児及び家族看護の重要性を理解し、アセスメントと看護の実際を学ぶ。						
学習者への期待 （含む準備学習）		病態治療学・成人看護学援助論で学んだ知識を振り返り授業に臨むこと。母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子及び家族看護について考えてほしい。						
回数	単元	授業内容					授業方法 担当教員	
1	成人看護学 女性生殖器疾患を持つ 患者の看護	女性生殖器疾患患者の看護を学ぶにあたって 女性生殖器の構造と機能 患者の看護①					講義 野辺地	
2		患者の看護②					講義 野辺地	
3		患者の看護③					講義 野辺地	
4	新生児期における看護	新生児期における看護① 新生児の生理					講義 野辺地	
5		新生児期における看護② 新生児のアセスメント					講義 野辺地	
6		新生児の看護にかかわる技術①② 新生児の計測 バイタルサイン測定衣類の交換 おむつ交換 抱き方と寝かせ方 排気					講義・演習 野辺地	
7								
8	産褥期における看護	産褥期における看護①産褥経過・褥婦のアセスメント					講義 野辺地	
9		産褥期における看護②褥婦と家族の看護					講義 野辺地	
10		産褥期における看護③施設退院後の看護 ～退院指導について～					講義 野辺地	
11		産褥期における看護④母乳育児支援					講義・演習 野辺地	
12	新生児・産褥期の 異常	新生児・産褥期の異常①					講義 野辺地	
13		新生児・産褥期の異常②					講義 野辺地	
14		新生児・産褥期の異常③					講義 野辺地	
15	単位認定試験						試験	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学9 医学書院						
参考文献		ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 メディカ出版						

領域	専門分野Ⅱ	科目	母性看護学援助論Ⅲ		担当	野辺地 郁子					
開講年次	開講時期	単位	時間数	授業回数	授業形態	評価方法					
2年次	後期	I 単位	15時間	8回	講義 演習	課題提出	20%	看護過程	80%		
担当者名		担当講義に関する実務経験									
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す									
到達目標		妊娠・分娩・産褥・新生児各期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、看護に必要な健康状態のアセスメントの視点を学ぶ。また看護対象者の健康状態の促進やセルフケア能力を考え、ウェルネス志向で看護過程が展開できる方法を学習する。									
授業概要		産褥と新生児の特性や基礎的な看護技術の知識を活用し、事例をもとに看護過程を展開する。									
学習者への期待 (含む準備学習)		母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱの復習をし、講義に臨んでほしい。									
回数	単元	授業内容					授業方法・担当				
1	新生児期の看護	沐浴①②（沐浴・更衣・おむつ交換）					演習 野辺地				
2							演習 野辺地				
3	看護過程の演習	母性看護における看護過程 ウェルネス型看護診断について					講義・演習 野辺地				
4		看護過程の展開（講義・事例紹介・グループワーク①）					講義 野辺地				
5		看護過程の展開（グループワーク②）					演習 野辺地				
6		看護過程の展開（グループワーク③）					演習 野辺地				
7		看護過程の展開 （グループワーク演習：発表、事例展開の解説）					演習 野辺地				
8	まとめ					講義 野辺地					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版									
参考文献		ナーシンググラフィカ 母性看護技術 メディカ出版									

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の診断・治療及びケアの方法)		担当	中川 誠秀 吉村 淳 山田 和男 阿部 利寿	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
中川 誠秀		病院にて精神科医師として病院勤務						
吉村 淳		病院にて精神科医師として病院勤務						
山田 和男		病院にて精神科医師として病院勤務						
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり						
到達目標		1 自己を振り返り、自己洞察の必要性を理解する。 2 個人とそれを取り巻く人々の関係を理解する。 3 精神科におけるケアの基本を理解する。 4 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。						
授業概要		主な精神疾患・症状・検査や援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を理解する。また、自己の傾向性を踏まえながら基本的なコミュニケーション技術を用い治療的に対象と関わる方法を理解する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		ここで学ぶコミュニケーション・スキルはどの診療科に行っても通用しますので、確実に身に付けてください。疾患については十分に復習して理解することが望まれます。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	精神科における対象について		精神を病むことと生きること、 精神症状とは・さまざまな精神症状				講義・阿部	
2			ケアする相手について知る、関係性を理解する				講義・阿部	
3	ケアの人間関係		ケアの前提・原則 (人としての尊厳を尊重する、互いの境界をまもる)				講義・阿部	
4			ケアの方法 そばにいたること・遊びとユーモア・話す・聞く 演習(視線・立ち方・すわる位置・声のトーンなど)				講義/演習 阿部	
5	精神科での診断・治療・検査		統合失調症				講義・中川	
6			気分障害(双極性障害、及び関連障害、抑うつ障害)				講義・山田	
7			神経症性障害、ストレス関連障害、及び身体表現性障害、 神経発達障害、精神作用物質使用による精神及び行動障害				講義・中川	
8			生理的障害、及び身体的要因に関連した行動症候群、 パーソナリティ障害				講義・山田	
9			器質性精神障害、てんかん、認知症				講義・吉村	
10	集団の役割と援助の方法		全体としての家族・家族療法の考え方と技法、 集団の中の自己				講義・阿部	
11			人間と集団(グループダイナミクス、グループの実践)				講義・阿部	
12	サバイバーとしての患者と そのケア		受け入れがたい行動を示す患者たち				講義・阿部	
13			心的外傷への着目				講義・阿部	
14			回復への道程				講義・阿部	
15	単位認定試験と解説						客観テスト	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅱ (精神看護とサポート)		担当	藤田 亨 坂元 洋生 中野 弘枝	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
藤田 亨		精神科病棟看護師として病院勤務						
坂元 洋生		精神科病棟看護師として病院勤務						
中野 弘枝		精神科外来において実務経験あり						
到達目標		1 精神科看護の基本を理解する。 2 患者-看護師間における対人関係を保つための手法を理解する。 3 精神科における身体ケアを理解する。 4 地域における支援と地域リハビリテーションについて理解する。 5 看護における感情労働として、適切に自分の感情を管理し、対処する方法を理解する。						
授業概要		精神科における看護の役割を理解し、対人関係を保つための手法を学ぶ。また、精神科領域で生じやすい身体的症状や地域における支援と地域リハビリテーションについて学ぶ。更に感情労働としての側面を理解し、自己の感情コントロールと対処方法について学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		精神疾患をもつ対象者は、我々と変わりのない人々であることを理解すると共に、我々自身が感情労働に支配されることなく、燃え尽きないことが大切です。						
回数	項目		授業内容			授業方法・担当		
1	精神科における看護の役割		対象にとっての入院とは・入院治療のメリットとデメリット・入院時のアセスメントの必要性			講義・中野		
2			治療的環境を理解する・精神科病棟の特徴と看護師の役割			講義・中野		
3			安全をまもる (リスクマネジメントの考え方と方法・災害時のケア)			講義・中野		
4			緊急事態への対応 (自殺・暴力・離院、拘束)			講義・坂元		
5			回復を助ける1 (回復とは何か・回復を支えるさまざまなプログラム (SST含む))			講義・坂元		
6			回復を助ける2 (回復を支えるさまざまなプログラム：集団精神療法の実際)			講義・坂元		
7	患者-看護師関係における感情体験		転移・逆転移、感情の容器、肯定的感情と否定的感情、医療の場のダイナミクス (病棟・チーム・カンファレンスなど)			講義・藤田		
8			対処のむずかしい場面 (患者からの攻撃・拒否など)			講義・藤田		
9	身体ケアについて		精神科における身体ケアについて、身体にあらわれる心の痛み、精神療法としての身体ケア、抗精神病薬の有害反応、電気けいれん療法の看護			講義・藤田		
10			身体合併症、身体ケアの実際			講義・藤田		
11			睡眠について、自傷行為・心的外傷への着目と回復へのケア			講義・藤田		
12	地域における精神看護		地域で生活するための原則、生活を支える制度・地域で精神障害者を支援するための方法			講義・中野		
13			地域での看護の実際、学校と職場におけるメンタルヘルス対策			講義・中野		
14	看護における感情労働		看護師の不安と防御、感情労働としての看護、看護師の感情ワーク、看護における共感、感情労働の代償			講義・中野		
15	単位認定試験と解説					客観テスト		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅲ (看護過程の展開)		担当	阿部 利寿		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義 演習	レポート	90%	授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり							
到達目標		1 オレムのセルフケア理論の看護論を活用し、精神を病む対象の看護問題のとらえ方や看護計画の視点を理解する。 2 自己決定を促す看護を理解する。 3 生活援助の必要な精神疾患事例を通し精神看護を考察する。							
授業概要		統合失調症の模擬患者の事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を通して、精神障害を持つ対象及びその家族への理解を深める手立てとする。							
学習者への期待 (含む準備学習)		看護過程の展開は、精神疾患をもつ対象者であっても何ら変わりのないことを理解し、少しでも精神科実習への偏見が薄まることを期待します。							
回数	単元		授業内容				授業方法・担当		
1	関係をアセスメントする		関係のアセスメントの必要性 精神科におけるプロセスレコードの活用・事例提示				講義・阿部		
2			プロセスレコードをもとにグループワーク				講義/GW・阿部		
3	看護過程の展開		統合失調症患者の看護過程（講義）、 事例紹介、情報の整理及び分析（自己学習）				講義・阿部		
4			事例展開 情報の整理及び分析				演習・阿部		
5			事例展開 分析～問題点の抽出～関連図				演習・阿部		
6			事例展開 問題点の抽出～目標設定～看護計画立案				演習・阿部		
7			事例展開 実施、評価、修正の視点				演習・阿部		
8			看護過程のまとめ				講義・阿部		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院							
参考文献		ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーベルヒロカワ							
備考									

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)		担当	内田 祝子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期		3単位	135時間	1回	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験						
内田 祝子	成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す						
授業内容	慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に対象の持てる力を活用したセルフケアを目指し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論で積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んで欲しい。						
実習内容							
<p>【実習時期】 2年次12月下旬 ～ 3年次6月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴を理解し、発達段階に応じた健康障害と共に生きていくことを支える看護実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ対象の身体面・心理面・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 慢性疾患をもつ対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 慢性疾患をもつ対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるように対象の持てる力を活用したセルフケアを目指した看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 							
教科書							
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学実習Ⅰ		担当	猪狩 綾 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり。					
高橋さくら		急性期・慢性期病棟での老年看護実践経験あり。					
授業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターの制度上の意義と活動を理解し、健康維持やQOL向上のための活動に参加させていただく。 ・介護老人保健施設では入所者の方を受け持ち、生活支援を視点とした問題の抽出と残存機能を意識した日常生活援助の実践を学ぶ 					
学習者への期待 (含む準備学習)		健康維持のためにがんばっている高齢者と接し、その心理や生きがい・QOLなどが考えられるようになってほしい。					
実習内容							
<p>【実習期間】 2年後期～3年前期</p> <p>【実習目的】 地域や施設における高齢者との関わりを通して、対象者を生活者として理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な高齢者との触れ合いを通して、暮らしや健康への思いを知り、健康維持のために老人福祉センターの果たす役割について理解できる 2 施設における各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる 3 加齢変化や健康課題を持ちつつ生きる老年期にある対象の特徴について理解する。 4 対象の生活機能上の課題に応じた援助が実践できる。 5 自己の老年観・看護観を確認することができる。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターは主体事業への参加または、デイサービス、サークルなどに参加させていただき高齢者の方との関わりを通し、老年観を深める。 ・介護老人保健施設実習においては、1名の方を受け持ち、生活者の視点で情報収集し必要な援助を考え、スタッフの援助に参加させていただく。介護保険制度の理解や多職種の連携と役割について学ぶ。 							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院					
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考		詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学実習	担当	庄司 宗和 他
開講年次・開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験				
庄司 宗和	小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す				
中川 佑奈	臨床（小児救急を含む三次救急・集中治療室等）、看護全般にわたる経験を有す				
授業概要	保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)	大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。 小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。				
実習内容					
<p>【実習時期】 2年次後期から3年次前期まで</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う</p> <p>【実習目標】</p> <p>(保育所実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な乳幼児の成長発達及び、個性を理解できる 2 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる 3 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる 4 看護者としての望ましい態度が自覚できる <p>(病棟実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害を持つ小児の特性を理解し小児とその家族の抱える問題を捉えることができる 2 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる 3 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる 4 健全な小児観を養うとともに、小児看護の在り方について考えることができる <p>【実習計画】</p> <p>保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。</p> <p>実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。</p>					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ				
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				
備考					

領域	専門分野Ⅱ	科目	母性看護学実習		担当	野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期		2単位	90時間	10日間	実習	実習評価表による評価	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子	周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す						
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象及びその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考えて、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。						
実習内容							
<p>I 実習目的</p> <p>女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。</p> <p>II 実習目標</p> <p>1. 妊娠期、分娩期、産褥期及び新生児期の特徴を理解し、母子及びその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。</p> <p>1) 妊娠期</p> <p>(1) 妊婦健診や妊婦対象の教室等を通して、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。</p> <p>(2) 対象への保健指導を理解できる。</p> <p>2) 分娩期</p> <p>(1) 分娩第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。</p> <p>(2) 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。</p> <p>3) 産褥期</p> <p>(1) 身体的・心理的变化及び子育て環境について理解できる。</p> <p>(2) 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。</p> <p>(3) 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。</p> <p>(4) 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。</p> <p>4) 新生児期</p> <p>(1) 出生直後の新生児の観察ができる。</p> <p>(2) 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。</p> <p>(3) 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）</p> <p>2. 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子及び家族支援のための社会資源について理解することができる。</p> <p>3. 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。</p> <p>4. 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。</p> <p>III 実習計画</p> <p>1. 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。</p> <p>2. グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。</p> <p>3. 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学を通して学ぶ。</p> <p>4. 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。</p> <p>IV 実習時間</p> <p>原則 8：30～17：00</p>							

領域	統合分野		科目	在宅看護概論		担当	稲邊 照子・伊藤明美		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
稲邊 照子		臨床での看護実践、准看護学院教務班長、自衛隊部隊での衛生運用幹部、病院外来棟師長、医事課長、老人保健施設での看護係長業務の経験を有す							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。 在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 現在の訪問看護制度の基本を理解できる 							
授業概要		在宅看護の変遷やその社会的背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援の在り方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ・さらに在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は、家庭から地域へ広がりを加えて対象を捉えていく地域看護の主要な領域を担う。日々の生活の成り立ち、対象と家族成員の健康状態や地域社会とのつながりの中で理解することが必要となる。看護師国家試験でも重点が置かれている領域でもあり、出題数も増えてきている。自身の生活、社会情勢の変化、保健、医療、教育等の諸制度に関心を持って欲しい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	在宅看護の概念		(1)在宅看護の背景 (2)在宅看護の基盤 (3)地域療養を支える在宅看護の役割・機能				講義		
2			(1)在宅看護を展開するための基本理念 (2)在宅看護における倫理						
3	在宅療養者と家族の支援		(1)訪問看護の対象者 (2)在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件				講義		
4			(1)在宅療養の場における家族の捉え方 (2)在宅療養者の家族への看護						
5	地域包括ケアシステムにおける在宅看護		(1)地域包括ケア (2)療養の場の移行に伴う看護				講義		
6			(3)地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携						
7			(4)在宅看護におけるケースマネジメント /ケアマネジメント						
8	地域療養を支える制度		(1)社会資源の活用 (2)医療保険制度				講義		
9			(3)後期高齢者医療制度						
10			(4)介護保険制度						
11			(5)生活保護制度						
12			(6)障害者に関連する法律 (7)難病法						
13			(8)子供の在宅療養を支える制度と社会資源						
14			(9)在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源/高齢者施策						
15	まとめ		単位認定試験				試験		
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域	統合分野		科目	在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養を支える技術		担当	伊藤 明美	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。 訪問看護における看護過程の特徴、家庭訪問および初回訪問のプロセスを理解できる。 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解でき、日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を考えることができる。 						
授業概要		在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度及び、看護過程の特徴を学ぶ。更に、在宅看護における安全と健康危機管理について学び、在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は対象者と家族の意思決定を尊重して行わなければならない。又あらゆる看護領域の既習・知識技術が基本となる。関連領域の振り返りを行ったうえで、在宅で行える範囲とはの視点を持ちながら学んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	在宅療養を支える 訪問看護		(1) 訪問看護の特徴 (2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション				講義	
2			(3) 訪問看護サービスの展開				講義	
3			(4) 訪問看護の記録 (5) 家庭訪問・初回訪問				講義	
4	在宅看護における安全と 危機管理		(1) 在宅看護における危機管理 (2) 日常生活における安全管理 (3) 災害時における在療養と家族の健				講義	
5	在宅療養生活を支える 基本的な技術		(1) コミュニケーション (2) フィジカルアセスメント				講義	
6			(3) 環境整備 (4) 生活リハビリテーション (5) 感染予防				講義/DVD	
7			(6) ターミナルケア				講義/DVD	
8	まとめ		単位認定試験				試験	
教科書		ナーシング・グラフィカ		在宅看護論 地域を支えるケア 在宅療養を支える技術		メディカ出版		
参考文献		新体系看護全書 系統看護学講座		在宅看護論 統合分野 在宅看護論		メヂカルフレンド社 医学書院		
備考								

領域	統合分野		科目	在宅看護援助論Ⅱ 療養を支える看護技術		担当	齊藤 恵理香 伊藤 明美		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	80%	レポート	20%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
齊藤 恵理香		臨床での内科、外科系での看護実践経験有り。保健師資格有り。							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 対象特性に応じたアセスメントができる。 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 在宅での医療的ケアにおいて、各項目についてアセスメントや援助技術の基本を理解できる。 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 							
授業概要		在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実際に結び付ける。(医療的ケア中心)							
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅で生活される方も、病院で行われている医療的な治療(処置)を継続されている方が多く、病院では看護師が行っているケアを在宅では家族が行うことになります。そのため、在宅では療養生活が続くかどうかの鍵は家族にあるといえます。そこで、在宅看護では療養者だけでなく、家族も生活を営んでいる生活者であるという視点を持ち学んでほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	日常生活を支える 看護技術 療養を支える看護技術 (医療)		(1)生活ケアと医療的ケア (2)生活ケアの援助技術 (3) 医療ケアの原理原則				講義		
2			(3)食生活 食のアセスメントと援助				講義		
3			(4)在宅経管栄養法(医療) (5)輸液管理				講義		
4			(6)食事の姿勢、経管栄養 演習				演習		
5			(7)呼吸 呼吸のアセスメントと援助 (8)排痰ケア(医療) (9)気管カニューレ(医療)				講義		
6			(10)在宅酸素療法(HOT) (医療)				演習/DVD		
7			(13)呼吸法、呼吸音聴診など演習				演習		
8			(14)排尿ケア排泄 排泄のアセスメントと援助 (15)排尿ケア				講義		
9			(16)膀胱留置カテーテル(医療) (17)ストーマ				講義/DVD		
10			(18)睡眠 (19)清潔と更衣 清潔のアセスメントと援助 (20)肢位の保持と移動 移動のアセスメントと援助				講義		
11			(21)排尿ケア清潔と更衣 清潔演習 肢位の保持と移動演習				演習		
12			(22)薬物療法(医療) (23)がん外来化学療法 (24)疼痛管理				講義		
13			(25)在宅CAPD(医療) (26)インスリン自己注射管理				講義/DVD		
14			(27)褥瘡管理(医療) (28)足病変のケア				講義		
15			まとめ		単位認定試験				試験
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域	統合分野		科目	在宅看護援助論Ⅲ		担当	齊藤 恵理香 伊藤 明美				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法					
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	レポート	30%		
担当者名		担当講義に関する実務経験									
齊藤 恵理香		臨床での内科、外科系での看護実践経験有り。保健師資格有り。									
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有									
到達目標		1 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 2 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 3 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。									
授業概要		1 さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付けることができる。 2 さまざまな事例を通して在宅看護過程の展開について学ぶ。 3 看護過程の展開時には社会資源の活用について、多職種との連携、看護師の果たす役割について、講義、グループワークを通して学ぶ。									
学習者への期待 (準備学習含む)		1 在宅看護は、対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。プライバシーを守ることや、あらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断など看護師により高い資質が求められる。あらゆる看護領域の既習・知識・技術が基本となるため、振り返りを行ったうえで臨んでほしい。									
回数	項目		授業内容				授業方法				
1	在宅療法を支える災害対策		(1) 在宅療養における災害対策				講義				
2			(2) 地域包括ケアシステムにおける災害対策								
3	6. 事例で学ぶ在宅看護技術		(3) 訪問看護師による災害時対応				講義				
4			(4) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理								
5			1. 療養の移行に伴う看護 1) 脳卒中を起こした患者の在宅療養導入の事例展開				個人ワーク				
6			1. 療養の移行に伴う看護 ・実際の事例から退院支援及び介護保険制度などについて振り返る								
7			2. 在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者 1) インスリン自己注射を確実かつ安全に継続できる支援を検討 ・事例のアセスメントを行い、必要な支援を考える				講義/個人ワーク				
8			3. 在宅療養を開始する重症心身障害児 (小児) 1) 在宅ける療養者とその家族の生活上の課題を検討 ・ワークシートを用いて事例の振り返りを行う								
9			4. パーキンソン病療養者の在宅看護過程 1) 転倒リスクが高いが家族介護者が高齢で対応できない人への支援 2) アセスメント 3) 課題の明確化 4) 長期目標・短期目標 ・パーキンソンの疾患を理解し、在宅での自立支援について考える				講義/ グループワーク				
10			5. 在宅で療養する筋萎縮性側索硬化症患者の看護 1) 訪問看護での医療保険と介護保険の調整 (制度を振り返る) 2) 事例の展開 3) カンファレンス テーマ: 「患者・家族が葛藤のなかで意思決定をするための過程で 看護職として援助することは何か」 ・事例を通し意思決定支援の大切さを学ぶ								
11			訪問看護演習		演習 テーマ: 初回訪問 1) 事例 脳梗塞 左不全麻痺のアセスメント				個人ワーク		
12					演習 テーマ: 初回訪問 2) ロールプレイの脚本作成、看護計画作成						
13	演習 テーマ: 初回訪問 3) リハーサル及び演習				グループワーク						
14	演習 テーマ: 初回訪問 4) 演習										
15	まとめ		単位認定試験				試験				
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版									
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				メヂカルフレンド社 医学書院					
備考											

領域	統合分野		科目	看護研究の基礎		担当	高野 岳史 桐田 三世	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	ケーススタディレポート	60%	
						研究発表 (パワーポイント)	40%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
高野 岳史		臨床看護実践経験あり。臨床研究の学会発表、修士学位（看護学）の取得						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究に取り組む上での基本的な考えを理解できる。 2 看護研究の目的、種類について理解できる。 3 看護研究の過程について理解できる。 4 事例研究に関する基礎的な知識と方法について理解できる。 5 看護研究を実際に行い、研究成果を発表することができる。 6 研究成果を論文にまとめる事ができる。 						
授業概要		看護研究及びケーススタディに関する一般的知識を学び、臨地実習で受け持ったケースの看護過程について振り返り、文献を活用しながら看護について考えを深めるとともに、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		看護援助の内容を振り返り検討するという手法は、日常の看護内容を振り返り、具体的な看護の方向を見出すための必須の学習内容である。看護のプロセスの中で生じた疑問や問題を受け止め、自分の頭で考える行動が自分の看護者としての力になることを演習を通して理解してほしい。						
回数	項目		授業内容			授業方法		
1	看護研究の理解		看護研究の意義と必要性、倫理的配慮			講義：高野		
2			研究方法の特徴と展開、研究プロセス			講義：高野		
3			研究における文献検索の意義と検索方法			講義：高野		
4	ケーススタディの理解		ケーススタディの特徴と展開			講義：高野		
5			ケースレポートのクリティーク			講義：高野		
6	ケーススタディの展開		ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）			演習：高野・桐田		
7			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）			演習：高野・桐田		
8			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）			演習：高野・桐田		
9			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）			演習：高野・桐田		
10			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）			演習：高野・桐田		
11			ケーススタディ演習 (パワーポイントの作成、発表準備)			演習：高野・桐田		
12			ケーススタディ演習 (パワーポイントの作成、発表準備)			演習：高野・桐田		
13			ケーススタディ発表			演習（発表） ：高野・桐田		
14			ケーススタディ発表			演習（発表） ：高野・桐田		
15			ケーススタディ発表、まとめ			演習（発表） ：高野・桐田		
教科書		坂下玲子, 他：系統看護学講座 看護研究, 医学書院						
参考文献		高橋百合子監修：看護学生のケーススタディ, メジカルフレンド社, 2011. 松本孚, 森田夏実編集：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社, 2009.						
備考								

第5回生 学籍番号

氏名

葵会仙台看護専門学校

(TEL 022-380-1122)

2022年度

シラバス

第1学年（第6回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

6回生 教育課程・学科進度表

科目名		内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理学		1	30						
		情報リテラシーⅠ	PC基本操作	1	15	15					
		情報リテラシーⅡ	ICT活用実践 検索 統計処理 プレゼンテーション	1	15					6	9
		看護物理学		1	15	15					
	人間と生活・社会の理解	スタートアップセミナー		1	15	15					
		倫理学		1	30			30			
		心理学		1	30		30				
		教育学		1	30			30			
		社会学		1	30	30					
		医療英語Ⅰ		1	15	15					
		医療英語Ⅱ		1	30	30					
		人間関係論		1	30	30					
		地域文化	地域の祭り スズメ踊り	1	15		15				
		地域共生論	地域の特性 ボランティアの実際	1	30	30					
小計			14	330	180	75	60	0	6	9	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造機能学Ⅰ	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30					
		人体構造機能学Ⅱ	呼吸器系 循環器系 泌尿器系	1	30	30					
		人体構造機能学Ⅲ	消化器系 血液 内分泌系	1	30	30					
		人体構造機能学Ⅳ	神経系 免疫系 生殖器系	1	30	20	10				
		生化学		1	30	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学		1	30	30					
		栄養学		1	30		30				
		病態治療学Ⅰ	概論	1	15	15					
		病態治療学Ⅱ	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30		30				
		病態治療学Ⅲ	消化器 内分泌・代謝・血液・造血疾患	1	30		30				
		病態治療学Ⅳ	運動器 脳・神経 神経内科	1	30		30				
		病態治療学Ⅴ	皮膚 耳鼻咽喉 眼科 歯・口腔 生殖器疾患等	1	30		30				
		病態治療学Ⅵ	外科総論 外科各論	1	30			30			
		統合臨床判断	臨床状況判断演習	1	15				15		
		薬理学		1	30		30				
		リハビリテーション論		1	15			15			
	健康支援と社会保障制度	総合医療論		1	15	15					
		公衆衛生学		1	15			15			
社会保障			1	15			15				
社会福祉			1	15			15				
看護関係法令			1	15						15	
経済と看護		1	15						15		
小計			22	525	200	190	90	15	15	15	
専門分野	基礎看護学	看護学概論		1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅰ	コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅱ	ヘルスケアアセスメント	1	30	20	10				
		基礎看護学援助論Ⅲ	活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	10	20				
		基礎看護学援助論Ⅳ	清潔・衣生活	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅴ	食事 排泄	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅵ	看護過程	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅶ	呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15		15				
		基礎看護学援助論Ⅷ	薬物療法と看護 診察・検査に伴う看護	1	30		30				
		臨床看護総論	健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護	1	30		30				
		臨床看護援助論	臨床判断看護演習	1	15			15			
	小計			11	300	120	165	15	0	0	0
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	地域・在宅看護の概念	1	15	15					
		地域・在宅看護概論Ⅱ	地域包括システム 制度・社会資源	1	15		15				
		地域療養を支えるケア	訪問看護 危機管理	1	15			15			
		在宅療養を支える技術Ⅰ	在宅療養を支える看護技術(基本)	1	15			15			
		在宅療養を支える技術Ⅱ	在宅療養を支える看護技術(日常生活・医療)	1	30				30		
		在宅療養を支える技術Ⅲ	在宅援助技術(災害対策 事例看護)	1	30				30		
	小計			6	120	15	15	30	60	0	0
	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論Ⅰ	健康障害のある患者への看護援助	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅱ	健康障害のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ	健康障害のある患者への看護援助 がん看護	1	30			20	10		
		成人看護学援助論Ⅳ	手術療法を受ける患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅴ	周手術期の看護技術	1	15				15		
	小計			6	165	0	30	80	55	0	0
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論Ⅰ	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅱ	老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15				15		
	小計			4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅰ	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅱ	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30			10	20		
		小児看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15				15		
		小計			4	105	0	0	70	35	0
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅰ	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅱ	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30			20	10		
		母性看護学援助論Ⅲ	褥婦の看護過程	1	15				15		
	小計			4	105	0	0	80	25	0	0
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
精神看護学援助論Ⅰ		精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30			30				
精神看護学援助論Ⅱ		精神看護とサポート	1	30			30				
精神看護学援助論Ⅲ		看護過程の展開	1	15				15			
小計			4	105	0	30	60	15	0	0	
看護実践の統合	看護研究の基礎		1	15					6	9	
	看護管理		1	15					15		
	医療安全		1	15					15		
	災害・国際看護学		1	30					30		
	臨床実践の統合		1	30					16	14	
	小計			5	105	0	0	0	0	82	23
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ		1	45	45						
	基礎看護学実習Ⅱ		2	90				90			
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域包括ケア	1	45		45					
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	訪問看護 在宅支援ネットワーク	2	90					90		
	成人・老年看護学実習Ⅰ	急性期	3	135					135		
	成人・老年看護学実習Ⅱ	慢性期	3	135					135		
	成人・老年看護学実習Ⅲ	療養期・終末期	3	135				135			
	小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)	2	90					90		
	母性看護学実習		2	90				90			
	精神看護学実習		2	90				90			
	統合実習		2	90						90	
小計			23	1035	45	45	0	405	450	90	
総計			103	3000	560	580	545	625	553	137	
					1140		1170		690		

6回生 1年次 学科目

科目名		内容	単位数	時間数	1学年			
					前期	後期		
基礎分野	科学的思考の 発展	論理学		1	30		30	
		情報リテラシー I	PC基本操作	1	15	15		
		情報リテラシー II	ICT活用実践 検索 統計処理 プレゼンテーション					
		看護物理学		1	15	15		
	人間と生活・ 社会の理解	スタートアップセミナー		1	15	15		
		倫理学						
		心理学		1	30		30	
		教育学						
		社会学		1	30	30		
		医療英語 I		1	15	15		
		医療英語 II		1	30	30		
		人間関係論		1	30	30		
		地域文化	地域の祭り スズメ踊り	1	15		15	
		地域共生論	地域の特性 ボランティアの実際	1	30	30		
小計			11	255	180	75		
専門基礎分野	人体の構造と 機能	人体構造機能学 I	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30		
		人体構造機能学 II	呼吸器系 循環器系 泌尿器系	1	30	30		
		人体構造機能学 III	消化器系 血液 内分泌系	1	30	30		
		人体構造機能学 IV	神経系 免疫系 生殖器系	1	30	20	10	
		生化学		1	30	30		
	疾病の成り立ちと 回復の促進	微生物学		1	30	30		
		栄養学		1	30		30	
		病態治療学 I	概論	1	15	15		
		病態治療学 II	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30		30	
		病態治療学 III	消化器 内分泌・代謝・血液・造血疾患	1	30		30	
		病態治療学 IV	運動器 脳・神経 神経内科	1	30		30	
		病態治療学 V	皮膚 耳鼻咽喉 眼科 歯・口腔 生殖器疾患等	1	30		30	
		病態治療学 VI	外科総論 外科各論					
		統合臨床判断	臨床状況判断演習					
		薬理学		1	30		30	
		リハビリテーション論						
	健康支援と 社会保障制度	総合医療論		1	15	15		
		公衆衛生学						
		社会保障						
		社会福祉						
		看護関係法令 経済と看護						
	小計			14	390	200	190	
	専門分野	基礎看護学	看護学概論		1	30	30	
			基礎看護学援助論 I	コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30	
基礎看護学援助論 II			ヘルスケアアセスメント	1	30	20	10	
基礎看護学援助論 III			活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	10	20	
基礎看護学援助論 IV			清潔・衣生活	1	30	30		
基礎看護学援助論 V			食事 排泄	1	30		30	
基礎看護学援助論 VI			看護過程	1	30		30	
基礎看護学援助論 VII			呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15		15	
基礎看護学援助論 VIII			薬物療法と看護 診察・検査に伴う看護	1	30		30	
臨床看護総論			健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護	1	30		30	
臨床看護援助論			臨床判断看護演習					
小計			10	285	120	165		
地域・在宅看護論		地域・在宅看護概論 I	地域・在宅看護の概念	1	15	15		
		地域・在宅看護概論 II	地域包括システム 制度・社会資源	1	15		15	
		地域療養を支えるケア	訪問看護 危機管理					
		在宅療養を支える技術 I	在宅療養を支える看護技術 (基本)					
		在宅療養を支える技術 II	在宅療養を支える看護技術 (日常生活・医療)					
		在宅療養を支える技術 III	在宅援助技術 (災害対策 事例看護)					
		小計			2	30	15	15
成人看護学		成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30	
		成人看護学援助論 I	健康障害のある患者への看護援助					
		成人看護学援助論 II	健康障害のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程					
		成人看護学援助論 III	健康障害のある患者への看護援助 がん看護					
		成人看護学援助論 IV	手術療法を受ける患者の看護					
		成人看護学援助論 V	周手術期の看護技術					
小計			1	30	0	30		
老年看護学		老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30	
		老年看護学援助論 I	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助					
		老年看護学援助論 II	老年期の健康障害時の看護					
		老年看護学援助論 III	看護過程の展開					
小計			1	30	0	30		
小児看護学		小児看護学概論	看護の対象と目的					
		小児看護学援助論 I	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術					
		小児看護学援助論 II	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護					
		小児看護学援助論 III	看護過程の展開					
小計			0	0	0	0		
母性看護学		母性看護学概論	看護の対象と目的					
		母性看護学援助論 I	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護					
		母性看護学援助論 II	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護					
		母性看護学援助論 III	褥婦の看護過程					
小計			0	0	0	0		
精神看護学		精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30	
		精神看護学援助論 I	精神疾患の診断・治療およびケアの方法					
		精神看護学援助論 II	精神看護とサポート					
		精神看護学援助論 III	看護過程の展開					
小計			1	30	0	30		
看護の 実践の統合と		看護研究の基礎						
	看護管理							
	医療安全							
	災害・国際看護学							
	臨床実践の統合							
	小計			0	0	0	0	
臨床実習	基礎看護学実習 I		1	45	45			
	基礎看護学実習 II							
	地域・在宅看護論実習 I	地域包括ケア	1	45		45		
	地域・在宅看護論実習 II	訪問看護 在宅支援ネットワーク						
	成人・老年看護学実習 I	急性期						
	成人・老年看護学実習 II	慢性期						
	成人・老年看護学実習 III	療養期・終末期						
	小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)						
	母性看護学実習							
	精神看護学実習							
統合実習								
小計			2	90	45	45		
総計			42	1140	560	580		
						1140		

領域	基礎分野		科目	論理学		担当	菅原 宏道			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	課題	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
菅原 宏道		大学院及び専門学校で講義担当								
到達目標		医療に従事するうえで必要な論理的思考の技術を身に付ける。また、論理的な文章を書くための基礎を身に付ける。								
授業概要		妥当な論証としての論理学と、限られた情報やデータをもとにした推測的思考とを学び、両者をおのおの、あるいは両者を組み合わせて、適切な場面に適用する技術を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		講義を通じて、日常的な考え方や、医療の場での思考（あるいは論理的な文章の書き方）との違いを念頭に置いてもらえればと思います。毎回の授業前に教科書を読んでおいてください。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	ガイダンス		イントロダクション、論理学の対象						講義	
2			日常的思考と論理的思考						講義	
3	命題		命題、主張、根拠						講義	
4			日本語の記号化と論理結合子						講義	
5	推論規則		推論規則 (1) 肯定式、否定式、二重否定						講義	
6			推論規則 (2) 仮言三段論法、選言三段論法、 ディレンマ						講義	
7			論理学における二種類の正しさ						講義	
8			特称 (単称) 命題と全称命題、矛盾						講義	
9	演繹と帰納		演繹と帰納 (枚挙、類推、アブダクション)						講義	
10			仮説演繹法とハンソンのアブダクション						講義	
11			普遍と特殊、理論と事実						講義	
12	説明		説明、予測、応用の基礎						講義	
13			説明、予測、応用の応用						講義	
14	論述		論述文 (小論文) の基礎とセオリー						講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		『論理の基礎と活用』、内田詔夫 (著)、北樹出版								
参考文献		『入門! 論理学』、野矢茂樹 (著)、中央公論新社								
備考		ほぼ毎回、自作のレジュメを配付します。必要に応じて資料も配付します。								

領域	基礎分野		科目	情報リテラシー I		担当	萩原 潤
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	課題レポート	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
萩原 潤		大学院及び専門学校で講義担当					
到達目標		情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得する。					
授業概要		コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、ワードによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得基礎能力を身につける。					
学習者への期待 (含む準備学習)		コンピュータの利用に関する解説も行うので、事前にコンピュータに関する知識を自己学習してください。					
回数	授業内容						授業方法
1	情報の定義と特徴						講義・演習
2	情報セキュリティ (ネットワーク・有害サイト・ネット詐欺)						講義・演習
3	情報モラル1 (個人情報の保護・著作権保護・ネットワークエチケット)						講義・演習
4	ワープロの入門 (タイピング練習)						講義・演習
5	ワードの基本操作						講義・演習
6	ワープロの入門 (WORDを用いた自己紹介の作成)						講義・演習
7	ワープロの応用、罫線やイラストの入れ方及び印刷・保存						講義・演習
8	レポートの作成						講義・演習
教科書							
参考文献							
備考							

領域	基礎分野		科目	看護物理学		担当	佐藤 学	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐藤 学		大学院及び専門学校で講義担当						
到達目標		1 身体及び身体ケアに関する物理的根拠を理解する 2 検査・治療・処置に関する物理的根拠を理解する						
授業概要		医療・看護行為には、物理学と関連しているものが多い。単に「方法」としてのケアを学ぶのではなく、物理的思考を身に付けることによって、科学的な視点で看護を考え、原理・原則や根拠を明確にしていく。						
学習者への期待 (準備学習含む)								
回数	授業内容						授業方法	
1	1 有効数字と基本単位 2 ベクトルとスカラー、力のつりあい 合成・分解						講義	
2	3 力の合成の応用と練習、摩擦						講義	
3	4 てこの原理 (1) モーメントのつりあい (2) 応用とボディメカニクス						講義	
4	5 物の運動、ニュートンの法則と重力						講義	
5	6 遠心力 (1) 作用と反作用						講義	
6	7 脊柱にかかる力・浮力						講義	
7	8 仕事とエネルギー (1) ベルヌーイの法則・血圧						講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		ベッドサイドを科学する・看護に生かす物理学 学習研究社						
参考文献								
備考								

領域	基礎分野		科目	スタートアップセミナー		担当	1学年担任(2) 木島 上(4) 佐々木 真由美(10)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	課題学習	50%	レポート評価	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
佐々木 真由美		高校での教育実績あり							
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す							
到達目標		看護学を主体的に学ぶための基礎的な知識・技術を習得し、看護学生としての教養を理解する。							
授業概要		読む・書く・聴く・述べるなどを実際に行いながら、ノートテイキングや文献検索・読解、レポート作成、グループワークなど今後の学習で知識と教養を身につけていくためのスキルを習得することを学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		「与えられる」学習から、授業内容について、自ら「意味」を読み取り、深め、広く考えられるようになることが重要である。積極的に参加してほしい。							
回数	授業内容					授業方法・担当			
1	(1) 効果的な学習方法について (2) 聴講マナー テキストの読み方 調べ方 (3) ノートテイキング					講義・学年			
2	対人コミュニケーションにおける Hop Step Jump					講義・木島			
3	社会の中で学ぶための接遇マナー					講義・木島			
4	看護学生にとって「読む」こと「書く」ことの基本					講義・佐々木			
5	看護学生にとって「読む」ことの重要性と視点					講義・佐々木			
6	看護学生にとって「書く」ことの重要性と視点					講義・佐々木			
7	「読んで書く」「要約」について					講義・佐々木			
8	レポートの書き方					講義・佐々木			
教科書		看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン 日本看護協会出版会							
参考文献		学習技術研究会編 「知のステップ」第4版 くろしお出版							
備考									

領域	基礎分野		科目	心理学		担当	渡邊 兼行			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	80%	授業参加 (提出物含む)	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
渡邊 兼行		大学にて人間学部教授として講義を担当								
到達目標		人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己を良く理解する方法を学ぶ。 患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。								
授業概要		心の科学としての心理学を概観する。心理学はとかく誤解されやすい学問であるが、そのような誤解を解き、心と行動への科学的アプローチがどのようなものか、それによってどのような事実が明らかになってきたのかについて、講義と演習を通して学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと予習復習すること。 ・授業で積極的に発言すること。 ・授業で行う作業には積極的に取り込むこと。 								
回数	項目	授業内容							授業方法	
1	心理学とは	心理学について。その考え、歴史、方法について学ぶ。							一斉講義	
2	感覚・知覚	感覚と知覚について、体験的にそのしくみを知る。							一斉講義 演習	
3	感情	感情について、その心理学的理論を学ぶ。							一斉講義	
4	適応	自己・欲求・意志といった点から、適応の心理を学ぶ。							一斉講義	
5	学習	新たな行動を身に付けるしくみである学習について学ぶ。							一斉講義	
6	記憶	記憶の情報処理のしくみについて学ぶ。							一斉講義 演習	
7	認知	認識・表象・思考・言語といった認知のしくみについて学ぶ。							一斉講義 演習	
8	知能	知能について、その測定と理論について学ぶ。							一斉講義 演習	
9	性格	性格について、その測定と理論について学ぶ。							一斉講義 演習	
10	発達	心の発達について、そのさまざまな理論について学ぶ。							一斉講義	
11	集団と社会1	集団について、特に他者との相互作用について学ぶ。							一斉講義 演習	
12	集団と社会2	社会の知覚と社会の影響について学ぶ。							一斉講義 演習	
13	カウンセリング	心の問題に対する心理学的介入の方法と理解を学ぶ。							一斉講義 演習	
14	患者と心理	医療の現場における心理学の役割について考える。							一斉講義 演習	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 基礎分野 心理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	基礎分野		科目	社会学		担当	磯崎 匡	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	60%
							出席	20%
							レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
磯崎 匡		大学院にて講義を担当						
到達目標		社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また、我々の生活にいかなる影響を及ぼしているかを理解する。						
授業概要		本講義の目的は、さまざまな社会問題を題材として人間と社会の関係性について考察することである。講義ではまず、「組織」「民族」「家族」「ジェンダー」「地域社会」をキーワードとして我々が暮らす社会の特徴と問題を明らかにする。次に医療に限定せず広く保健医療を対象として社会的に分析する。最後に「職業集団」による専門職支配の場としての病院が抱える課題について考える。						
学習者への期待 (準備学習含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・可能ならば講義中グループワークを行ってもらう。 ・毎回講義終了時にレポート提出する。 ・テキストの該当箇所を指示するので予め読んでおくこと。 						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	人間と社会		社会的存在としての人間				講義	
2	組織		集団・組織・ネットワーク、グローバリゼーション ノーマライゼーション				講義	
3	民族 (1)		ナショナリズム				講義	
4	民族 (2)		日本の文化、価値観				講義	
5	民族 (3)		諸外国の民族、価値観				講義	
6	家族 (1)		家族概念と家族形態				講義	
7	家族 (2)		現代家族の諸問題				講義	
8	ジェンダー		セックスとジェンダー、性別役割				講義	
9	地域社会 (1)		コミュニティと地域				講義	
10	地域社会 (2)		ソーシャルサポートと社会関係資本				講義	
11	地域社会 (3)		ヘルスプロモーションにおける地域				講義	
12	保健医療の社会学 (1)		保健医療の社会学の射程				講義	
13	保健医療の社会学 (2)		病と生きる				講義	
14	職業集団		働く個から見た病院、患者の側から見た病院				講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 基礎分野 「社会学」 医学書院						
参考文献		講義の際適宜紹介する						
備考		初回の講義の初めに授業のガイダンスを行うので必ず出席すること。						

領域	基礎分野		科目	医療英語 I		担当	佐竹 深雪	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	60%
							小テスト	20%
							出席	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐竹 深雪		通訳ガイド・県警通訳センターでの実績あり						
到達目標		コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通じて外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。						
授業概要		高校までの基本的な文法を確認しながら専門分野での単語や表現等が身につくよう、実践的な学習の場とする。						
学習者への期待 (含む準備学習)		辞書を有効に活用し、しっかりと復習や暗記をすることによって定着に努めてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	授業の説明・勉強法・英会話の基本						講義・演習	
2	日常会話の表現						講義・演習	
3	病院内の案内						講義・演習	
4	人体の部位の表現						講義・演習	
5	症状の表現						講義・演習	
6	場面別会話－外来						講義・演習	
7	場面別会話－病棟						講義・演習	
8	単位認定試験と解説							
教科書		クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院						
参考文献		必要に応じて資料を配付						
備考		学生の入学時の能力やその後の理解力により変更の可能性あり。						

領域	基礎分野		科目	医療英語Ⅱ		担当	佐竹 深雪	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	60%
							小テスト	20%
							出席	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐竹 深雪		通訳ガイド・県警通訳センターでの実績あり						
到達目標		基礎的な医療・看護用語を使って臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。 英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。						
授業概要		前期の学習の定着をはかりながら、さらにさまざまな場面に対応できるよう実践的な学習を行う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		前期同様、持続的な学習により、レベルアップに努めてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	授業の説明・前期学習の確認						講義・演習	
2	患者理解－生活習慣、ニーズ、話題等						講義・演習	
3	病名						講義・演習	
4	検査1						講義・演習	
5	検査2						講義・演習	
6	手術1						講義・演習	
7	手術2						講義・演習	
8	与薬						講義・演習	
9	食事、栄養						講義・演習	
10	カルテ、処方箋1						講義・演習	
11	カルテ、処方箋2						講義・演習	
12	海外文献の読解1						講義・演習	
13	海外文献の読解2						講義・演習	
14	まとめと試験準備						講義・演習	
15	単位認定試験と解説							
教科書		クリスティーンのレベルアップ英会話 医学書院						
参考文献		必要に応じて資料を配付						
備考		前期の進捗状況により、変更の可能性あり。						

領域	基礎分野		科目	人間関係論		担当	木島 上			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	50%	授業態度	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す								
到達目標		人間関係に関する基礎知識を持ち、人間関係を信頼関係、援助的・対話的關係にするため人間存在について探究し、人間尊重の理念や他者理解と自己理解について理解を深める。								
授業概要		看護実践の一つの基盤である人間関係の質が看護の質にどのように影響するかについて概説する。人間観を育て、関係性を築き、その関係性を日常生活や看護実践に役立てるように、具体的事例や文献、そして自己の体験の振り返りなどを通して授業を進める。								
学習者への期待 (含む準備学習)		人間関係は日常的に展開されているが、その人間関係を学問としてとらえ、知的に体験的に学ぶことを期待する。学習に主体的に取り組み、一人の人間として人間関係の在り方を考えてほしい。自分の考えを明確にし、自分の心の声を聴くための小レポートを課す。またグループワーク（GW）などでは予習が必要な単元を提示する。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	ガイダンス		人間関係論の進め方のガイダンス 自己開示を助ける関係とは						授業 話し合い	
2	人間存在		人間論 人間論を育てるとは						授業 GW	
3	関係の生成		コミュニケーション論						授業	
4	自己理解		自己理解と人間関係						授業 自己対話	
5	他者理解		他者理解と人間関係 健康な高齢者を理解し、その理解を伝える						発表 援助	
6	援助的関係		援助役割と援助的関係 病気の人を理解し援助関係を築くには						授業 GW	
7	カウンセリング		カウンセリングとは、「聞く」と「聴く」の違い						授業 演習	
8	カウンセリング		看護カウンセリング「自己一致」「肯定的配慮」「共感」と看護の関係						授業	
9	関係性の記録		人間関係をプロセスレコードに記録し、理解の視点から分析を試みる						授業 記録訓練	
10	対話的關係		「われーそれ」と「われーなんじ」の関係性						授業 文献学習	
11	体験学習		プロセスレコードの講評 体験学習としての実習を考える						GW	
12	家族と人間関係		家族の人間関係とその変化						授業	
13	家族と人間関係		看護場面での看護師と家族との人間関係						授業 GW	
14	家族と人間関係		家族援助としての看護における人間関係の在り方						事例によるGW	
15	単位認定試験と解説									
教科書										
参考文献										
備考										

領域	基礎分野		科目	地域文化		担当	山口 俊一郎(4) 川口 知子(12)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	レポート	50%	参加及び発表	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
山口 俊一郎		すずめ踊りのグループの取りまとめ役 地域文化活動にも貢献している							
川口 知子		すずめ踊りグループに参加指導的な役割を担っている							
到達目標		地域生活における”ハレ””ケ”の視点から「祭り」の意義について学ぶ。身近な祭りとして「すずめ踊り」を通し多彩な伝統文化を知る。							
授業概要		「祭り」共同連帯や季節の感謝を体で表現する喜びを踊りを体験を通して学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		積極的に祭りに参加し、季節や神事における人々の思いに触れてほしい。							
回数	授業内容					授業方法・担当			
1	東北の祭り 生活の中における「祭り」の意義					講義・山口			
2	「すずめ踊り」の発祥と、踊りの表現					講義 山口 川口			
3	「すずめ踊り」実演 基本動作 チーム分け					演習・川口			
4	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
5	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
6	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
7	チーム別発表					演習 山口 川口			
8	「自分が暮らす地域の祭りについて」レポート作成					演習・川口			
教科書		プリント							
参考文献									
備考									

領域	基礎分野		科目	地域共生論		担当	千葉 伸彦		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	レポート課題	50%	活動参加	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
千葉 伸彦		大学講師としてボランティア論担当							
到達目標		ボランティアについての理解を深め、自立した医療者としての社会観を養い、コミュニケーションとホスピタリティを豊かにすることを目標とする。							
授業概要		「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解する							
学習者への期待 (含む準備学習)		ボランティア活動に主体的に参加し、体験をとおして共生社会の在り方を学んでほしい。							
回数	授業内容					授業方法			
1	「ボランティアとは何か」					講義			
2	「ボランティア活動の多様性」ボランティアの種別					講義			
3	災害とボランティア ボランティア支援機関について					講義			
4	ボランティア活動の基礎知識1ボランティアする側とされる側について／安全対策					講義			
5	ボランティア活動の基礎知識2マナーと活動のための留意事項					講義			
6	県内のボランティア活動の情報収集					演習			
7	活動計画書の作成と助言					演習			
8	ボランティア活動の実際					実践活動			
9	ボランティア活動の実際					実践活動			
10	ボランティア活動の実際					実践活動			
11	ボランティア活動の実際					実践活動			
12	ボランティア活動の実際					実践活動			
13	活動報告準備					演習			
14	ボランティア活動体験の振り返り（報告会）					演習			
15	「ボランティア活動」のまとめとしてのレポート作成					演習			
教科書									
参考文献		「新ボランティア学のすすめ」							
備考									

領域	専門基礎分野		科目	人体構造機能学 I		担当	山本 由似(16) 尾形 雅君(14)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
尾形 雅君		医学部解剖学教室で講義担当						
山本 由似		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体の構造と機能 I ではまず人体をつくる基礎である細胞の構造と機能を理解し、その上で構造と機能からみた人体を把握する。さらに骨格・筋系の構造と機能を理解する。						
授業概要		人体の基礎である細胞、細胞分裂。核の構造と機能、組織等について学び、人体の区分、人体部位の名称、方向用語、体液とホメオスタシス等について熟知する。さらに人体各部の骨格がどのように構成され、それぞれがどのように関連を持つか講義する。ついで骨に起始停止する筋について運動機能を関連付けて説明する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		人体の構造と機能 I では、慣れない解剖学用語や生理学用語がたくさん出てきます。慣れるためには、予習はともかく、その日の復習をかかささないことが大事です。それを心がけてください。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1. 解剖生理学総論		1 人体の階層性、人体の器官系				講義・尾形	
2			2 人体をつくる細胞の構造				講義・山本	
3			3 細胞構成の物質とエネルギー生成				講義・山本	
4			4 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体				講義・山本	
5			5 人体を構成する組織				講義・山本	
6			6 構造からみた人体；人体区分、人体部位の名称、 人体の腔所、方向用語				講義・山本	
7			7 機能からみた人体；体液、 内部環境及びホメオスタシス				講義・山本	
8			8 まとめ				講義・山本	
9	2. 運動器		1 骨格・筋系総論				講義・尾形	
10			2 体幹の骨格				講義・尾形	
11			3 上肢及び下肢の骨格				講義・尾形	
12			4 体幹の筋とその働き				講義・尾形	
13			5 上肢の筋とその働き				講義・尾形	
14			6 下肢の筋とその働き				講義・尾形	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野	科目	人体構造機能学Ⅱ		担当	齋藤 淑子				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門とする医師。病院勤務経験を有する。								
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体構造と機能Ⅱでは、呼吸器系、循環器系、泌尿器科の構造と機能について理解する。								
授業概要		人体を構成する器官系、すなわち体内の流通システムとしての、呼吸器系・循環器系・泌尿器系などの構造と機能について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。全体を大きく把握することからはじめて、細部に至る方が理解しやすいと思われる。								
回数	単元	授業内容							授業方法	
1	1. 呼吸器系	1 外呼吸と内呼吸、上気道							講義	
2		2 下気道、肺							講義	
3		3 換気、外呼吸							講義	
4		4 血液中のガス運搬、呼吸調節							講義	
5									講義	
6	2. 循環器系	1 血管系総論							講義	
7		2 心臓							講義	
8		3 血管と循環							講義	
9		4 心臓、血管の成長と老化							講義	
10		5 リンパ系							講義	
11	講義									
12	3. 泌尿器系	1 泌尿器系の構成と構造							講義	
13		2 泌尿器系の構造とその機能 3 尿の生成と体液の調整 4 下部尿経路							講義	
14		単元のまとめ							講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	人体構造機能学Ⅲ		担当	香川 慶輝(12) 尾形 雅君(6) 山本 由似(12)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
香川 慶輝		医学部解剖学教室で講義担当						
尾形 雅君		医学部解剖学教室で講義担当						
山本 由似		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。消化器系、血液、内分泌系の構造と機能を理解する。						
授業概要		消化器系の各器官とその働きについて学び、次に血液を構成する血球と血漿について講義する。さらにホルモン分泌を行なう内分泌系についても理解を深めてゆく。						
学習者への期待 (準備学習含む)		解剖用語や生理学的用語が次々と沢山出て、授業のペースが早くなって来ます。人体構造・機能Ⅰの時以上に復習に熱心に取り組んで欲しいです。講義が終わったら、まずもって教科書を繰り返し読んで、講義した内容をしっかりと把握することが肝要です。						
回数	単元	授業内容				授業方法・担当		
1	1. 消化器系	1 総論				講義・香川		
2		2 口腔、咽頭、食道の構造と機能				講義・香川		
3		3 胃、小腸、大腸の構造と機能				講義・香川		
4		4 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能				講義・香川		
5		5 腹膜				講義・香川		
6		まとめ				講義・香川		
7	2. 血液	1 血液の組成と機能				講義・尾形		
8		2 血球の構成				講義・尾形		
9		3 血漿、血液凝固、血液型				講義・尾形		
10	3. 内分泌	1 総論、自律神経での調整				講義・山本		
11		2 内分泌での調整 (1) 視床下部、下垂体				講義・山本		
12		3 内分泌での調整 (2) 松果体、甲状腺、副甲状腺(上皮小体)				講義・山本		
13		4 内分泌での調整(3) 副腎、性腺				講義・山本		
14		まとめ				講義・山本		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	人体構造機能学IV		担当	香川 慶輝(18) 宮崎 啓史(12)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
香川 慶輝		医学部解剖学教室で講義担当						
宮崎 啓史		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。神経系と皮膚を含めた感覚器の構造と機能を理解する。さらに生殖器系と免疫系について学ぶ。						
授業概要		神経系とそれと関連して機能する感覚器について講義をした後、人体の外部からの異物の侵入に対して、どのような防御や免疫機構ができていくのかについて、さらに種の保存のための生殖器系について講義する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		前期の時と同様に、復習を心がけることが大事です。もし神経や感覚器模型が用意されていたらそれらを使って、神経系や感覚器の構成や構造を理解することも試みてください。きっと役立つはずですよ。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	1. 神経系と感覚器		1 神経系総論			講義・香川		
2			2 中枢神経系の構成と機能 1 脊髄			講義・香川		
3			3 中枢神経系の構成と機能 2 脳			講義・香川		
4			4 脊髄神経と脳神経の構造とその支配領域			講義・香川		
5			5 脳の機能、神経の伝導路			講義・香川		
6			6 自律神経の構造とその機能			講義・香川		
7			7 視覚器の構造とその機能			講義・香川		
8			8 平衡聴覚器の構成とその機能、皮膚構造と感覚			講義・香川		
9	2. 免疫		1 総論、非特異的防御機能			講義・宮崎		
10			2 特異的防御機能			講義・宮崎		
11			3 体温とその調整及び発熱の意義			講義・宮崎		
12	3. 生殖器		1 男性生殖器の構成と構造			講義・宮崎		
13			2 女性生殖器の構成と機能			講義・宮崎		
14			3 女性生殖器とその機能的連携、受精と発生			講義・宮崎		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	生化学		担当	阿部 知顕	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
阿部 知顕		生物学科 教授としての教育実績あり						
到達目標		基礎分野における生命現象の科学の学習に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造及び、生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。						
授業概要		人々の健康増進のため、高度な医療に対応するため、また、豊かな健康・福祉生活を送るための、生化学の基礎知識を学ぶ。食事と栄養について、体内で消化されてから代謝されていくプロセスについての生化学的知識を習得する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		理解できない点は、テキストを参考にしたり、質問したりすることで解決してほしい。毎回でてくる用語が難しい場合は、予習して調べておくこと。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	生体を構成する物質		代謝とは 代謝、異化と同化、物質代謝とエネルギー				講義	
2			生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・糖質・脂質・たんぱく質 生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・核酸・ビタミンと補酵素				講義	
3							講義	
4							講義	
5	生体内の物質代謝		糖質代謝 1糖質代謝について 2グルコースの分解・糖新生・グリコーゲンの代謝				講義	
6			脂質代謝 1脂質の消化と吸収 2脂肪酸の分解・ケトン体産出と利用 ③脂肪酸・トリグリセリド・コレステロール再合成				講義	
7							講義	
8			タンパク質代謝 1タンパク質の消化と吸収 2アミノ酸からの合成				講義	
9							講義	
10			代謝異常 1骨粗鬆症 2糖尿 ③脂質異常症・高尿酸血症・痛風				講義	
11							講義	
12			遺伝情報とその発現 遺伝情報 1遺伝情報とは 2DNAの損傷と修復				講義	
13	講義							
14	単位認定試験と解説				講義			
15					講義			
教科書		シンプル生化学（南江堂）林、廣野、野口、五十嵐編						
参考文献		コンパクト栄養学（南江堂）脊山、廣野、久保田、寺本編 系統看護講座 専門基礎分野 生化学 医学書院						
備考								

領域	専門基礎分野	科目	微生物学		担当	齋藤 紀行				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 紀行		大学及び専門学校で講義担当 保健環境センターにて勤務実績あり								
到達目標		病原微生物の種類とそれぞれの相違を理解して感染症の起こり方を学び、感染症の予防に関する専門的な知識・方法を修得する。								
授業概要		われわれの生活にはさまざまな微生物が生育し、感染症を起こす可能性があることを理解させ、微生物の性質、構造について解説する。感染症の成立には生体側の要因が、強く関係することを免疫学の項で説明し、感染症の予防法を考えさせる。								
学習者への期待 (準備学習含む)		予習・復習をして授業に臨むこと。								
回数	項目	授業内容							授業方法	
1	微生物学の基礎	微生物学のあゆみ							講義	
2		微生物学の概要							講義	
3	感染と発症	病原体と生体							講義	
4		感染経路							講義	
5		病原体の病原性							講義	
6	免疫	生体防御のしくみ							講義	
7		獲得免疫							講義	
8		腸管免疫							講義	
9	感染症の予防・治療	滅菌と消毒							講義	
10		化学療法							講義	
11	微生物と感染症	細菌感染症-1							講義	
12		細菌感染症-2							講義	
13		ウイルス感染症							講義	
14		真菌・原虫感染症							講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	栄養学		担当教員	日野 美代子			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	80%	授業態度	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
日野 美代子		管理栄養士として病院勤務								
到達目標		1 栄養素の機能と消化吸収について理解する。 2 各食品における栄養価の特徴と食事バランスガイドについて理解し、バランスのとれた食事の提案ができる。 3 栄養ケア・マネジメントの目的と必要性を理解し、個々の状態に適した栄養補給の選択ができる。 4 各疾患及びライフステージにおける栄養ケア・マネジメントの在り方について理解する。								
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類や生理機能について概説し、どのような食品に含まれているのかを学ぶ。 ・傷病者の病態や栄養状態に基づいた食事・栄養補給法を理解し、各疾患及びライフステージにおける栄養ケアマネジメントを行うための理論と方法を学修する。 								
学習者への期待 (準備学習含む)		教科書や配付資料等用いて予習・復習し、要点をまとめておくこと。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	授業ガイダンス		栄養学とは						講義	
2	栄養素の消化と吸収		消化器のしくみ 五大栄養素の消化吸収						講義	
3	栄養素の種類と働き (1)		三大栄養素と代謝						講義	
4	栄養素の種類と働き (2)		ビタミン、ミネラル、その他の栄養素						講義	
5	食品に含まれる栄養素		三色食品群、六つの基礎食品群 食事バランスガイド						講義	
6	栄養ケア・マネジメント		栄養ケア・マネジメントとは？ 栄養状態の評価・判定						講義	
7	治療食と栄養補給法		経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の 選択と種類について						講義	
8	疾患別食事療法		栄養・代謝疾患						講義	
9	疾患別食事療法		循環器疾患、消化器疾患						講義	
10	疾患別食事療法		腎臓疾患、食物アレルギー						講義	
11	ライフステージと栄養		妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期 成人期、高齢期						講義	
12	摂食嚥下障害と栄養		摂食・嚥下のメカニズムとその障害 摂食・嚥下機能に適した嚥下食の提供基準						講義	
13	栄養管理の実際		栄養ケア・マネジメントの取り組みについて (病院)						講義	
14	栄養指導の実際		入院・外来での栄養相談の取り組みについて (病院)						講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院								
参考文献		授業時に必要に応じて推薦する。								
備考		20分以上の遅刻は欠席とみなす。								

領域	専門基礎分野	科目	病態治療学 I		担当	日高 輝久		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
日高 輝久		専門学校での教育実績あり						
到達目標		対象を理解し、より良いケアを行うためには、病理学の知識を持つ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・兆候のメカニズムを理解する。						
授業概要		病理学とはどんな学問か。その領域や健康を維持するための生体の回復力及び病気へのなりやすさについて、その概要を学ぶ。また、病理解剖、診断病理学の医療における役割についてや、細胞・組織とその障害。再生と修復。循環器障害、炎症。免疫とアレルギー-代謝異常。老化。先天異常。腫瘍の概略を学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		病理学は医学の基本となる学問の一つである。疾患に関する基礎的な知識の理解、習得に努めてほしい。						
回数	項目	授業内容					授業方法	
1	病理学とは	病気の原因（内因、外因） 1外因：栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子 2内因：素因、先天異常、遺伝子・染色体異常、免疫異常					講義	
2	代謝障害	代謝障害、細胞・組織とその障害					講義	
3	全身の循環障害	全身の循環障害 1リンパの循環障害 2血液の循環障害 ③高血圧症					講義	
4	炎症	炎症・免疫・膠原病 1炎症、創傷の治療 2生体防御と免疫、T細胞による抗原認識と免疫応答 ③移植と再生医療					講義	
5	アレルギーと自己免疫疾患	アレルギーの分類 1アナフィラキシー 2免疫不全 ③免疫疾患					講義	
6	感染症	感染症と病原体 1感染に対する生体防御のしくみ 2病原体と感染症					講義	
7	腫瘍	腫瘍の定義と分類 1腫瘍の転移と進行度、腫瘍の発生病理 2腫瘍の診断と治療					講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅱ		担当	松木 琢磨			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
松木 琢磨		医師として病院勤務。小児科専門医、腎臓専門医。								
到達目標		<p>【呼吸器】呼吸器疾患の基礎的知識を理解する。口腔ケア、呼吸リハビリ、家庭生活の指導等、看護師が呼吸器病の予防と管理に果たす役割が大きいことを理解する。</p> <p>【循環器】循環器系の構造・機能、循環器疾患（高血圧症・虚血性心疾患・不整脈・心不全など）の病態生理・診断・治療について学び、理解を深め、看護援助に活かす。</p> <p>【腎・泌尿器】腎・泌尿器系の構造と機能、各種疾患の病態生理と診断学について学び、看護援助に活かす。</p>								
授業概要		呼吸機能障害、循環機能障害、排泄機能障害について理解する。 呼吸機能障害では呼吸器感染症・肺癌・慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全等、循環機能障害では虚血性心疾患・不整脈・高血圧・心不全等、排泄機能障害は腎疾患・尿路系疾患・男性生殖器の病態生理、診断、治療について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		<p>【呼吸器】ただ授業を受身で聞くのではなく、「なぜ?」「自分ならどうするか?」と自分の頭で考えながら積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【循環器】【腎臓・泌尿器】予習と復習を行い、知識を確実に身に付けること。</p>								
回数	単元		授業内容					授業方法		
1	1. 呼吸器のしくみとその異常		1 呼吸をするということは：肺の解剖 呼吸器疾患の特殊性					講義		
2			2 肺癌、手術後の看護					講義		
3			3 慢性閉塞性肺疾患、その他の呼吸器疾患					講義		
4								講義		
5			4 肺炎、誤嚥性肺炎（口腔ケア等、看護師の重要性）					講義		
6	2. 循環器のしくみとその異常		1 循環器系の構造と機能、高血圧症					講義		
7			2 虚血性心疾患					講義		
8			3 不整脈					講義		
9			4 心筋疾患、弁膜症、血管疾患					講義		
10			5 心不全、先天性心疾患					講義		
11	3. 腎臓・泌尿器のしくみとその異常		1 腎臓・泌尿器系の病態・生理と診断学					講義		
12			2 各種腎炎・腎不全・透析					講義		
13			3 腎・泌尿器の腫瘍、前立腺疾患					講義		
14			4 排尿障害・神経因性膀胱					講義		
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【呼吸器】系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院</p> <p>【循環器】系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院</p> <p>【腎臓・泌尿器】系統看護学講座 成人看護学8 腎臓・泌尿器 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	病態治療学Ⅲ		担当	齋藤 淑子(20) 東海林 互(10)				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有する								
東海林 互		病院内科医師として勤務								
到達目標		<p>【血液・造血器疾患】血液の生理としくみを理解し、血液の生理と造血器の診断と病候・病態生理、疾患と治療について理解する。</p> <p>【消化器】消化器系の構造、機能について理解し、疾患の病態や基本的な治療法を身に付ける。</p> <p>【内分泌】内分泌機能の生体内での役割につき理解し、内分泌疾患・糖尿病・生活習慣病について学び、治療法や発症予防について理解を深める。</p>								
授業概要		内部環境調節障害、消化・吸収機能障害について理解する。内部環境調節障害では甲状腺機能障害・乳腺疾患・副腎機能障害・糖尿病・痛風等の内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、治療について理解する。消化・吸収機能障害では消化性潰瘍・消化器癌・炎症性疾患・肝硬変・胆石症・イレウス等の病態生理、診断と治療について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		<p>【消化器】テキストや参考書を繰り返し読んで内容を比較しながら理解を深めてください。医学は日進月歩のため新しい知識を得る。</p> <p>【内分泌】ホルモンの産生部位とその主な作用などの基本を知る。ホルモン産生分泌や作用の異常による疾患の病態について理解する。国民病である糖尿病の成りメカニズム、治療、合併症、予防やセルフケアと脂質代謝、肥満、メタボリック症候群についても併せて学ぶ。指定の教科書の当該項目につき事前に目を通して予習し、復習も怠らないこと。</p>								
回数	単元	授業内容				授業方法・担当				
1	1. 血液・造血のしくみとその異常	血液の正常性と血液の正常性と破綻				講義・齋藤				
2		造血器系疾患の病態、症状、検査、治療				講義・齋藤				
3	2. 消化・吸収のしくみとその異常	消化器疾患総論、構造と機能、消化器の症状と徴候と病態生理				講義・齋藤				
4		膵外分泌と内分泌。急性膵炎、重症膵炎、慢性膵炎、膵臓癌、膵内分泌腫瘍				講義・齋藤				
5		胆嚢ポリープ、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、胆道腫瘍、膵胆管合流異常症				講義・齋藤				
6		急性肝炎、肝炎ウイルス、慢性肝炎、アルコール性肝障害、脂肪肝、NASH、自己免疫性肝炎				講義・齋藤				
7		原発性胆汁性肝硬変、肝硬変、門脈圧亢進症、肝細胞癌、胆管細胞癌				講義・齋藤				
8		食道癌、アカラジア、逆流性食道炎、急性胃粘膜病変、消化性潰瘍、胃癌				講義・齋藤				
9		感染性腸炎、虫垂炎、炎症性腸疾患、大腸癌、腹膜炎、腸閉塞等				講義・齋藤				
10	3. 内分泌・代謝のしくみとその異常	内分泌・代謝学総論、フィードバック機構				講義・東海林				
11		下垂体-副腎系、副腎皮質ホルモンと副作用				講義・東海林				
12		甲状腺及び副甲状腺の機能とその異常				講義・東海林				
13		糖尿病をめぐる諸問題				講義・東海林				
14		脂質異常症と肥満、生活習慣病、痛風				講義・東海林				
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【血液・造血器】系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院</p> <p>【消化器】系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院</p> <p>【内分泌・代謝】系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅳ		担当	佐藤 哲朗(14) 遠藤 英徳(2) 川口 奉洋(2) 内田 浩喜(2) 矢澤 由加子(4) 大沼 歩(6)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
佐藤 哲朗		病院長として勤務。日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄外科指導医								
遠藤 英徳		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の外科治療（脳動脈瘤・脳動静脈奇形・もやもや病）、脳血管内治療、脳腫瘍の外科治療（聴神経腫瘍・髄膜腫）								
川口 奉洋		病院医師として勤務。専門分野：神経内視鏡治療、神経内分泌腫瘍の外科治療、間脳下垂体腫瘍の外科治療、頭蓋底腫瘍の外科治療								
内田 浩喜		病院医師として勤務。専門分野：脳神経外科、脳血管内治療								
矢澤 由加子		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の内科治療								
大沼 歩		病院顧問医師。専門分野：神経生理検査（脳波・大脳誘発電位・筋電図・末梢神経伝導検査など）								
到達目標		<p>【運動】スポーツ外傷、障害（靭帯、半月板損傷など）の増加、高齢者自立した生活を営むためには運動器（骨、関節、筋、神経など）の健康の重要性が増しており、運動器におこる疾患・治療について理解する。</p> <p>【脳神経】中枢神経の基本的な解剖と生理を学び、外傷や脳血管障害・脳腫瘍などの代表的な脳神経外科疾患とその症状・症候との関係を理解できるようにする。</p> <p>【神経内科】将来、療養の現場でそれぞれの症例において個々の基本的な問題を把握し、それに対する基本的な看護ができる能力を得ることができることを目標とする。</p>								
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。								
学習者への期待（準備学習含む）		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。								
回数	単元		授業内容					授業方法・担当		
1	1. 運動器のしくみとその異常		1 運動器疾患総論					講義・佐藤		
2								講義・佐藤		
3			2 外傷性運動器疾患					講義・佐藤		
4								講義・佐藤		
5			3 非外傷運動器疾患					講義・佐藤		
6								講義・佐藤		
7	2. 脳・神経の働きとその異常		1 救急現場での神経症状や画像診断					講義・矢澤		
8								講義・矢澤		
9			2 脳血管障害、その他					講義・遠藤		
10								講義・内田		
11			3 脳腫瘍					講義・川口		
12	3. 神経内科		1 変性性神経疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患及び認知症等について特に基本的事項について					講義・大沼		
13								講義・大沼		
14								講義・大沼		
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【運動器】系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院</p> <p>【脳神経】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>【神経内科】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>臨床外科看護各論 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学V		担当	日高 輝久(14) 川村 仁(2) 佐々木 勝忠(2) 齋藤 淑子(4) 稲葉 洋平(4) 阿部 裕子(4)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験								
日高 輝久		専門学校での教育実績あり								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有す								
川村 仁		歯学医師として大学病院勤務経験を有す								
佐々木 勝忠		歯科医師として診療所・病院勤務経験を有す								
稲葉 洋平		災害科学国際研究所にて放射線検査分野での教育実績あり								
阿部 裕子		臨床検査技師として大学病院勤務								
到達目標		<p>【皮膚疾患】 日常に遭遇する基本的な皮膚疾患についての治療を学ぶ。</p> <p>【耳鼻咽喉疾患】 耳・鼻・のどの解剖を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【眼科疾患】 眼科全般への基礎的な理解を得ること。それらを踏まえた患者介護の知識を修得する。</p> <p>【歯・口腔疾患】 歯・口腔の機能を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【女性生殖器疾患】 女性生殖器に関する基本的知識・病態と治療を学習する。</p> <p>【放射線療法】 放射線の基本的知識を理解し、放射線治療の基本について学ぶ。</p> <p>【臨床検査】 臨床検査の基礎的な知識を得て、病態・治療の理解に生かす。</p>								
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。								
回数	単元		授業内容						授業方法・担当	
1	1. 皮膚疾患		1 皮膚の構造・機能、各種皮疹疾患						講義・日高	
2			2 皮膚感染症、熱傷（分類と治療の基本）、褥瘡						講義・日高	
3	2. 耳鼻咽喉疾患		1 耳・鼻・顔面神経痛						講義・日高	
4			2 咽喉、頭頸部腫瘍						講義・日高	
5	3. 眼科疾患		1 眼科疾患						講義・日高	
6			2 検査、治療・処置、手術						講義・日高	
7	4. 歯・口腔疾患		1 歯・口腔疾患、検査・治療・処置						講義・川村	
8			2 口腔ケア						講義・佐々木	
9	6. 女性生殖器		女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防1						講義・齋藤	
10			女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防2						講義・齋藤	
11	放射線治療		1 放射線の基本的知識						講義・稲葉	
12			2 放射線治療						講義・稲葉	
13	臨床検査		1 臨床検査の役割						講義・阿部	
14			2 主な臨床検査						講義・阿部	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔 医学書院								
参考文献		系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 臨床放射線医学別巻 医学書院 系統看護学講座 臨床検査 医学書院								
備考										

領域	専門基礎分野		科目	薬理学		担当	木村 勝彦			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
木村 勝彦		病院薬剤部勤務経験有り。								
到達目標		教育を「学習者の行動（知識・技術・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えています。そのため、学習者の到達すべき目標を設定し「学習者の行動に価値ある変化をもたらしたく」思います。まずは、薬という物質がどうやって体内で働いているかを知り、病態への薬の選択ができることを目的とし、最終的には薬物療法への興味とその重要性を理解できた看護師の養成を到達目標とする。								
授業概要		医薬品の作用機序、生体内動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用を学ぶ。総論では生体に対する薬物の作用の仕組み、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを学ぶ。各論では、感染性疾患や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について種類や特徴あるいはその使い方などを学ぶ。さらにはがん患者に対する化学療法について認識を深める。これらを学ぶことより、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識を習得する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		薬理学というとても難解な学問を、今回使用する教科書は非常にわかりやすく解説しています。従ってまずは、教科書を必ず読んで受講してください。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できません。わかりやすく説明しますので、まず、薬理学に親しみをもち、好きな教科となるよう期待します。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	総論		薬理学とは。薬理学の役割と目的。 薬物体内動態、薬理作用について説明。						講義	
2			「なぜ薬が効くのか」その仕組みを全体的な視野でわかりやすく説明する。						講義	
3	痛みをとる薬 熱を下げる薬		痛みの原因、解熱鎮痛薬その作用機序。						講義	
4	中枢神経にはたらく薬		向精神薬、鎮静睡眠薬、抗パーキンソン病薬、抗テンカン薬の説明。						講義	
5	末梢神経にはたらく薬 神経にはたらくその他		体性神経と自律神経。筋肉を弛緩させる筋弛緩薬の説明。						講義	
6			交感神経・副交感神経、神経にはたらくその他薬の説明。						講義	
7	オータコイドに関連する薬		抗炎症薬。抗ヒスタミン薬、抗痛風薬、抗リウマチ薬の説明。						講義	
8	心臓・血管にはたらく薬		強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、降圧薬、高脂血症薬の説明						講義	
9	血液はたらく薬		貧血治療薬、止血薬、抗凝固薬、抗血小板薬の説明。						講義	
10	呼吸器のはたらく薬		鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息薬、結核薬の説明						講義	
11	胃腸にはたらく薬		消化性潰瘍薬、鎮けい薬、鎮吐薬、止瀉薬、瀉下薬の説明。						講義	
12	体内環境を整える薬		ビタミン薬、ホルモン、ホルモンに関わる薬。						講義	
13	病気の原因を抑える薬		抗生物質、合成抗菌剤、抗ウイルス薬、抗菌薬、ワクチンの説明						講義	
14	がんを抑える薬 消毒薬と漢方薬		腫瘍とがんと肉腫、がん細胞、抗がん薬。 滅菌と消毒。漢方の基本の説明。						講義	
15	単位認定試験試験と解説									
教科書		超入門 新薬理学 小山岩雄 株式会社照林社								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	総合医療論		担当	目黒 邦昭				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法					
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験									
目黒 邦昭		医師・病院長として医学に関わる総合的な経験を有す									
到達目標		1 医療や看護の原点、現代医療の実像と新しい展開、医療をめぐる今日の議論を学び、現代医療や介護の全体像を把握し、国民の求める医療や期待される医療人像が理解できる。 2 幅広い視野を持ち、新時代に求められる看護師像について自分で考えるきっかけにできる。									
授業概要		看護の「心」、医療と看護の原点、医療の歩みと医療観の変遷、私たちの生活と健康、科学技術の進歩と現代医療の最前線、現代医療の新たな課題、医療を見つめ直す新しい視点、保健・医療・福祉の潮流等について学ぶ。									
学習者への期待 (準備学習含む)		看護職とは医療技術の進歩と新しい社会規範に即応しつつも、人間心理の深い理解に裏打ちされた専門職であることを自覚し、よい看護とは、よい看護師にはどのような資質が必要か等、自らの経験を振り返ることを通じて職業人として成長していけるようにしてほしい。									
回数	項目		授業内容				授業方法				
1	序章 医療コミュニケーションの原点		A 看護の「心」 B 専門職としての医師と看護師 C 援助される者と援助する者 D 病める者の自立への援助				講義				
	第1章 医療と看護の原点		A 命について考える B 健康とは C 病の体験 D 癒しの行為と癒しの知 E チーム医療とマネジメント								
2	第2章 医療の歩みと医療観の変遷		A 現代医学の起源 B わが国の医療がたどってきた道 C 20世紀の医療 D 医療観の移り変わり				講義				
3	第3章 私たちの生活と医療		A もし病気やけがをしたら B 私たちの生活と環境衛生、保健、福祉行政 C 疾病の一次予防と健康増進 D 少子高齢社会と世代間のきずな E 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 F 心の健康と精神医療				講義				
4	第4章 科学技術の進歩と現代医療の最前線		A 科学技術の進歩と社会・生活の変化 B 現代医学と先端医療技術の最前線				講義				
5	第5章 現代医療の新たな課題		A 薬の副作用と手術の偶発症 B 医原病という考え方とケアの実践 C 先端医療がもたらす倫理上のジレンマ D 生命倫理学と臨床倫理学の展開 E 産業社会の発展と地球環境問題 F 医療不信から「賢い患者へ」 G インフォームドコンセントと医療情報開示				講義				
6	第6章 医療を見つめ直す新しい視点		A 臨床疫学 B 患者の安全 C 医療の管理と評価 D これからの先端医療開発 E 情報化社会と医療				講義				
7	第7章 保健・医療・福祉の潮流		A 医療変革の波と共に始まった21世紀 B 新時代の保健・医療の担い手 C プライマリケアの新たな展開 D 医療における視点 E 保健・医療の国際化 F 地域包括医療システムの新しい課題 G 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 H 地球時代におけるケア				講義				
8	単位認定試験とまとめ										
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院									
参考文献											
備考											

領域	専門分野		科目	看護学概論		担当	太田 久子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・GW	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
太田 久子		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		1 看護の本質及び看護の理念が理解できる 2 看護の対象を「生活・社会・環境」との関連から総合的に理解できる 3 健康や障害の概念を知り、看護と関連付けて理解できる 4 看護の機能について専門職業と関連付けて理解できる 5 看護の担うべき社会的使命について考察できる 6 看護における倫理を理解できる						
授業概要		看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。また、看護の歴史の変遷を学び、現代医療における看護の役割について学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護を学ぶ者の道標として看護概論がある。看護の道を志した動機はさまざまであるが、看護の対象である人間を理解し、看護とはなにか「考え方」を身に付けてほしい。また、将来の自分の看護師像を描きつつ、講義にご参加ください。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	1 看護とは		1看護の本質				講義	
2			2看護の役割と機能				講義	
3			③看護の継続と情報共有				講義	
4	2 看護の対象の理解		1人間の「こころ」と「からだ」				講義	
5			2生涯発達し続ける存在				講義	
6			③人間の「暮らし」の理解				講義	
7	3 国民の健康・生活の全体像の把握		1健康のとらえ方				講義	
8			2国民のライフサイクルと健康生活				講義	
9	4 看護の提供者		1職業としての看護 2看護職の資格と養成				講義	
10			③看護職の就業状況と継続教育				講義	
11			④看護職の養成制度の課題				講義	
12	5 看護における倫理		1医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理				講義	
13			2看護実践における倫理問題への取り組み				講義・GW	
14	6 看護提供のしくみ		1サービスとしての看護 2看護サービスの提供の場				講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院						
参考文献		<ul style="list-style-type: none"> 科学的看護論 著：薄井坦子 日本看護協会出版 看護覚え書き 著：F. ナイチンゲール 訳：湯槇ます他 現代社 看護の基本となるもの 著：V. ヘンダーソン 訳：湯槇ます他 日本看護協会出版社 看護者の基本的責務 監修：手島 恵 日本看護協会出版社 						
備考								

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論 I		担当	宇野 由佳 (14) 守 花絵 (16)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
宇野 由佳		臨床における看護実践経験、接遇指導経験を有す						
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験を有す。						
到達目標		1 人間関係を成立し発展させるための技術の基本を理解する。 2 人間の成長を促すための技術の基本を理解する。 3 感染防止の意義を理解し、安全を守る技術を修得する。						
授業概要		看護援助を提供する上で重要な人間関係を形成するためのコミュニケーション技術について学習する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。感染防止の知識を学び、無菌操作・消毒の技術を身に付け安全に援助できるように習得する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしています。看護技術を提供する土台となる部分なので、積極的に学習していきましょう。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	1. コミュニケーション		コミュニケーションの意義、目的、構成要素と成立過程			講義・宇野		
2			効果的なコミュニケーションの実際			講義・宇野		
3			演習：プロセスレコードの意味と実際			演習・宇野		
4			言葉の障害を持つ人への対応 基本的な言葉づかい			講義・宇野		
5			演習：看護場面でのコミュニケーション			演習・宇野		
6	2. 学習支援		看護における学習支援とは 学習支援の実際			講義・宇野		
7	3. 安全な医療環境		感染防止の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策			講義・守		
8			演習：衛生的な手洗い スタンダードプリコーション			演習・守		
9								
10			洗浄、消毒、滅菌			講義・守		
11			演習：滅菌手袋装着・滅菌ガウンの着用			演習・守		
12								
13								
14	演習：無菌操作			演習・守				
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (基礎看護学2) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (基礎看護学3) 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅱ		担当	森田 由希子 (14) 吉村 裕子 (16)
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）・実技試験 ともに60点以上で合格 (筆記) + (実技) / 2 = 科目としての最終評価	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
森田 由希子							
吉村 裕子							
到達目標		1 対象の健康状態を評価するための技術を理解する。 2 看護における記録・報告の意義と方法を理解する。					
授業概要		個別的で適切な看護援助を実施するためのフィジカルアセスメントについて学習する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解していきましょう。分からないことは、そのままにせず確認しながら繰り返し練習し身に付けていきましょう。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	ヘルスアセスメント		ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント フィジカルアセスメントに必要な技術			講義・森田	
2			バイタルサインの観察とアセスメント			講義・森田	
3			演習：体温・脈拍・呼吸の測定と報告 記録の仕方			演習・森田	
4							
5			演習：血圧の測定（触診法・聴診法）と報告			演習・森田	
6							
7			呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
8			循環器系のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
9			腹部・乳房のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
10			演習：胸腹部のフィジカルイグザミネーション			講義・吉村	
11			筋・骨格系のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
12			神経系のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
13			頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント			講義・吉村	
14			心理・社会状態のアセスメント			講義・吉村	
15	単位認定試験と実技試験						
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学2） 医学書院					
参考文献		フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 呼吸音聴診ガイドブック 医学書院					
備考							

領域	専門分野	科目	基礎看護学援助論Ⅲ		担当	守 花絵 (16) 鈴木 久美子 (14)
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）・実技試験 ともに60点以上で合格 （筆記）＋（実技）/2＝科目としての最終評価
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験				
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験有す。				
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す				
到達目標		1 活動・休息・苦痛の緩和について基礎知識を理解し、基本的援助技術を修得する。 2 環境の意義を理解し、対象にとって安全・安楽な環境を整えるための技術を修得する。				
授業概要		活動・休息、苦痛の緩和に関わる基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。 看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。健康に資する生活行動の看護技術の科学的根拠を理解し、基礎的な実践能力を身に付ける。				
学習者への期待 (含む準備学習)		患者の療養生活に関わる基本的な技術の修得を目的としているので、提示された課題を作成し、積極的に演習に参加すること。				
回数	単元	授業内容			授業方法・担当	
1	1. 活動と休息	基本的活動の援助 ボディメカニクス技術の原理			講義・守	
2		睡眠・休息の援助 体位へ保持、巻法、身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義・守	
3		演習：巻法			演習・守	
4		演習：体位変換・ポジショニング			演習・守	
5						
6		移乗・移送の援助			講義・守	
7		演習：移乗・移送			演習・守	
8						
9	2. 安全・安楽な療養環境	病床環境調整の目的方法、病床を整える援助の実際 療養環境の意義、病室の環境アセスメントと調整			講義・鈴木	
10		演習：ベッドメイキング			演習・鈴木	
11						
12		病床を整える援助の実際・転倒・転落予防			講義・鈴木	
13		演習：環境整備・臥床患者のシーツ交換			演習・鈴木	
14						
15	単位認定試験と実技試験					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院				
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社				
備考						

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅳ		担当	守 花絵 (12) 森田 由希子 (18)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験有す。						
森田 由希子								
到達目標		清潔と衣生活の意義を理解し、基本的援助技術を修得する。						
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。活動・休息、清潔・衣生活に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。						
学習者への期待 (含む準備学習)		援助方法を学ぶだけではなく人間の生活行動と関連付けて考えながら、主体的に学習していきましょう。						
回数	単元		授業内容				授業方法・教員	
1	清潔・衣生活		清潔援助の基礎知識 清潔援助の実際1 入浴・シャワー浴				講義・守	
2			清潔援助の実際2 全身清拭				講義・守	
3			衣生活援助の基礎知識 援助の実際（寝衣交換）				講義・守	
4			演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換（ガウンタイプ・セパレートタイプ）				演習・守	
5								
6			清潔援助の実際③ 手浴・足浴				講義・森田	
7			演習：臥床患者の手浴				演習・森田	
8								
9			演習：臥床患者の足浴				演習・森田	
10								
11			清潔援助の実際④ 洗髪				講義・森田	
12			演習：臥床患者の洗髪、洗髪台を用いた洗髪				演習・森田	
13								
14			清潔援助の実際⑤ 整容 口腔ケア				講義・森田	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院						
参考文献		基礎看護技術 医学書院 看護がみえる メディックメディア 看護技術 講義・演習ノート 上巻 サイオ出版						
備考								

領域	専門分野	科目	基礎看護学援助論Ⅴ		担当	鈴木 久美子 (16) 渡辺 有希 (14)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す						
渡辺 有希								
到達目標		1 健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得する。 2 排泄の意義を理解し、基本的看護技術を修得する。						
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。食事・排泄に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。						
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解していきましょう。分からないことはそのままにせず確認しながら繰り返し練習し身につけていきましょう。						
回数	単元	授業内容				授業方法・担当		
1	1. 食事	食事援助の基礎知識 経鼻経管栄養法				講義・鈴木久美子		
2		食事援助の実際				講義・鈴木久美子		
3		摂食・嚥下障害 摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助				講義・鈴木久美子		
4		演習：臥床患者、視覚障害のある患者の食事介助				演習・鈴木久美子		
5								
6		演習：経管栄養				演習・鈴木久美子		
7								
8	2. 排泄	排泄の基礎知識				講義・渡辺		
9		自然排尿及び排便を促す援助				講義・渡辺		
10		演習：臥床患者の排泄援助（便器・尿器挿入、陰部洗浄）				演習・渡辺		
11								
12		浣腸、導尿、摘便の基礎知識				講義・渡辺		
13		演習：浣腸				演習・渡辺		
14								
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野	科目	基礎看護学援助論VI			担当	宇野 由佳			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	70%	演習課題	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
宇野 由佳		臨床における看護実践経験、接遇指導経験を有す								
到達目標		看護過程の意義を理解し、科学的思考のプロセスを用いて対象のニーズを満たし看護の質を保証するケア提供の技術を修得する。								
授業概要		看護過程の意義や歴史の変遷を学びつつ、問題解決過程としての看護過程を具体的に展開し、看護の思考過程を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしています。看護技術を提供する土台となる部分なので、積極的に学習していきましょう。								
回数	単元	授業内容							授業方法	
1	看護過程	看護過程を展開させる際に基盤になる考え方							講義	
2		問題解決過程としての看護過程 アセスメントとは							講義	
3		アセスメントの技術 全体像の把握							講義	
4		看護問題の構造・記述							講義	
5		看護問題の種類、優先順位の決定							講義	
6		看護計画 目標・達成期日の設定							講義	
7		看護計画 実施							講義	
8		看護計画 評価の目的、種類、評価の視点							講義	
9		事例演習：脳梗塞疾患患者の看護							演習	
10										
11										
12										
13		事例演習：脳梗塞疾患患者の看護							演習	
14										
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (基礎看護学2) 医学書院 江川隆子著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーヴェルヒロカワ								
参考文献		科学的看護論 著：薄井坦子 日本看護協会出版								
備考										

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅶ		担当	大沼 良美(8) 渡辺 有希(6)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
大沼 良美								
渡辺 有希								
到達目標		1 人間にとって呼吸のもつ意義及び呼吸状態のアセスメントについて修得する。 2 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法の意義と方法について理解する。 3 酸素吸入療法・胸腔ドレナージにおける援助方法を修得する。 4 救急対応の考え方を理解し、心肺蘇生法の技術を修得する。						
授業概要		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識を理解し、医療機器やモデルを使用し、援助方法について演習を通し看護の実践力を高める。						
学習者への期待 (含む準備学習)		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識と技術を習得して欲しい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1.呼吸・循環を整える技術		治療・処置を受ける対象の看護 (1)				講義・大沼	
2			演習：酸素吸入、ポンベの取り扱い				演習・大沼	
3			治療・処置を受ける対象の看護 (2)				講義・大沼	
4			演習：口腔・鼻腔吸引				演習・大沼	
5	2.救命救急処置技術		救命救急処置の基礎知識 トリアージ				講義・渡辺	
6			演習：心肺蘇生法				演習・渡辺	
7								
8	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (基礎看護学③) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (基礎看護学④) 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅷ		担当	鈴木 久美子(16) 渡辺 有希(14)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有す						
渡辺 有希								
到達目標		1 診療の補助技術である与薬が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。 2 診察の補助技術である診察・検査が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。						
授業概要		看護の観察・情報収集について、シュミレーターや器具を用いて測定し、実技の演習を通し看護の実践力を高める。						
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能の知識が必要となります。関連する臓器について、講義までに復習し理解しておきましょう。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1. 薬物療法と看護		与薬の基礎知識と薬の管理 与薬の種類・原則				講義・鈴木久美子	
2			経口与薬、外用薬、誤薬防止				講義・鈴木久美子	
3			筋肉内注射、皮下、皮内注射の方法と実際 輸血・抗がん剤投与時の管理と実際				講義・鈴木久美子	
4			注射器の取り扱い、アンプル、バイアルの薬液準備 皮下注射				演習・鈴木久美子	
5								
6			筋肉内注射				演習・鈴木久美子	
7								
8	2. 診察・検査に伴う看護		検体検査（尿、便検査、採血、血糖検査、喀痰検査）				講義・渡辺	
9			採血				演習・渡辺	
10								
11			生体情報のモニタリング 心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター				講義・渡辺	
12			心電図検査				演習・渡辺	
13								
14			診察・検査・処置の介助技術				講義・渡辺	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学3） 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野		科目	臨床看護総論		担当	守 花絵 (4) 鈴木 久美子 (2) 鈴木晴美 (4) 森田 由希子 (12) 渡辺 有希 (4)			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	90%	出席状況・ 演習態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験有す。								
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す								
鈴木 晴美										
渡辺 有希										
森田 由希子										
到達目標		1 健康障害の「経過」からみた対象の特徴と看護が理解できる。 2 主要な症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助が理解できる。 3 救急対応の考え方を理解し、心肺蘇生法の技術を修得する。 4 死亡による身体の変化、死後の処置の実際が理解できる。								
授業概要		臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。臨床看護総論は、臨床看護総論では対象（家族も含む）、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療処置別の対象者への看護について学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		健康障害をもつ対象を理解し、健康障害に応じた看護を提供できるよう、知識と技術を修得して欲しい。								
回数	単元		授業内容				授業方法・担当			
1	1. 健康状態の経過に基づく看護		健康の維持・増進を目指す看護				講義：守			
2			急性期における看護（手術療法、集中治療を含む）				講義：守			
3			慢性期における看護（リハビリテーション期も含む）				講義：守			
4			終末期における看護、看取りの看護				講義：守			
5	2. 主要症状別看護		呼吸器・循環器に関連する症状を示す対象者への看護				講義：森田			
6			栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護				講義：森田			
7			排泄に関連する症状を示す対象者への看護 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護				講義：森田			
8			認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護				講義：森田			
9			安全・安楽や生体防御に関連する症状を示す対象者への看護				講義：森田			
10	3. 治療処置を受ける対象者への看護		輸液療法を受ける対象者の看護 化学療法を受ける対象者の看護 放射線療法を受ける対象者の看護				講義：鈴木晴美			
11			手術療法を受ける対象者の看護 集中治療を受ける対象者の看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者の看護				講義：鈴木晴美			
12	創傷管理技術		創傷管理の基礎知識、創傷管理				講義：渡辺			
13			演習：包帯法				演習：渡辺			
14	5. 死の看取りの援助		死後の処置				講義：鈴木久美子			
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（基礎看護学④） 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学③） 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門分野		科目	地域・在宅看護概論 I		担当	伊藤 明美(8) 稲邊 照子(4) 齊藤 恵理香(4)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	70%	レポート	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有								
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を説明できる。 2. 生活と健康をめぐる社会の動向を捉え、地域におけるケアの必要性について説明できる。 3. 地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念を理解した上で、看護実践との関連について説明できる。 4. 地域・在宅看護の基本となる倫理について、説明できる。 5. 地域・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる 6. 地域・在宅看護における家族のアセスメントや家族の介護ならびに意思決定に関する家族支援の方法を説明できる。 								
授業概要		人々の生活の基盤である地域の成り立ちを理解し、そこで展開されている日常生活の実際について学ぶことで、看護の対象を「生活者」として捉え考える。また、地域住民の生活を守るための社会の仕組みについて学び、特に、住民の健康を支える保健医療福祉システムの実際と、その中での看護職の役割について理解を深める。地域で生活するとはどういうことなのか、自分自身の日々の暮らしぶりを改めて振り返りながら、地域で生活する人々を対象にした看護の在り方を学ぶ								
学習者への期待 (準備学習含む)		自分が育ってきた地域や学生生活を過ごしている地域に関心を向け、そこで生活している人々の様々な暮らしぶりに思いをはせながら、地域社会での生活の営みや、それを支える保健医療福祉活動のしくみ、看護職の役割について学びます。看護職の視点だけでなく、生活者としての視点とは何かを一緒に考えていきましょう。								
回数	単元		授業内容				授業方法			
1	1. 地域・在宅看護の概念		1. 地域と生活 1) 地域のとらえ方 2) 地域のとらえ方 3) 地域、生活と健康の関係性 4) 地域を「みる」- 実際の街を例に 課題1: 学生が暮らしている地域について振り返る (ワークシート)				講義/DVD			
2			1. 地域と生活 課題1をグループで発表し、人々の生活や暮らしている地域などの健康への影響について話し合う 2. 地域・在宅看護の背景 1) 社会的背景と国民の価値観の変容 2) 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 ・人口や世帯構造の変化、在宅看護の変遷などと関連させ、在宅ケアが求められるようになった背景を考える。				講義/ グループワーク			
3			3. 地域・在宅看護の基盤 1) 地域・在宅看護活動 ～ 7) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 課題: 訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健所や自治体、医療機関の退院支援部門、介護福祉施設などについて調べ、利用する人々の特徴と看護職の役割を話し合う				講義/ グループワーク			
4			4. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 1) 自立・自律支援 2) 病状・病態の予測と予防 5. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 1) セルフケア理論～9) ヘルスプロモーション 6. 地域・在宅看護における倫理 1) 看護倫理の概要と活用 2) 在宅看護特有の倫理問題 ・看護における倫理4原則を踏まえ、地域・在宅看護における倫理的問題の特徴と人々の尊厳と権利を守る解決法を学ぶ				講義			
5	2. 在宅療養者と家族の支援		1. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域・在宅看護の対象と背景 2) 法制度からみた対象者～8) 状態別・状況別対象者 2. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 1) 療養者・家族側の条件 2) サービス提供者側の条件 ・地域・在宅看護の対象者の特徴について理解し、在宅ケアでは、本人と家族の自己決定が前提であることを学ぶ				講義			
6			3. 在宅療養の場における家族のとらえ方 1) 家族とは 2) 家族形態に応じた看護 4. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族の介護力のアセスメントと調整 ～ 5) レスパイトケア ・家族に関するアセスメントを理解し、家族の強みを生かした介入方法を考える							
7			5. 事例: 療養者と家族へのケアー腹膜透析期の独居療養者 ・ジェノグラムとエコマップを作成したうえで、その家族が在宅看護にどのように関わっているか、話し合う				講義/ グループワーク			
8	単位認定試験と解説									
教科書	ナーシング・グラフィカ		地域・在宅看護論		地域を支えるケア		メディカ出版			
参考文献	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座		専門基礎 専門分野 専門分野		公衆衛生 看護学概論 地域・在宅看護論		医学書院 医学書院 医学書院			
備考										

領域	専門分野		科目	地域・在宅看護概論Ⅱ		担当	伊藤 明美(8) 稲邊 照子(4) 齊藤 恵理香(4)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	80%	レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有								
稲邊 照子		臨床での看護実践、准看護学院教務班長、病院外来棟師長、医事課長、老人保健施設での看護係長業務の経験を有す								
齊藤 恵理香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有す								
到達目標		1. 地域包括ケアシステムの構成と機能を理解し、その中で重要な役割を担う地域包括支援センターの機能を説明できる。 2. 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 3. 病院の病床機能と看護の特徴を踏まえ、地域・施設や転院への療養以降の支援の基本について、説明できる 4. ケアマネジメントの目的と機能を理解し、介護保険制度におけるケアマネジメントの提供方法について、説明できる。 5. 介護保険や医療保険、障害者支援などを含む地域・在宅看護に重要な制度の概要について、説明できる。 6. 高齢者の地域生活を支援する制度について説明できる。								
授業概要		地域・在宅看護の支援には、対象者とその家族に対する個別の看護支援に加え、多職種から構成されるケアチーム、地域全体を、広い視野で把握した看護支援が含まれる。本科目では、社会背景を踏まえ、地域包括ケアシステムの必要性を理解するとともに、チームアプローチの重要性とその中での看護の役割や在宅に必要な公助・共助のサービスを提供する場合のケアマネジメントや地域と繋がりを維持することの重要性を学ぶ。さらに、地域・在宅看護論に必要な法・制度・施策を事例などを活用し主体的に学習をしていく。								
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は、家庭から地域へ広がりを加えて対象を捉えていく地域看護の主要な領域を担う。日々の生活の成り立ち、対象と家族成員の健康状態や地域社会とのつながりの中で理解することが必要となる。看護師国家試験でも重点が置かれている領域でもあり、出題数も増えてきている。自身の生活、社会情勢の変化に関心を持って欲しい。								
回数	項目		授業内容				授業方法			
1	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護		1. 地域アセスメント 1) 地域アセスメントとその意義 2) 3) 地域アセスメントの活用・方法 2. 地域包括ケアシステム 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 3) 地域包括支援センター				講義			
2			3. 療養の場に意向に伴う看護 1) 医療機関における入退院時の連携 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 1) 行政機関との連携～7) 地域における複合的な連携 ・看護サマリーを活用した事例を通し継続看護を考える				講義/ グループワーク			
3			5. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 1) 看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメントの概要 ～5) 地域包括ケアと地域ケア会議 6. 事例：地域の課題解決に発展したケース 課題：必要なすべての社会資源を考え、社会資源の内容と頻度を記載したケアプランを作成し、なぜそのように考えたのか話し合う				講義/ グループワーク			
4	4. 地域療養を支える制度		1. 社会資源の活用 1) 在宅療養を支える人～4) 社会資源の活用における看護職の役割 2. 医療保険制度 1) 制度の概要としくみ 2) 主な医療（サービス）給付 3. 後期高齢者医療制度 1) 制度の概要と仕組み 2) 主な医療（サービス）給付				講義			
5			4. 介護保険制度 1) 制度の概要と仕組み～6) これからの介護保険制度 課題：仙台市ホームページから住民向け介護保険情報を調べ、制度利用申請からサービスを受けるまでのプロセスを調べる				講義			
6			5. 生活保護制度 6. 障害者に関連する法律 1) 障害の分類～8) 障害者福祉のこれから 7. 難病法 11. 事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に老けた支援 ・難病法、指定難病との関連について理解を深める				講義			
7			8. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 1) 小児慢性特定疾病対策 2) 養育医療 3) 子どもの在宅療養を支える手当 9. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 1) 権利擁護とは～5) オンブズマン制度 10. 高齢者施策 1) 高齢者に対する施策の歴史～高齢者虐待防止法				講義			
8			単位認定試験と解説							
教科書		ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術								
参考文献		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 / 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院								
備考										

領域	専門分野		科目	成人看護学概論		担当	内田 祝子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	90%
							レポート	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
内田 祝子		成人領域の看護実践、看護教員の経験を有す						
達成目標		1. 生涯発達の特徴と現代の生活状況から成人の特徴を捉え、ライフスタイルがもたらす成人の健康問題の特徴を理解する。 2. 成人の特性や能力、生活背景を踏まえ、成人の成長・発達・適応の可能性を引き出す看護援助について理解する。 3. ストレス・危機理論、人間関係理論を活用し、成人の健康レベルに応じた看護援助方法について理解する。						
授業内容		成人期にある人々を内的・外的環境に適応し生涯発達し続ける存在と捉え、その人生の歩み、社会生活の営みについて学ぶ。また、ライフスタイルと成人の健康生活の相互関連性など成人の看護アプローチの基本となるストレス・適応・危機理論、看護者と患者の相互関係について学び、看護に応用する能力を養う。						
学習者への期待		成人看護学は、範囲が広く、基本から積み重ねる学習が必要です。自分の学習動機・目標を明確にし、継続的、主体的に学ぶ姿勢を育てましょう。常に、「考えること」「自分の考えを言葉にすること」「他者の考えを聞くこと」が大切です。授業を通して実践しながら身につけて下さい。						
回数	単元			授業内容			授業方法	
1	成人期にある人の理解 成人の健康と生活意義申立			ガイダンス 成人期にある人の理解			講義	
2				生涯発達 成人期の特徴			講義	
3				成人と生活			講義	
4				成人期にある人の健康1			講義	
5				成人期にある人の健康2			講義	
6	成人への看護アプローチの基本			看護アプローチの基本1			講義	
7				看護アプローチの基本2			講義	
8	成人の健康レベルに対応した看護			ヘルスプロモーションと看護			講義・演習	
9				健康をおびやかす要因と看護			講義・演習	
10				人生の最期のときを支える看護			講義・演習	
11				健康生活の急激な破綻から回復を促す援助			講義・演習	
12				障害がある人の生活とリハビリテーション			講義・演習	
13				健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護			講義・演習	
14	成人の健康生活を促すための看護技術			学習者である看護への看護技術			講義・演習	
15	単位認定試験と解説							
教科書		小松浩子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院						
参考文献		黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研						
備考								

領域	専門分野		科目	老年看護学概論		担当	猪狩 綾	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	70%
							GW評価	10%
							レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
本木 泉		臨床及び施設での老年看護実践・ケアマネジャー業務経験を有す						
到達目標		1 高齢者を取り巻く社会の動向が理解できる。 2 高齢者の身体的、心理的、社会的側面の変化が理解できる。 3 高齢社会における保健医療福祉制度や施策が理解できる。 4 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解することができる。						
授業概要		老いがもつ諸側面が、個々の高齢者の生命や生活にどのような問題をもたらしているかを知り老年看護の在り方と高齢者の生活の質の確保に必要なさまざまな保健・医療・福祉制度について紹介していく。						
学習者への期待 (含む準備学習)		老いに対するイメージを客観的に受け止め、「成熟」と「衰退」の2つの側面の意味を知り高齢者の置かれている状況について理解し興味・関心を持ち、主体的に学んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	1章 「老い」を生きるということ	A 老年看護を学ぶ入り口 B 「老いる」ということ ①加齢と老化 ②老いのイメージ				講義		
2		②加齢に伴う身体的側面の変化 ③加齢に伴う心理的・社会的側面の変化				講義		
3		C 老いを生きるということ ①高齢者の定義 ②発達と成熟				講義		
4	2章 「超高齢社会と社会保障」	A 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族 ②健康状態 ③死亡 ④暮らし				講義		
5		B 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①保健医療福祉制度の変遷				講義		
6		②介護保険制度				講義・演習		
7						講義・演習		
8		③高齢者医療のしくみ (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化				講義		
9		C 高齢者の権利擁護 (1) スティグマと差別 (2) 高齢者虐待				講義		
10		(3) 身体拘束				講義		
11		(4) 権利擁護のための制度 1成年後見制度				講義		
12	高齢者体験	高齢者模擬体験 GW・発表				演習		
13						演習		
14	3章 「老年看護の成立ち」	B 老年看護の役割 C 老年看護における理論・概念の活用				演習		
15	単位認定試験と解説							
教科書		「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」 医学書院 「生活機能からみた看護過程」 医学書院 「老年看護技術」 医学書院						
参考文献		国民衛生の動向						
備考								

領域	専門分野		科目	精神看護学概論		担当	阿部 利寿	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	80%
							レポート	10%
							授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり						
到達目標		1 精神の健康を理解し、精神看護の目的・対象を理解する。 2 心の健康の概念、心の健康に影響を及ぼす因子を理解する。 3 精神障害の治療と歴史を踏まえ、精神保健医療の現状を理解する。 4 ストレスが心に与える影響を理解する。 5 リエゾン精神看護の活動を理解する。						
授業概要		心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心を病む人を理解するための基礎知識と共に、保健・医療・福祉の視点から社会での生きづらさを感じながら生活している心を病む人に対する看護の基礎を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		精神看護学ではこころの障害とそのケアについて学びます。心の病は誰にでも起こり得る身近な病気であることを、授業を通して理解してください。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと		精神看護学とは何か、精神障害を持つ人の病の体験と精神看護、「心のケア」と現代社会、精神看護学とその課題				講義	
2	精神保健の考え方		精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレスの影響、心的外傷（トラウマ）と回復、精神障害のとらえ方、				講義	
3	社会の変化とメンタルヘルス		現代社会と精神(心)の健康				講義	
4			家族と精神(心)の健康				講義	
5	心のはたらきと人格の形成		心のはたらき(人間の心の諸活動)				講義	
6			心のしくみと人格の発達(人格と気質、フロイトの精神力動理論、ライフサイクルとアイデンティティ)				講義	
7			よい乳房・わるい乳房(対象関係論)、愛着と心の安全基地(ボウルビーの愛着理論)、自己愛と自己対象体験(コフートの自己心理学)、「甘え」理論				講義	
8			「ジョハリの窓」による自己分析のグループワーク				講義 GW	
9	看護援助の展開		看護援助の基本構造、精神障害を持つ人のセルフケアの援助				講義	
10	社会の中の精神障害		精神障害と治療と歴史、日本における精神医学・精神医療の流れ				講義	
11			精神障害と文化、精神障害と社会学、精神障害と法制度①				講義	
12			精神障害と法制度②、おもな精神保健医療福祉対策とその動向				講義	
13			倫理と人権、ノーマライゼーション 「宇都宮病院」の事例に基づき、人権擁護について考える				講義 GW	
14	医療の場におけるメンタルヘルスと看護		身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス、リエゾン精神看護とその活動、リエゾナーズの活動の実際、看護師のメンタルヘルスへの支援				講義	
15	単位認定試験		単位認定試験と解説					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献		新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社						
備考								

領域	専門分野	科目	基礎看護学実習 I	担当	鈴木 久美子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	前期	1単位	45時間	1週間	実習	実習目標達成度 100%
授業概要	看護の対象理解と対象が療養する場の理解を深め、対象とのコミュニケーションをとって、医療の場における看護の役割と機能を学ぶ。					
学習者への期待 (含む準備学習)	対象の思いや体験していることに関心を向けながらコミュニケーションを図りましょう。体調を整えて、積極的な姿勢で臨んでください。					
実習内容						
<p>I 実習目的</p> <p>病気を持つ対象を理解すると共に、対象の療養環境を知り、対象の療養生活を支える看護の役割と機能について学ぶ。</p> <p>II 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病気によって起こる対象のからだ、こころや生活の変化について理解することができる。 2 看護活動を見学または一緒に参加し、看護がどのように実践されているか考えることができる。 3 対象の持てる力を活かせるように、環境、食事、清潔、排泄等の生活過程を整える看護援助を実施することができる。 4 対象の生活の場・治療の場である療養環境を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることを知ることができる。 5 実習での体験を通して看護への関心を高め、看護に対する自己の課題に気づき、今後の成長の方向性を描くことができる。 <p>III 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病院施設で実習を行う。実習グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。 2 患者1名を受け持ち、対象の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 3 看護師の行う看護援助の見学や看護師と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。 4 看護援助の見学後に、原則として学生の希望を優先して受け持ち患者を選定する。 <p>IV 実習時間 原則 9:00 ~ 15:00</p> <p>*詳細は実習要項を参照する</p>						
曜日	午前	午後				
月	病院・病棟オリエンテーション 院内見学（指導者・教員・学生）	看護活動の見学 受持ち患者の選定と情報収集 受持ち患者への挨拶 カンファレンス(1時間)				
火	行動計画の発表 受持ち患者とのコミュニケーション 看護活動の見学	看護活動の見学 カンファレンス（1日の振り返り、目標達成確認） 記録の整理				
水	帰校日（9:00~16:00）	これまでの実習の振り返り 学習方法についての助言を受けながら今後の実習課題を明確化する				
木	行動計画の発表 受持ち患者への援助場面の見学及び受持ち患者との関わりから看護の対象を理解する。	受持ち患者への援助場面の見学及び援助 カンファレンス（1日の振り返り、目標達成確認） 記録の整理				
金		カンファレンス（基礎看護学実習 I の学びの発表と基礎看護学実習 II に向けての課題について話し合う）				

領域	専門分野	科目	地域・在宅看護論実習 I			担当	稲邊 照子 伊藤 明美 齊藤 恵里香
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	45時間	1週間	実習	実習目標達成度	100%
授業概要	社会福祉協議会での地域住民による支えあいを支援する取り組みなどの説明や、老人福祉センターでの趣味活動や健康増進目的で参加している方々と触れ合うことで、生活者の視点から健康問題を捉え、様々な健康レベル、発達段階にある個人・家族・集団への支援の特徴を理解する。						
学習者への期待 (含む準備学習)	地域の多様な場で療養する人々を対象に、必要な治療やケアが地域の中で継続して行われ、命と暮らしの連続性が保たれ、その人らしく生活できるよう支援することが求められています。住み慣れた環境で自分らしく生活していくことを支援するという視点で考えるため、「人々が生活者として地域（コミュニティ）でどのような暮らしを送っているのか」「生活の基盤としての地域（コミュニティ）は人々にとってどのようなものであるか」についての理解を深めていきましょう。						
実習内容							
<p>【実習時期】1年次前期</p> <p>【実習期間】5日間（学内2日含む）</p> <p>【実習目的】 地域の暮らしを理解するとともに、人々が支え合って生きることの大切さを理解し、人々の健康づくりを支援する仕組みと場、それらのつながりにおける看護活動について考えることができる</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で生活する人々の生活環境と健康との関連を考えることができる 2 地域で生活する人々との触れ合いを通して、健康ニーズについて理解することができる 3 集いの場である「いきいきサロン」「子育てサロン」活動を調べ、住民と協力しての「互助」について考える 4 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 仙台市「集いの場」サロン活動の場を中心に、地域の社会資源を調べる 学内1日、街歩き1日 <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（地区社会福祉協議会）の活動内容やサロン活動の具体的な活動を調べ、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ ・地域の社会資源（医療機関、福祉施設、公共機関など）を調べ、実際に街歩きをし、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を考える 2) 老人福祉センター 実習2日 学内1日 <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターで行われている「趣味の教室」や季節の行事・レクリエーション、健康づくりなどの活動や生活相談や健康相談などの目的を理解する ・利用している方々から話を聞き、地域での生活や健康に対する思いを理解する 							
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術						
参考文献	新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院						
備考							

第6回生

学籍番号

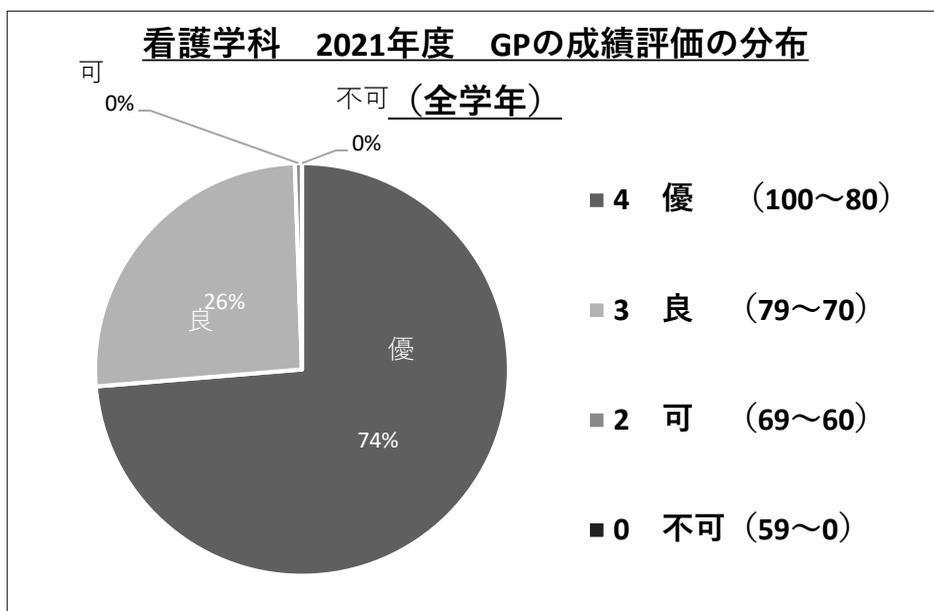
氏名

葵会仙台看護専門学校

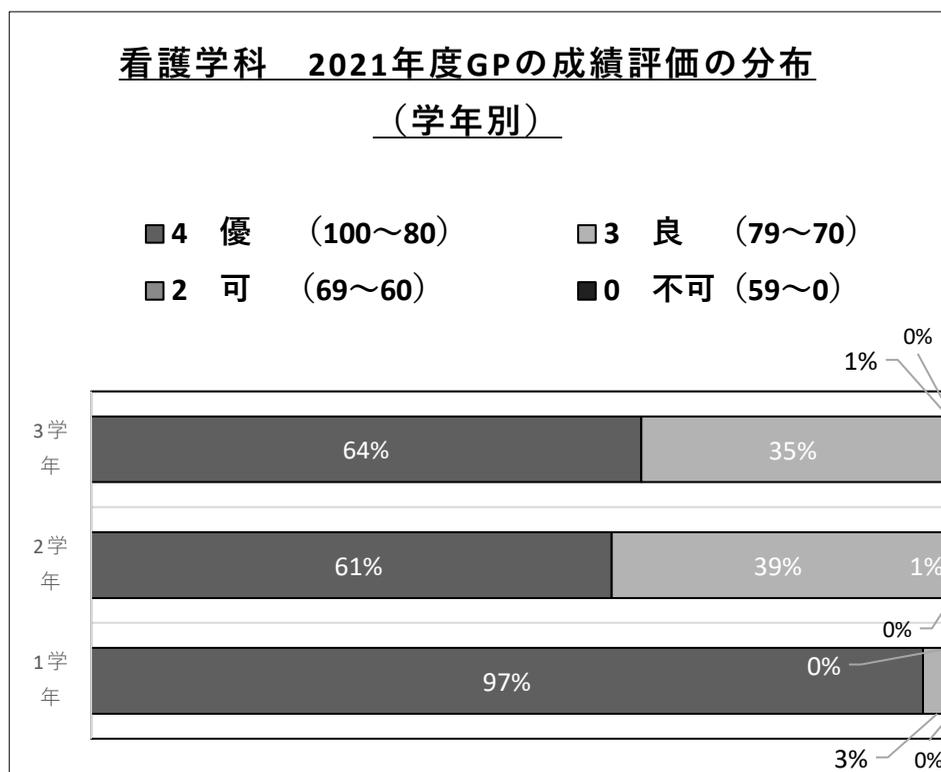
(TEL 022-380-1122)

客観的な指標に基づく成績の分布状況

2021年度 GPA分析



看護学科 通年GPA
3.72



看護学科 通年GPA	
3学年	3.63
2学年	3.59
1学年	3.97

下位1/4に該当する指標の数値及び人数		
3学年	3.25以下	31名
2学年	3.08以下	34名
1学年	3.61以下	30名

葵会仙台看護専門学校 単位認定会議規程

(設置)

第1条 この規程は、仙台葵会看護専門学校（以下「本校」という。）の学生の単位授与及び既修得単位認定に関する事項を判定するため、本校学則第36条に規定する単位認定会議（以下「会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科目の単位取得に関する事項
- (2) 学生の既修得単位認定に関する事項
- (3) 卒業判定に関する事項
- (4) その他学校長が必要と認めた事項

(組織)

第3条 学校長、副学校長、教務主任、実習調整者、専任教員を以って組織する。

(議長)

第4条 学校長は、会議の議長となる。

2 議長は会議の会務を総理し、会議を代表する。

(会議)

第5条 会議は議長が年3回以上招集する。

2 会議は構成員の3分の2の出席がなければ、会議を開催できない。

3 議長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見または説明を聴くことができる。

(事務)

第6条 会議の事務は、本校事務において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は議長が会議に諮って定める。

附則

1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

葵会仙台看護専門学校 履修規程

(目的)

第1条 この規程は、葵会仙台看護専門学校学則（以下「学則」という。）第17条及び学則細則第7条に定めるもののほか授業を行うために必要な事項を定めるものとする。

(科目の履修方法)

第2条 各授業科目の学習及び実習については、次の各号に従って受講しなければならない。

- (1) 看護学科各学年各クラスの所定の時間割により受講する。
- (2) 授業時間は1時間を45分とし90分を以って2時間とする。
- (3) 授業科目及び臨地実習は全科目必修とする。
- (4) 授業科目及び臨地実習ごとに出席を確認する。
 - ① 授業の場合、授業開始時刻の20分までの入室は遅刻、20分以後は欠課、授業終了時刻の20分前以前の退室は早退となる。
 - ② 臨地実習の場合、実習開始時刻の20分までの入室は遅刻、20分以後は欠課、実習終了時刻の20分前以前の退室は早退となる。
 - ③ 遅刻・早退は、同一教科3回を以ってその教科の1回の欠課として取り扱う。ただし、1回の欠課とは授業の場合2時間、臨地実習の場合1時間とする。

(始業、終業時刻及び授業時間)

第3条 始業時刻及び終業時刻は次の通りとする。

始業時間	9:00
終業時間	17:50
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
3時限	13:00 ~ 14:30
4時限	14:40 ~ 16:10
5時限	16:20 ~ 17:50

- 2 学校長が必要と認めたときは、前項の時間を変更することができる。
- 3 臨地実習時間については実習形態により第1項の時間でない場合もある。

(授業科目及び臨地実習の評価)

第4条 授業科目は、筆記試験、レポート、実技試験等（以下「試験等」という）を行い、評価する。

- 2 評価に際しては、シラバス等で評価基準を周知し、その基準により評価する。
- 3 臨地実習においては、実習指導者及び担当教員が各領域の実習内容、提出物及び実習態度により総合的に評価する。

(試験等の受験資格)

第5条 試験等の受験資格は次の各号に該当する者に与える。

- (1) 各授業科目及び演習等の出席時間が学則に定める授業時間の3分の2以上の者。
- (2) 臨地実習の出席時間が3分の2以上の者。
- (3) 各授業科目による課題の提出物を提出している者。

(単位修得の認定)

第 6 条 各授業科目の単位修得の認定に必要な時間数を満たした者で、試験等に合格した者には所定の単位を与える。

(既修得単位の認定)

第 7 条 学則第 18 条に定める既修得単位認定については、既修得単位認定取扱規程を別に定める。

(試験の実施)

第 8 条 試験は原則として当該科目の期間中または終了後の学期末に、受験資格のある者に対して行う。

2 故意に試験を忌避、または不正行為を行った者は当該授業科目の評価は不合格とする。

3 試験等において不正行為が判明したときは、懲戒処分にし、修了の認定をしない。

4 学費等を滞納している者は、受験することができない。

(成績の評価)

第 9 条 授業科目及び臨地実習の評価は、1 科目 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。

2 授業科目及び臨地実習の成績の評価は、その授業科目の担当講師が次の基準により行う。

評 価	得点 (点数)	合 否
優	100 ～ 80点	合 格
良	79 ～ 70点	
可	69 ～ 60点	
不可	59 ～ 0点	不 合 格

(追試験)

第 10 条 以下の理由により試験を受けることができなかった者には追試験を行う。

(1) 学校保健安全法施行規則第 18 条による感染症である場合 (医師の診断書または領収書等の証明できるものの提出が必要)

(2) 忌引 (関係書類の提出が必要)

(3) 災害、交通機関等の事故または遅延で登校が不能となった場合 (自治体、交通機関等発行の証明書等の提出が必要)

(4) その他、学校長が認めた場合

2 追試験の日程、授業科目、申し込み手続期間等は教員会議において決定する。

3 追試験を受けようとする者は、「追試験願」【学生様式第 17 号】を提出し学校長の許可を得るものとする。

4 追試験に合格した者の当該授業科目に係る評価は、前条の評価基準に従う。

(再試験)

第 11 条 再試験は当該授業科目の試験において評価が不可となった者に対して行う。

2 再試験の日程、授業科目、申し込み手続期間等は教員会議において決定する。

3 再試験を受けようとする者は、「再試験願」【学生様式第 18 号】を提出し学校長の許可を得るものとする。

4 再試験は原則として 1 授業科目につき 1 回までとし、合格した者の当該授業科目に係る評定は取得点数に関わらず「可 (60 点)」とする。

5 再試験受験料は 1 授業科目 3,000 円とし、受験前の定められた期間内に納付するものとする。

6 再試験受験料を納付しない者は、当該授業科目の受験資格が得られないものとする。

7 再試験が不合格の者は、原則として単位を認定しないものとする。

(追実習)

第 12 条 臨地実習において、以下の理由で実習時間が 3 分の 2 に達しない者は不足時間を補充するため、追実習を行う。

- (1) 学校保健安全法施行規則第 18 条による感染症である場合（医師の診断書または領収書等の証明できるものの提出が必要）
- (2) 忌引（関係書類の提出が必要）
- (3) 災害、交通機関等の事故または遅延で登校が不能となった場合（自治体、交通機関等発行の証明書提出が必要）
- (4) その他、学校長が認めた場合

2 追実習の内容、日程等については、原則としてその学期内で教員会議において決定する。

3 追実習を受けようとする者は「追実習願」【学生様式第 19 条】を提出し学校長の許可を得るものとする。

4 追実習に合格した者の当該科目に係る評価は、履修規程第 9 条第 2 項の評価基準に従う。

(再実習)

第 13 条 臨地実習の実習評価が「不可」となった者は、再実習を行うことにより単位取得できる。

2 再実習の内容、日程等については、原則としてその年度内で教員会議において決定する。

3 原則、再実習は 1 回までとする。

4 再実習を受けようとする者は、「再実習願」【学生様式第 20 号】を提出し学校長の許可を得るものとする。

5 再実習を許可された者は、再実習費（3,000/日）を再実習前の定められた期間内に納付する。

6 再実習に合格した者の当該科目に係る評定は「可（60 点）」とする。

(再履修)

第 14 条 単位が取得できなかった授業科目等は、再履修しなければならない。

【学生様式第 21 号】【学生様式第 22 号】

(科目の読み替え等)

第 15 条 入学時の教育課程（カリキュラム）が卒業まで適用される。

2 教育効果を高めるため、開講科目の変更等のカリキュラム改正が行われることがある。

3 休学等により改正カリキュラムで修学することになった場合、旧カリキュラム開講科目を改正カリキュラム開講科目に読み替えて履修することができる。

4 読み替え科目一覧表（別表 1）は、学年始めのオリエンテーション時に配布する。

(雑則)

第 16 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、学校長が定める。

附則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この改正規定は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

別表1

履修替え科目一覧表

2022.4.1

旧カリキュラム						改正カリキュラム						
科目名	開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	科目名	開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	開講年度
論理学	1	後期	1	30	講義	論理学	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
情報科学	1	前期	1	30	講義・演習	情報リテラシーⅠ	1	前期	1	15	講義・演習	2022年度開講
						情報リテラシーⅡ	3	前・後期	1	15	講義・演習	2024年度開講
看護物理学	1	前期	1	15	講義	看護物理学	1	前期	1	15	講義	2022年度開講
音楽	1	後期	1	30	講義・演習	なし						別途開講
倫理学	2	後期	1	30	講義	スタートアップセミナー	1	前期	1	15	講義・演習	2022年度開講
心理学	1	後期	1	30	講義・演習	倫理学	2	前期	1	30	講義	2023年度開講
教育学	2	前期	1	30	講義	心理学	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
社会学	1	前期	1	30	講義	教育学	2	前期	1	30	講義	2023年度開講
医療英語Ⅰ	1	前期	1	15	講義・演習	社会学	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
医療英語Ⅱ	1	前期	1	30	講義・演習	医療英語Ⅰ	1	前期	1	15	講義・演習	2022年度開講
運動と健康	1	前期	1	30	講義・演習	医療英語Ⅱ	1	前・後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
人間関係論	1	前期	1	30	講義・演習	なし						別途開講
ホスピタリティ論	1	前期	1	15	講義・演習	人間関係論	1	前期	1	30	講義・演習	2022年度開講
						なし						別途開講
						地域文化	1	後期	1	15	講義・演習	2022年度開講
						地域共生論	1	前期	1	30	講義・演習	2022年度開講
人体構造・機能学Ⅰ	1	前期	1	30	講義	人体構造機能学Ⅰ	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
人体構造・機能学Ⅱ	1	前期	1	30	講義	人体構造機能学Ⅱ	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
人体構造・機能学Ⅲ	1	前期	1	30	講義	人体構造機能学Ⅲ	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
人体構造・機能学Ⅳ	1	後期	1	30	講義	人体構造機能学Ⅳ	1	前・後期	1	30	講義	2022年度開講
生化学	1	前期	1	30	講義	生化学	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
微生物	1	前期	1	30	講義	微生物学	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
栄養学	1	前期	1	30	講義	栄養学	1	前期	1	30	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅰ	1	前期	1	30	講義	病態治療学Ⅰ	1	前期	1	15	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅱ	1	後期	1	30	講義	病態治療学Ⅱ	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅲ	1	後期	1	30	講義	病態治療学Ⅲ	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅳ	1	後期	1	30	講義	病態治療学Ⅳ	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅴ	1	後期	1	30	講義	病態治療学Ⅴ	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
病態治療学Ⅵ	2	前期	1	30	講義	病態治療学Ⅵ	2	前期	1	30	講義	2023年度開講
						総合臨床判断	2	後期	1	15	講義・演習	2023年度開講
薬理学	1	後期	1	30	講義	薬理学	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
リハビリテーション論	2	前期	1	15	講義	リハビリテーション論	2	前期	1	15	講義	2023年度開講
総合医療論	1	前期	1	15	講義	総合医療論	1	前期	1	15	講義	2022年度開講
公衆衛生学	2	後期	1	15	講義	公衆衛生学	2	前期	1	15	講義	2023年度開講
社会保険	2	前期	1	15	講義	社会保険	2	前期	1	15	講義	2023年度開講
社会福祉	2	前期	1	15	講義	社会福祉	2	前期	1	15	講義	2023年度開講
看護関連法令	3	後期	1	15	講義	看護関連法令	3	後期	1	15	講義	2024年度開講
経済と看護	3	前期	1	15	講義	経済と看護	3	前期	1	15	講義	2024年度開講
看護学概論	1	前期	1	30	講義・GW	看護学概論	1	前期	1	30	講義・GW	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅰ	1	前期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅰ	1	前期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅱ	1	前・後期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅱ	1	前・後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅲ	1	前・後期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅲ	1	前・後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅳ	1	前期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅳ	1	前期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅴ	1	後期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅴ	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅵ	1	後期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅵ	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅶ	1	後期	1	15	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅶ	1	後期	1	15	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅷ	1	後期	1	30	講義・演習	基礎看護学援助論Ⅷ	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
基礎看護学援助論Ⅸ	1	後期	1	30	講義・演習	臨床看護総論	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
						臨床看護後論	2	前期	1	15	講義・演習	2023年度開講
基礎看護学実習Ⅰ	1	前期	1	45	実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	前期	1	45	実習	2022年度開講
基礎看護学実習Ⅱ	2	後期	2	90	実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	後期	2	90	実習	2023年度開講
成人看護学概論	1	後期	1	30	講義	成人看護学概論	1	後期	1	30	講義・演習	2022年度開講
成人看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義	成人看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅱ	2	前期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅱ	2	前期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅲ	2	前期	1	30	講義	成人看護学援助論Ⅲ	2	前・後期	1	30	講義	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅳ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅳ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅴ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅴ	2	後期	1	15	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅵ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅵ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅶ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅶ	2	後期	1	15	講義・演習	2022年度開講
成人看護学援助論Ⅷ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅷ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅸ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅸ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅹ	2	後期	1	15	講義・演習	成人看護学援助論Ⅹ	2	後期	1	15	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅺ	2	後期	1	30	講義・演習	成人看護学援助論Ⅺ	2	前・後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
成人看護学援助論Ⅻ	2	後期	1	15	演習	成人看護学援助論Ⅻ	2	後期	1	15	演習	2023年度開講
母性看護学概論	2	前期	1	30	講義	母性看護学概論	2	前期	1	30	講義	2023年度開講
母性看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義・演習	母性看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義・演習	2023年度開講
母性看護学援助論Ⅱ	2	後期	1	30	講義・演習	母性看護学援助論Ⅱ	2	前・後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
母性看護学援助論Ⅲ	2	後期	1	15	講義・演習	母性看護学援助論Ⅲ	2	後期	1	15	演習	2023年度開講
精神看護学概論	1	後期	1	30	講義	精神看護学概論	1	後期	1	30	講義	2022年度開講
精神看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義・演習	精神看護学援助論Ⅰ	2	前期	1	30	講義・演習	2023年度開講
精神看護学援助論Ⅱ	2	前期	1	30	講義・演習	精神看護学援助論Ⅱ	2	前期	1	30	講義・演習	2023年度開講
精神看護学援助論Ⅲ	2	後期	1	15	講義・演習	精神看護学援助論Ⅲ	2	後期	1	15	講義・演習	2023年度開講
成人看護学実習Ⅰ	2	後期	3	135	実習	成人・老年看護学実習Ⅱ	3	前期	3	135	実習	2024年度開講
成人看護学実習Ⅱ	3	前期	3	135	実習	成人・老年看護学実習Ⅰ	3	前期	3	135	実習	2024年度開講
成人看護学実習Ⅲ	2	後期	2	90	実習	成人・老年看護学実習Ⅲ	2	後期	3	135	実習	2023年度開講
小児看護学実習	3	前期	2	90	実習	小児看護学実習	3	前期	2	90	実習	2024年度開講
母性看護学実習	3	前期	2	90	実習	母性看護学実習	3	後期	2	90	実習	2023年度開講
精神看護学実習	3	前期	2	90	実習	精神看護学実習	2	後期	2	90	実習	2023年度開講
在宅看護概論	1	後期	1	30	講義	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	前期	1	15	講義	2022年度開講
在宅看護援助論Ⅰ	2	前期	1	15	講義・演習	地域・在宅看護概論Ⅱ	1	後期	1	15	講義	2022年度開講
在宅看護援助論Ⅱ	2	後期	1	30	講義・演習	在宅療養を支える技術Ⅰ	2	後期	1	15	講義	2023年度開講
在宅看護援助論Ⅲ	2	後期	1	30	講義・演習	在宅療養を支える技術Ⅱ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
						在宅療養を支える技術Ⅲ	2	後期	1	30	講義・演習	2023年度開講
						地域療養を支えるケア	2	前期	1	15	講義	2023年度開講
看護研究の基礎	2	後期	1	30	講義・演習	看護研究の基礎	3	前・後期	1	15	講義・演習	2024年度開講
看護管理と医療安全	3	前・後期	1	30	講義	看護管理	3	前期	1	15	講義	2024年度開講
災害・国際看護学	3	前期	1	15	講義	医療安全	3	前期	1	15	講義	2024年度開講
臨床実践の統合	3	前・後期	1	30	講義・演習	災害・国際看護学	3	前期	1	30	講義	2024年度開講
						臨床実践の統合	3	前・後期	1	30	講義・演習	2024年度開講
在宅看護論実習	3	前期	2	90	実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	後期	1	45	実習	2022年度開講
統合実習	3	後期	2	90	実習	地域・在宅看護論実習Ⅱ	3	前期	2	90	実習	2024年度開講
						統合実習	3	後期	2	90	実習	2024年度開講

【2021年度決算】

貸借対照表

令和4年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	16,872,896,069	17,531,728,236	△ 658,832,167
有形固定資産	16,312,040,459	16,940,853,908	△ 628,813,449
土地	5,346,458,413	5,346,458,413	0
建物	6,710,574,476	6,991,985,872	△ 281,411,396
建物付属設備	1,217,818,961	1,404,115,984	△ 186,297,023
構築物	231,368,542	241,495,213	△ 10,126,671
教育研究用機器備品	973,529,892	1,119,218,524	△ 145,688,632
管理用機器備品	65,769,005	78,440,127	△ 12,671,122
図書	1,753,549,167	1,746,167,772	7,381,395
車両	3	3	0
建設仮勘定	12,972,000	12,972,000	0
特定資産	535,889,681	562,308,373	△ 26,418,692
退職給与引当特定資産	535,889,681	562,308,373	△ 26,418,692
その他の固定資産	24,965,929	28,565,955	△ 3,600,026
電話加入権	1,662,936	1,662,936	0
施設利用権	6,851,250	6,851,250	0
ソフトウェア	4,796,714	5,792,582	△ 995,868
長期貸付金	960,454	1,962,292	△ 1,001,838
保証金	8,918,900	9,224,900	△ 306,000
長期前払金	1,775,675	3,071,995	△ 1,296,320
流動資産	1,773,805,526	1,823,632,876	△ 49,827,350
現金預金	1,639,638,989	1,696,250,189	△ 56,611,200
未収入金	120,069,562	108,605,493	11,464,069
貯蔵品	182,159	380,031	△ 197,872
短期貸付金	418,228	140,000	278,228
前払金	9,192,715	9,640,410	△ 447,695
立替金	4,303,873	8,616,753	△ 4,312,880
資産の部合計	18,646,701,595	19,355,361,112	△ 708,659,517
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,375,172,062	2,527,705,633	△ 152,533,571
長期借入金	1,760,918,000	1,859,762,000	△ 98,844,000
長期未払金	70,306,380	99,472,860	△ 29,166,480
退職給与引当金	543,947,682	568,470,773	△ 24,523,091
流動負債	1,446,706,312	1,689,477,468	△ 242,771,156
短期借入金	98,844,000	66,840,000	32,004,000
未払金	312,361,555	460,182,726	△ 147,821,171
前受金	920,811,022	1,056,789,030	△ 135,978,008
預り金	114,689,735	105,665,712	9,024,023
負債の部合計	3,821,878,374	4,217,183,101	△ 395,304,727
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	28,322,149,237	28,170,507,160	151,642,077
第1号基本金	27,999,149,237	27,847,507,160	151,642,077
第4号基本金	323,000,000	323,000,000	0
繰越収支差額	△ 13,497,326,016	△ 13,032,329,149	△ 464,996,867
翌年度繰越収支差額	△ 13,497,326,016	△ 13,032,329,149	△ 464,996,867
純資産の部合計	14,824,823,221	15,138,178,011	△ 313,354,790
負債及び純資産の部合計	18,646,701,595	19,355,361,112	△ 708,659,517

事業活動収支計算書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,490,180,000	3,286,713,166	203,466,834	
		手数料	64,848,400	47,761,655	17,086,745	
		寄付金	5,300,000	11,373,633	△ 6,073,633	
		経常費等補助金	362,521,000	427,304,902	△ 64,783,902	
		付随事業収入	72,965,000	79,623,699	△ 6,658,699	
		雑収入	28,415,300	50,514,105	△ 22,098,805	
		教育活動収入計	4,024,229,700	3,903,291,160	120,938,540	
教育活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		人件費	2,316,922,688	2,106,563,160	210,359,528	
		教育研究経費	1,858,169,600	1,619,710,825	238,458,775	
		管理経費	640,032,600	513,164,253	126,868,347	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出計	4,815,124,888	4,239,438,238	575,686,650	
	教育活動収支差額	△ 790,895,188	△ 336,147,078	△ 454,748,110		
教育活動外収入の部	事業活動外収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	32,400	46,019	△ 13,619	
		その他の教育活動外収入	0	32,480,589	△ 32,480,589	
		教育活動外収入計	32,400	32,526,608	△ 32,494,208	
教育活動外支出の部	事業活動外支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		借入金等利息	22,900,000	20,721,111	2,178,889	
		教育活動外支出計	22,900,000	20,721,111	2,178,889	
	教育活動外収支差額	△ 22,867,600	11,805,497	△ 34,673,097		
	経常収支差額	△ 813,762,788	△ 324,341,581	△ 489,421,207		
特別収入の部	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	180,000	14,663,080	△ 14,483,080	
		特別収入計	180,000	14,663,080	△ 14,483,080	
	事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
			資産処分差額	0	3,586,605	△ 3,586,605
		その他の特別支出	0	89,684	△ 89,684	
		特別支出計	0	3,676,289	△ 3,676,289	
	特別収支差額	180,000	10,986,791	△ 10,806,791		
	〔予備費〕	(0)		50,000,000		
	基本金組入前当年度収支差額	△ 863,582,788	△ 313,354,790	△ 550,227,998		
	基本金組入額合計	0	△ 151,642,077	151,642,077		
	当年度収支差額	△ 863,582,788	△ 464,996,867	△ 398,585,921		
	前年度繰越収支差額	△ 9,098,694,357	△ 13,032,329,149	3,933,634,792		
	基本金取崩額	0	0	0		
	翌年度繰越収支差額	△ 9,962,277,145	△ 13,497,326,016	3,535,048,871		
(参考)						
	事業活動収入計	4,024,442,100	3,950,480,848	73,961,252		
	事業活動支出計	4,888,024,888	4,263,835,638	624,189,250		

財 産 目 録

(単位:円)

科 目	年 度 末	
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地	499,641 m ²	5,346,458,413 円
2 建物	86,796 m ²	6,710,574,476 円
3 建物附属設備		1,217,818,961 円
4 構築物		231,368,542 円
5 教育研究用機器備品	20,716 点	973,529,892 円
6 管理用機器備品	1,652 点	65,769,005 円
7 図書	305,675 冊	1,753,549,167 円
8 車輛		3 円
9 建設仮勘定		12,972,000 円
合 計		16,312,040,459 円
(二) 運用資産		
1 現金預金		1,639,638,989 円
2 退職給与引当特定資産		535,889,681 円
3 その他		159,132,466 円
4 電話加入権		1,662,936 円
5 施設利用権		6,851,250 円
6 ソフトウェア		4,796,714 円
7 長期貸付金		960,454 円
8 保証金		8,918,900 円
9 長期前払金		1,775,675 円
10 未収入金		120,069,562 円
11 貯蔵品		182,159 円
12 短期貸付金		418,228 円
13 前払金		9,192,715 円
14 立替金		4,303,873 円
合 計		2,334,661,136 円
資産総額		18,646,701,595 円
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 退職給与引当金		543,947,682 円
(2) 長期未払金		70,306,380 円
(3) 長期借入金		1,760,918,000 円
合 計		2,375,172,062 円
2 流動負債		
(1) 未払金		312,361,555 円
(2) 前受金		920,811,022 円
(3) 預り金		114,689,735 円
(4) 短期借入金		98,844,000 円
合 計		1,446,706,312 円
負債総額		3,821,878,374 円
正味財産(資産総額-負債総額)		14,824,823,221 円



事業報告書

令和 3(2021)年度



学校法人医療創生大学

目次

I 法人の概要	2
1. 法人の沿革	2
2. 設置する学校・学部・学科等（令和3年4月1日現在）	3
医療創生大学の教育理念・目的	4
医療創生大学方針	4
教育方針	6
3. 学部・学科等の入学定員及び在籍学生数の状況（令和3年5月1日現在）	8
4. 教育課程（授業科目及び単位数、必修・選択必修・選択の別、履修年次等）	9
5. 卒業認定基準及び取得可能な学位	9
6. 組織	11
7. 役員・評議員の概要（令和3年5月1日現在）	13
8. 教職員数（令和3年5月1日現在）	14
9. 学費（令和2年度納入金）	18
II 事業の概要	21
1. 基本方針	21
（1）中期事業計画（平成29（2017）年度～令和3（2021）年度）	21
（2）中期事業計画（経営改善計画）ロードマップ	24
（3）令和3（2021）年度事業報告	34
III 財務の概要	50
（1）令和3年度決算について	50
（2）財務比率	53
（3）学校法人の会計について（学校法人会計の特徴と企業会計との違い）	56

I 法人の概要

1. 法人の沿革

- 昭和 62 年 いわき明星大学開学 理工学部・人文学部開設
- 平成 4 年 大学院 理工学研究科・人文学研究科開設
- 平成 13 年 理工学部を改組
- 平成 17 年 科学技術学部開設（理工学部を改組）・人文学部を改組
- 平成 19 年 薬学部開設
- 平成 22 年 科学技術学部を改組
- 平成 27 年 教養学部開設（人文学部を改組）
学校法人いわき明星大学 設立（学校法人 明星学苑より分離）
- 平成 28 年 いわき明星大学の運営を学校法人 いわき明星大学へ移管
- 平成 29 年 看護学部開設
いわき明星大学創立 30 周年
- 平成 31 年 大学の名称を“医療創生大学”へ変更
学校法人葵会学園と合併し、学校法人名称を“学校法人医療創生大学”へ変更
健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科開設
留学生別科開設
人文学部現代社会学科を廃止
- 令和 2 年 心理学部開設（教養学部を改組）
生命理工学研究科開設（理工学研究科を改組）
人文学部表現文化学科を廃止
人文学研究科日本文学専攻（日本文学専攻（修士・博士）、英語英米文学専攻、社会学専攻）を廃止
科学技術学部科学技術学科を廃止
- 令和 3 年 国際看護学部開設（柏キャンパス）
理工学研究科物質理学専攻を廃止

2. 設置する学校・学部・学科等 (令和3年4月1日現在)

(1) 医療創生大学

所在地：福島県いわき市中央台飯野 5-5-1

学 長：新谷 幸義

【学部】

学 部	学 科
教 養 学 部 (令和元年度より募集停止)	地域教養学科
薬 学 部	薬 学 科
看 護 学 部	看 護 学 科
健康医療科学部	作業療法学科
	理学療法学科
心 理 学 部	臨床心理学科
人 文 学 部 (平成26年度より募集停止)	心 理 学 科
国 際 看 護 学 部	看 護 学 科

【大学院】

研 究 科	課 程	専 攻
理工学研究科	修士課程	物質理学専攻 (令和2年4月募集停止)
		物理工学専攻 (令和2年4月募集停止)
	博士課程	物質理工学専攻 (令和2年4月募集停止)
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻
	博士後期課程	生命理工学専攻
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻

医療創生大学の教育理念・目的

「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」

医療創生大学方針

【求める教員像及び教員組織の編成に関する方針】

本学は、教育目標及び教育方針（3つのポリシー）を実現するため、次のとおり求める教員像及び教員組織の編成に関する方針を定める。

求める教員像

1. 本学の教育方針を理解し、それを実現するための教育力を有する人材
2. 教育の質の向上に努め、積極的に教育に関わることができる人材
3. 学生支援に対し積極的に取り組み、学生の人間的成長を促すことができる人材
4. 研究成果を地域社会に還元し、社会の発展に寄与する能力を有する人材

教員組織の編成方針

1. 大学設置基準及び大学院設置基準に基づいて、必要な教員を配置する。
2. 組織的な教育研究を行うため、教員間の連携体制を確保し、役割分担を適切に行う。
3. 教員の募集、任免及び昇格は、学内規則に基づき、公正かつ適切に行う。
4. 教員の年齢及び性別の適正な構成に配慮する。

求める職員像

本学は、教育目標及び教育方針（3つのポリシー）を実現するため、次のとおり求める職員像を定める。

1. 本学の教育方針を理解し、それを実現するための教育支援力を有する人材
2. 教育の質の向上に努め、積極的に教育支援に関わることができる人材
3. 学生支援に対し積極的に取り組み、学生の人間的成長を促すことができる人材
4. 社会の発展に寄与する意欲を有する人材

【人材育成の目標・方針】

本学の教育研究活動及び教育研究等支援における資質向上・能力開発のために、以下のとおり人材育成の目標・方針を定める。

（教員）

「求める教員像」を達成するために、以下の研修等を通じて能力を高める。

1. 教育の質の向上に関する研修
2. 学生支援力の向上に関する研修
3. 研究に関する研修
4. 大学の管理運営に関する研修

（職員）

「求める職員像」を達成するために人事異動、研修等を通じて能力を高める。なお、共通に必要な能力やスキルの付与が必要な研修は集合研修とし、個別に獲得が必要な知識・スキルについては自ら学ぶことを基本とする。

(人事異動方針)

1. 一人ひとりの個性や適性、事務組織の将来性を踏まえて人事異動を行う。

(研修方針)

1. 教育支援力の向上に関する研修
2. 学生支援力の向上に関する研修
3. 大学の管理運営に関する研修

【学生支援に関する方針】

本学は、学生が学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、自らの資質及び能力を十分に醸成するため、次のとおり学生支援に関する方針を定める。

修学支援

1. 学生が修学を円滑に進めていくことができるよう、教職協働による相談、指導に取り組む。
2. 留年者、休学者及び退学者の状況把握と分析を行い、多様な学生が充実した学生生活を送ることができるよう、各部局が連携して適切な対応を行う。

生活支援

1. 学生が目的意識と自覚を持ち、スポーツ、文化、ボランティア等の自主的な活動を積極的に行うことができるよう支援する。
2. 学生の健全な心身を維持増進するため、学生が快適、安全、安心な生活を送ることができるよう支援する。
3. 学生が経済的に安定した学生生活を送ることができるよう支援する。

就職支援

1. 学生の多様な進路に対応し、卒業後も見通した柔軟で的確なキャリアサポートに努める。

障がい学生支援

1. 障がいのある学生に対し、各部局が連携し、主体的自律的な学修ができるよう支援する。

【教育研究環境整備に関する方針】

本学は、学生の学修及び教員の教育・研究が十分に行えるよう、環境を適切に維持管理するため、次のとおり教育研究環境整備に関する方針を定める。

1. 学生の学修活動を支援するために必要な施設、設備及び環境を整備する。
2. 安心、安全な学生生活を送ることができるよう、施設、設備の計画的な整備、維持管理を行う。
3. 学生の学修及び教員の教育研究活動のため、図書館及び情報ネットワークなどの学術情報サービスを整備・運営する。
4. 教育・研究の支援のため、ICT等を活用した教育研究システム等を管理運用する。

【社会連携・社会貢献に関する方針】

本学は、社会に対し、本学がもつ人的・物的及び知的資源を還元するため、次のとおり社会連携・社会貢献に関する方針を定める。

1. 研究成果の社会への還元のため、公開講座などの生涯学習の場を広く提供する。
2. 研究成果及び知的財産を社会に広く還元するため、産官学間の組織的連携を強化する。

3. 東日本大震災以降の被災地支援活動等を中心とした社会への貢献を継続的に行う。

【管理運営に関する方針】

本学は、本学の機能を円滑かつ十分に発揮するため、次のとおり管理運営に関する方針を定める。

1. 教育研究の充実及び推進のため法令を遵守し、透明性、機能性を有した手続きのもと管理運営を行う。
2. 学長のリーダーシップのもと、意思決定プロセスを継続的に見直し、教学ガバナンス改革を推進する。
3. 社会への説明責任を果たすため、情報を積極的に公開する。
4. 教職員の意欲・資質の向上を図るため、適正な方策を実施する。
5. 教育研究を支える財務的基盤を安定させるために、中期事業計画の策定と見直しを適切に行い、効率的・効果的な予算編成及び執行を促進する。

【内部質保証に関する方針】

本学は、教育目標の実現に向けて組織的かつ定期的な自己点検・評価を行い、恒常的に大学改革、教育改善を推進する。機能的な自己点検・評価の実践のため、次のとおり内部質保証に関する方針を定める。

1. アセスメントポリシーに基づいて客観的で合理的なデータを収集し、学内の教育研究情報の適切な把握と分析を行い、成果を可視化することで恒常的な点検・評価活動を行う。
2. 自己点検・評価結果を積極的に公表して透明性を確保するとともに、社会への説明責任を果たす。
3. 第三者評価機関による認証評価を受けることにより、自己点検・評価の妥当性と客観性を担保する。
4. 内部質保証の実践が教職員の自律的、継続的な活動となるような施策を積極的に展開する。

教育方針

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

医療創生大学（以下本学）は、教育理念に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して保健医療人としての基本的な問題を解決することができる。
2. 多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。
4. 社会に貢献できる保健医療人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

本学では、教育理念を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1. 大学での学修の意義を理解し、大学生としての学修に必要な基礎的能力や生活習慣を身につけることができるよう、初年次教育科目を配置します。
2. 幅広く多様な基礎的知識と基本的な学修能力を獲得するための全学共通カリキュラムとして、基礎科目、教養科目、健康・スポーツ科目の3つの科目群を設置します。
3. 各学部学科に専門教育科目を設置し、専門的な知識・技術や方法論を段階的・体系的に教授します。
4. 社会との連携のもと、課題解決型の授業を展開して、知識・技術の活用能力、コミュニケーション能力、課題探求力、判断力など、社会生活で必須となる能力を総合的に養います。
5. キャリア教育を行い、社会人としてのキャリアを積むために必要な知識と考え方を身につけるとともに、働くことを通して社会に貢献する意欲を育みます。

6. 身につけた知識や技術を統合し集大成するために、発展的学修科目として卒業研究等の科目を配置し、丁寧な個別指導を行います。

【アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）】

本学は、教育理念を理解するとともに、学ぶ意欲に溢れ、大学での専門教育を受けるうえでの基礎的な能力を身につけている人の入学を希望します。

(2) 千葉・柏リハビリテーション学院

所在地：千葉県柏市大井 2673 番地の 1

学院長：新谷 正子

【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	理学療法学科
	作業療法学科

(3) 岡山・建部医療福祉専門学校

所在地：岡山県岡山市北区建部町福渡 408 番 20

学校長：小河 育恵

【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	看護学科

(4) 葵会仙台看護専門学校

所在地：宮城県仙台市若林区伊在 2 丁目 14 番地 5

学校長：新谷 幸義

【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	看護学科

(5) 葵会柏看護専門学校

所在地：千葉県柏市小青田 1 丁目 3-4

学校長：佐藤 元

【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	看護学科

3. 学部・学科等の入学定員及び在籍学生数の状況 (令和3年5月1日現在)

【学部】 (人)

学部	学科	入学定員	収容定員	在籍者
教養学部	地域教養学科	—	120	85
薬学部	薬学科	90	540	380
看護学部	看護学科	80	320	324
健康医療科学部	作業療法学科	40	120	79
	理学療法学科	60	180	201
心理学部	臨床心理学科	60	120	70
国際看護学部	看護学科	80	80	88
人文学部 (平成26年度より募集停止)	心理学科	—	—	1
学部計		330	1,480	1,228

【大学院】 (人)

研究科	課程	専攻	入学定員	収容定員	在籍者
理工学研究科	修士課程	物質理学専攻	—	—	0
		物理工学専攻	—	—	1
	博士課程	物質理工学専攻	—	2	3
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻	5	10	5
	博士後期課程	生命理工学専攻	2	4	4
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻	10	20	3
大学院計			17	36	16

【千葉・柏リハビリテーション学院】 (人)

課程	学科	入学定員	収容定員	在籍者
医療専門課程	理学療法学科	80	240	231
	作業療法学科	40	120	120

【岡山・建部医療福祉専門学校】 (人)

課程	学科	入学定員	収容定員	在籍者
医療専門課程	看護学科	80	240	164

【英会仙台看護専門学校】

(人)

課程	学 科	入学定員	収容定員	在 籍 者
医療専門課程	看護学科	120	320	363

【英会柏看護専門学校】

(人)

課程	学 科	入学定員	収容定員	在 籍 者
医療専門課程	看護学科	—	160	158

4. 教育課程（授業科目及び単位数、必修・選択必修・選択の別、履修年次等）

本学公式サイト参照（シラバス）

<https://www.isu.ac.jp/syllabus/>

本学公式サイト参照（カリキュラム）

教養学部

<http://www.isu.ac.jp/media/files/liberalarts/curriculum.pdf>

薬学部

<https://www.isu.ac.jp/department/pharm/curriculum.html>

看護学部

<https://www.isu.ac.jp/department/nursing/model.html>

健康医療科学部

<https://www.isu.ac.jp/department/hs/curriculum.html>

心理学部

https://www.isu.ac.jp/media/files/department/psychology/2020curriculum_tree_psy.pdf

国際看護学部

<http://kn.isu.ac.jp/curriculum/index.html>

5. 卒業認定基準及び取得可能な学位**【学 部】（卒業要件）**

本学を卒業するためには、教養学部・看護学部・健康医療科学部・心理学部・科学技術学部・人文学部は4年以上以上、薬学部は6年以上在学し、本学の教育課程に従って授業科目を系統的に履修し、所定科目について教養学部・看護学部・健康医療科学部・心理学部・科学技術学部・人文学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得したとき、卒業が認められます。

◀取得可能な学位▶

学 部	学 科	学 位
教養学部	地域教養学科	学士（教養）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
健康医療科学部	作業療法学科	学士（作業療法学）
	理学療法学科	学士（理学療法学）
心理学部	臨床心理学科	学士（心理学）
国際看護学部	看護学科	学士（看護学）
人文学部 （平成 26 年度より募集停止）	心理学科	学士（心理学）

【大学院】（修了要件）

◎修士課程

2年以上在学し、専攻の定める所要授業科目について30単位以上修得し、更に学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

◎博士課程

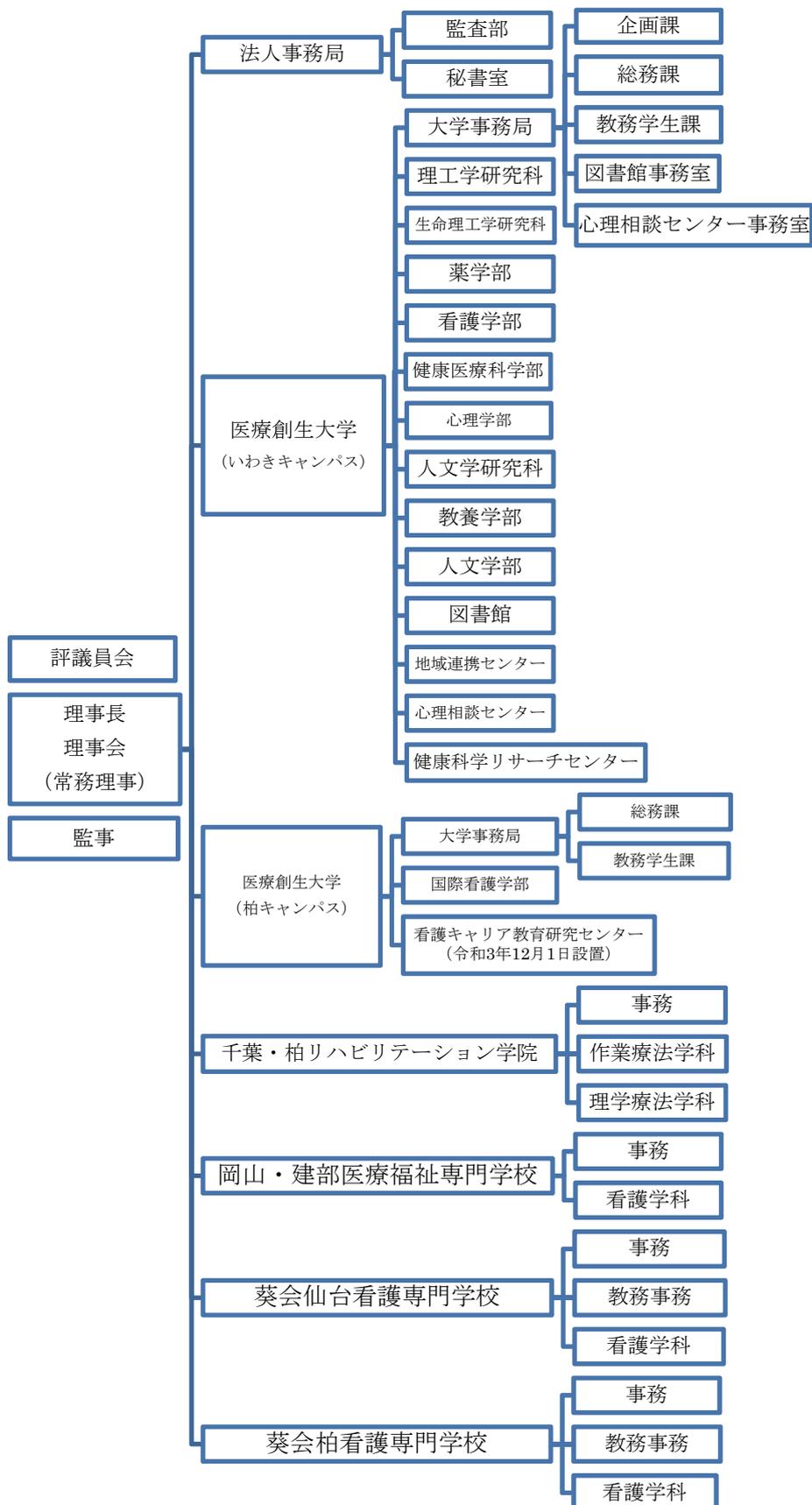
3年以上在学し、専攻の定める所要授業科目について、物質理工学専攻では16単位以上、日本文学専攻では14単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

◀取得可能な学位▶

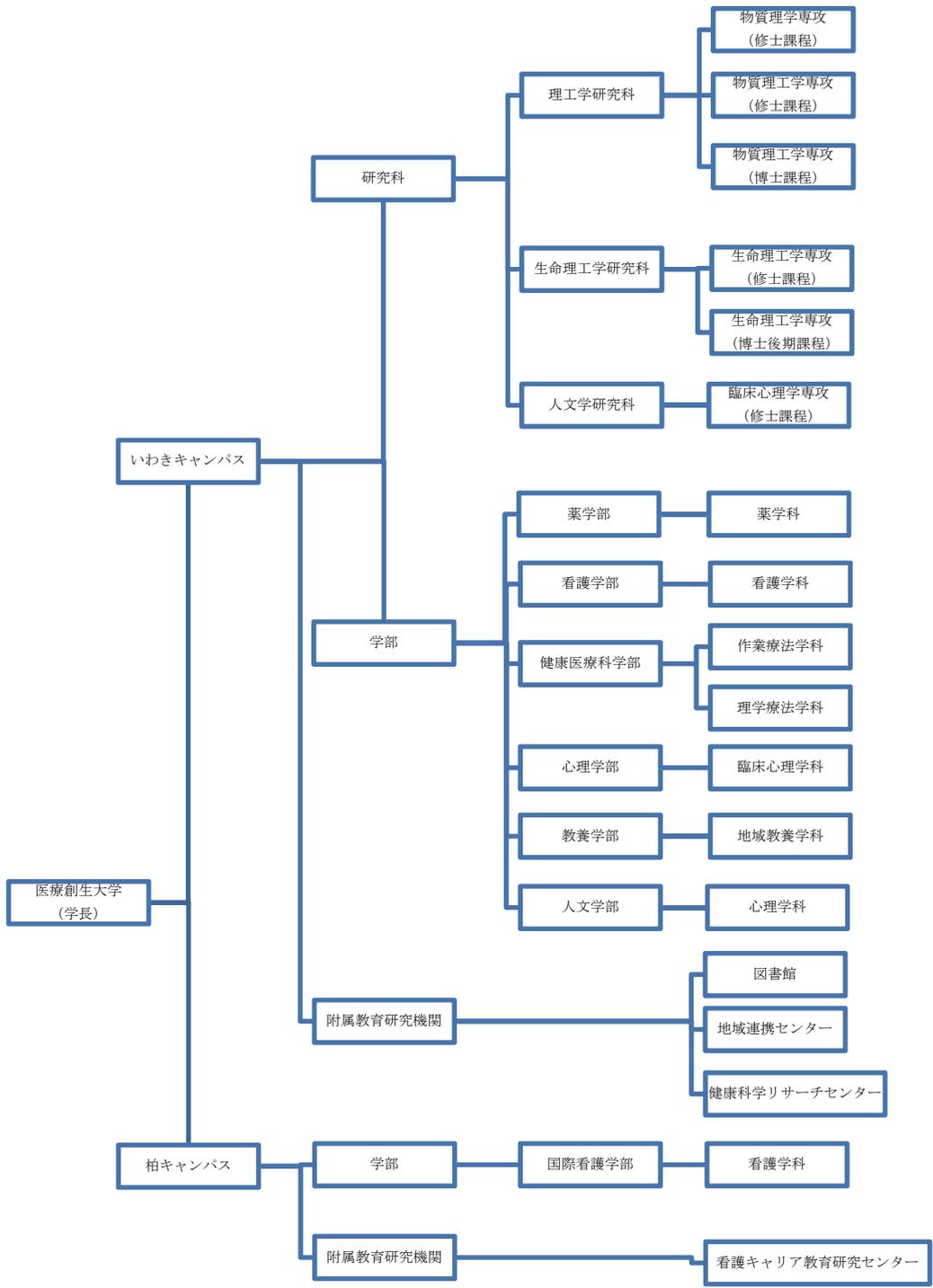
研究科	課 程	専 攻	学 位
理工学研究科	修士課程	物質理学専攻	修士（物質理学）
		物理工学専攻	修士（物理工学）
	博士課程	物質理工学専攻	博士（理工学）
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻	修士（生命理工学）
	博士後期課程	生命理工学専攻	博士（生命理工学）
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）

6. 組織

【学校法人医療創生大学組織図】



【医療創生大学組織図】（令和3年5月1日現在）



7. 役員・評議員の概要 (令和3年5月1日現在)

【理事】理事定数5～8名以内、監事：2名以上3名以内

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月
理事(理事長)	新谷 幸義	非常勤	平成29年11月就任
理事(常務理事)	新谷 正子	非常勤	平成31年1月就任
理事(常務理事)	田口 信教	常勤	令和3年4月就任
理事	池坊 保子	非常勤	平成27年8月就任
理事	山本 晴康	非常勤	平成31年4月就任
監事	鷺田 千秋	常勤	令和3年2月就任
監事	森 保彦	非常勤	令和2年4月就任

【評議員】評議員定数11～17名以内(法人の職員で理事会において推薦された者2名以上、法人の設置する学校を卒業した25歳以上の者2名以上、学識経験者7名以上)

区分	氏名	現職	就任年月
1号評議員	新谷 幸義	医療創生大学 学長 学校法人医療創生大学 理事長	平成29年11月就任
1号評議員	久米 美代子	医療創生大学 看護学部特任教授	平成30年4月就任
2号評議員	猪狩 明宏	同窓会長	平成30年8月就任
2号評議員	政本 正志	同窓生 (医療法人財団桜会 桜会病院)	平成31年4月就任
3号評議員	新谷 正子	学校法人医療創生大学 理事 医療法人社団葵会 副理事長	平成31年1月就任
3号評議員	白井 康正	AOI八王子病院 名誉院長	平成30年3月就任
3号評議員	池坊 保子	元文部科学副大臣 特定非営利活動法人萌木 理事長 学校法人医療創生大学 理事	平成27年8月就任
3号評議員	山本 晴康	千葉・柏リハビリテーション病院 院長 学校法人医療創生大学 理事	平成31年4月就任
3号評議員	大内 和子	元いわき明星大学 副学長	平成29年1月就任
3号評議員	川口 基一郎	元いわき明星大学 薬学部長	平成27年4月就任
3号評議員	川合 述史	千葉・柏リハビリテーション病院 精神神経センター長	平成31年4月就任
3号評議員	田口 信教	学校法人医療創生大学 理事	令和3年4月就任

■2021(令和3)年度 理事会・評議員会 開催日および開催数

理事会	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	4月1日	5月25日	8月10日	11月25日	3月28日
評議員会	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	5月25日	11月25日	3月28日	—	—

8. 教職員数 (令和3年5月1日現在)

(1) 医療創生大学

【教員】

(人)

学部等	教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教養学部	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
薬学部	21	1	22	6	1	7	1	0	1	1	1	2	0	0	0	29	3	32
看護学部	1	4	5	1	4	5	3	3	6	1	1	2	2	4	6	8	16	24
健康医療科学部	6	2	8	2	1	3	5	1	6	7	1	8	0	0	0	20	5	25
心理学部	3	4	7	1	2	3	2	0	2	1	0	1	0	0	0	7	6	13
地域連携センター	1	0	1	0	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1	4
心理相談センター	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	37	11	48	11	9	20	13	4	17	10	3	13	2	4	6	73	31	104
外国人内数	4	0	4	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5	1	6

【教員年齢構成】

(人)

職位	66歳 ～ 72歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
	教授	9 19%	15 31%	6 13%	13 27%	4 8%	0 0%	1 2%	0 0%	0 0%	
准教授	0 0%	1 5%	2 10%	4 20%	2 10%	7 35%	2 10%	2 10%	0 0%	0 0%	20 100%
講師	0 0%	1 6%	3 17%	2 12%	3 17%	5 30%	2 12%	1 6%	0 0%	0 0%	17 100%
助教	0 0%	1 7%	0 0%	1 7%	3 25%	1 7%	1 7%	6 47%	0 0%	0 0%	13 100%
助手	0 0%	0 0%	0 0%	1 16%	0 0%	1 16%	1 16%	2 36%	1 16%	0 0%	6 100%
合計	9 9%	18 17%	11 11%	21 19%	12 12%	14 13%	7 7%	11 11%	1 1%	0 0%	104 100%

【教員の保有学位・業績等】(令和2年5月1日現在)

本学公式サイト参照 <https://www.isu.ac.jp/ed/staff/>

【学外からの兼任教員数】

(人)

	男	女	計
非常勤講師等	33	18	51
外国人内数	0	1	1

【職員】

(人)

	男	女	計
法人職員	1	0	1
事務職員	16	9	25
パート職員	0	1	1
合計	16	4	27

(2) 専門学校

【教員】

(人)

学校学科	学校長・ 学院長			副学校長・ 副学院長			教務主任・ 学科長			専任教員			実習指導 教員			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
千葉・柏リハ	0	1	1	0	0	0	2	0	2	10	0	10	0	0	0	12	1	13
理学療法学科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7	0	7	0	0	0	8	0	8
作業療法学科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	3	0	0	0	4	0	4
看護学科(岡山)	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	10	11	0	2	2	1	14	15
看護学科(仙台)	1	0	1	0	1	1	0	1	1	3	18	21	0	1	1	4	21	25
看護学科(柏)	1	0	1	0	1	1	0	1	1	2	9	11	0	0	0	3	11	14
合 計	2	2	4	0	2	2	2	3	5	16	37	53	0	3	3	20	47	67
外国人内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休職者内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【教員年齢構成】

(人)

職 位	66歳 ～ 歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
学校長・学院長	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	75%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
副学校長・ 副学院長	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
教務主任・ 学科長	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	5
	0%	40%	20%	0%	20%	20%	0%	0%	0%	0%	100%
専任教員	3	4	10	5	8	7	8	8	0	0	53
	6%	8%	19%	9%	15%	13%	15%	15%	0%	0%	100%
実習指導教員	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	100%
合 計	8	8	12	5	9	8	8	9	0	0	67
	12%	12%	18%	8%	13%	12%	12%	13%	0%	0%	100%

【学外からの兼任教員数】

(人)

	学校名	男	女	計
非 常 勤 講 師 等	千葉・柏リハビリティーション学院	22	8	30
	岡山・建部医療福祉専門学校	28	22	50
	葵会仙台看護専門学校	35	15	50
	葵会柏看護専門学校	22	15	37
外国人内数		0	0	0

【職員】

(人)

	学校名	男	女	計
	法人職員	0	0	0
事務職員	千葉・柏リハビリテーション学院	3	5	8
	岡山・建部医療福祉専門学校	3	3	6
	葵会仙台看護専門学校	5	3	8
	葵会柏看護専門学校	5	4	9
パート職員	千葉・柏リハビリテーション学院	0	6	6
	岡山・建部医療福祉専門学校	6	0	6
	葵会仙台看護専門学校	0	4	4
	葵会柏看護専門学校	0	2	2
	合計	22	27	49

9. 学費 (令和2年度納入金)

【教養学部】

(単位：円)

教養学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		100,000	100,000	0	0	0	0
授 業 料		750,000	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000
施設拡充費		300,000	150,000	150,000	300,000	150,000	150,000
小 計		1,150,000	625,000	525,000	1,050,000	525,000	525,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,167,000	642,000	525,000	1,066,000	541,000	525,000

【薬学部】

(単位：円)

薬学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		400,000	400,000	0	0	0	0
授 業 料		1,300,000	650,000	650,000	1,300,000	650,000	650,000
施設拡充費		500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000
小 計		2,200,000	1,300,000	900,000	1,800,000	900,000	900,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		2,217,000	1,317,000	900,000	1,816,000	916,000	900,000

【看護学部】

(単位：円)

看護学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		300,000	300,000	0	0	0	0
授 業 料		1,100,000	550,000	550,000	1,100,000	550,000	550,000
施設拡充費		400,000	200,000	200,000	400,000	200,000	200,000
小 計		1,800,000	1,050,000	750,000	1,500,000	750,000	750,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,817,000	1,067,000	750,000	1,516,000	766,000	750,000

【健康医療科学部】

(単位：円)

健康医療科学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		300,000	300,000	0	0	0	0
授 業 料		1,200,000	600,000	600,000	1,200,000	600,000	600,000
施設拡充費		450,000	225,000	225,000	450,000	225,000	225,000
小 計		1,950,000	1,125,000	825,000	1,650,000	825,000	825,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,967,000	1,142,000	825,000	1,666,000	841,000	825,000

【心理学部】

(単位：円)

心理学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		200,000	200,000	0	0	0	0
授 業 料		1,000,000	500,000	500,000	1,000,000	500,000	500,000
施設拡充費		200,000	100,000	100,000	200,000	100,000	100,000
小 計		1,400,000	800,000	600,000	1,200,000	600,000	600,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,417,000	817,000	600,000	1,216,000	616,000	600,000

※教養学部・看護学部・健康医療科学部・心理学部は4年生、薬学部は6年生に同窓会費として20,000円を別途納入。

※薬学部は5年生に実施される実務実習費用(400,000円)を5年生進級時に別途納入。

【千葉・柏リハビリテーション学院】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	800,000	800,000	800,000
施設設備費	320,000	320,000	320,000
実験実習費	60,000	400,000	400,000
合計	1,380,000	1,520,000	1,520,000

【岡山・建部医療福祉専門学校】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降
入学検定料	30,000	—
入学金	200,000	—
授業料	420,000	570,000
施設設備費	50,000	130,000
実験実習費	20,000	100,000
合計	720,000	800,000

【葵会仙台看護専門学校】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降
入学検定料	30,000	—
入学金	300,000	—
授業料	700,000	700,000
施設設備費	200,000	200,000
実験実習費	200,000	200,000
合計	1,430,000	1,100,000

【葵会柏看護専門学校】

(単位：円)

項目	1年次納入金	2年次納入金	3年次納入金
入学金	200,000	—	—
授業料	680,000	680,000	680,000
施設管理・健康管理費	400,000	400,000	400,000
実習費	150,000	150,000	150,000
合計	1,430,000	1,230,000	1,230,000

II 事業の概要

1. 基本方針

(1) 中期事業計画（平成 29（2017）年度～令和 3（2021）年度）

学校法人医療創生大学（以下「法人」という。）は、平成 31 年 4 月 1 日より、学校法人いわき明星大学から学校法人の名称を変更し、学校法人葵会学園との合併により、組織規模を拡大し、経営基盤を強固なものとし、新たに出発した。

理事会の主たる責務は、設置校である医療創生大学（以下、「大学」という。）、千葉・柏リハビリテーション学院、岡山・建部医療福祉専門学校、葵会仙台看護専門学校、葵会柏看護専門学校（以下、「専門学校」という。）の永続的な教学発展に資する管理運営のため、その資源となる基本財産を始めとする学校法人の財産を適正に管理し運用することであり、必要に応じて経営判断による的確な先行投資を行っていくことにある。

また、新型コロナウイルス感染症による授業形態の変化、修学支援新制度、私立学校法の改正等法人を取り巻く環境が変化していく中で、永続的に発展するための施策を実行していかなければならない。

大学は、令和 3 年 4 月より、柏市に国際看護学部を設置し、既設の薬学部、看護学部、健康医療科学部、心理学部と合わせて 5 学部体制となった。国家資格が取得できる（薬剤師、看護師、保健師、作業療法士、理学療法士）、もしくは取得を目指す（公認心理師）学部構成で 18 歳人口の減少や東日本大震災以降の風評被害等による学生確保が困難な状況から脱却できる状況となった。

専門学校においては、学生の確保施策を実行し、収入の安定化を図っている。

支出面においては、大学では、平成 30 年 1 月 8 日開催の理事会において承認された経費の削減施策を継続しており、各専門学校においても経費の削減を実施している。

以上のことを踏まえ、令和 3 年度の事業計画は、中期事業計画に基づき策定している。

【法人・医療創生大学】

令和 3 年度は、中期事業計画に基づき以下のとおり実施する。

また、中期事業計画の最終年度となるため、次期中期事業計画（令和 4 年（2022）年度～令和 8（2026）年度）の策定を行うこととした。

なお、平成 31 年度以降、平成 28 年度の中期事業方針策定時点で計画されていなかった「学部構成の変更（教養学部の平成 31 年度募集停止、令和 2 年度の心理学部の設置）」、「学校法人の合併」等の実施に伴い、中期事業方針の内容を一部変更・集約している。

1. 新たな大学のあり方の検討

- ① 大学の学部・学科構成についてあり方を検討する。
- ② 大学院の研究科・専攻の構成についてあり方を検討する。

2. 収支改善策の検討・実施

- ① 定員充足を目指した入試改革を検討・実施することを目的に、学生募集活動の見直しと広報改革を行う。

- ② 人件費比率抑制のための制度の検討・実施、補助金増加策の検討・実施、固定費の効率化の推進を図る。

3. 教育改革の実施

教育の質向上を図るために、教育課程、教員組織の適切性、学修成果、教育支援体制、社会ニーズとの適合性、教育資源の適切性等を検証し、教育のPDCAサイクルを回しながら教育改革を実施する。

4. 学生満足度の向上

- ① 学生が納得する進路の実現を可能とする支援体制を構築し、就職実績の向上、及び学生生活を充実させるための学友会活動、ボランティア活動等の活性化を図るための体制を強化し、学生満足度を向上させる。
- ② 効果的な奨学金制度の確立など学生の満足度を向上させる施策を検討・実施する。

5. 地域連携の推進

地域に根ざした特色ある教育・研究の実施や教育資源を提供することで地域社会に貢献していく。

【専門学校】

平成31年4月に学校法人医療創生大学と合併し、専門学校の教育・研究における質の向上、多様な教育環境の提供、業務の合理化に向けたさまざまな施策を実施していく。

専門学校4校の合計の入学定員は360人だったが、平成31年4月より400人となった。多くの医療職業人を養成し、広く医療福祉の発展に寄与していく。

1. 収支改善策

(1) 認可等の準備

- ・理学療法士、作業療法士養成校指定規則の改定に伴う変更承認申請
- ・高等教育段階の負担軽減新制度の機関要件確認申請

(2) 管理・運営体制の整備

- ・専門学校4校の業務の共通化・効率化
- ・共通学科（看護学科）の学科運営の相互協力体制の整備
- ・第三者評価実施に向けた基準等の整備

【千葉・柏リハビリテーション学院】（平成31年4月合併のため、平成31年度より追加）

1. 学生の確保施策の実施

今後、厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、広報活動を強化・検証していく。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、合格率の向上に繋がる教育体制を整える。

また、卒業後の教育支援を充実させる。

【岡山・建部医療福祉専門学校】(平成 31 年 4 月合併のため、平成 31 年度より追加)

1. 学生の確保施策の実施

立地条件から、さらに厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、募集地域を広げた広報活動を強化・検証していく。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、合格率の向上に繋がる教育体制を整える。また、卒業後の教育支援を充実させる。

【葵会仙台看護専門学校】(平成 31 年 4 月合併のため、平成 31 年度より追加)

1. 学生の確保施策の実施

入学定員を増やしても、確実に学生が確保できるよう、広報活動を強化・検証していく。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、高い合格率を維持できる施策を実施する。また、卒業後の教育支援を充実させる。

【葵会柏看護専門学校】(平成 31 年 4 月合併のため、平成 31 年度より追加)

1. 学生の確保施策の実施

今後、厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、広報活動を実施・検証していく。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、高い合格率となる施策を実施する。また、卒業後の教育支援を充実させる。

3. 専門学校の学部化に向けた準備

令和 3 年 4 月に専門学校を学部化するための準備、申請を行う。

(2) 中期事業計画（経営改善計画）ロードマップ

【医療創生大学】

1. 新たな大学のあり方の検討

- ① 大学の学部・学科構成についてあり方を検討する。
- ② 大学院の研究科・専攻の構成についてあり方を検討する。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
看護学専攻 大学院の 設置検討	具体的な 実施内容	設置検討（教員・備 品・図書・施設・設 備） 設置申請書作成	設置準備 工事・購入	開設	履行状況報告	履行状況報告
	数値目標	設置認可申請	工事等完了	履行状況 報告書提出	履行状況 報告書提出	履行状況 報告書提出
	進捗状況	引き続き検討	検討保留	—	—	—
新学部学科の 設置検討	具体的な 実施内容	新学部学科検討 設置認可申請 ニーズ調査実施	設置準備 工事・購入	新学科開設 (健康医療科学部)	履行状況報告	履行状況報告
	数値目標	設置認可申請 ニーズ調査報告書	工事等完了 事前相談提出	履行状況 報告書提出	履行状況 報告書提出	履行状況 報告書提出
	進捗状況	健康医療科学部設置 認可申請書完了	工事等完了 事前相談結果着	設置届出完了 収容定員増加認可	設置履行状況 報告書提出完了	健康医療科学部履行 状況報告書提出完了
	具体的な 実施内容	教養学部新学科検討 ニーズ調査実施	設置認可申請 心理学部設置準備	設置申請準備 工事・購入 心理学部設置届出・ 収容定員変更申請	新学科開設	履行状況報告
	数値目標	ニーズ調査報告書	設置認可申請	工事完了(3月) 備品納品(3月)	履行状況 報告書提出	履行状況 報告書提出
	進捗状況	教養学部廃止 新学科検討	事前相談完了 (届出で可)	工事完了(3月) 備品納品(3月)	設置履行状況 報告書提出完了	心理学部履行状況 報告書提出完了
看護学部の 定員増の検討	具体的な 実施内容	検討	検討	検討	届出申請準備	届出申請準備
	数値目標	検討結果報告	検討結果報告	検討報告書提出 事前相談 収容定員変更申請	千葉看護学部 設置届出	千葉看護学部 開設
	進捗状況	引き続き検討	千葉に看護学部の 設置検討	事前相談完了 (届出で可) 収容定員変更申請	国際看護学部 設置届出完了	国際看護学部開設
創立 30 周年記 念事業の実施	具体的な 実施内容	30周年記念事業の 実施	—	—	—	—
	数値目標	—	—	—	—	—
	進捗状況	・記念式典実施 ・寄付金募集 ・30周年誌発行	—	—	—	—

2. 収支改善策の検討・実施

- ① 定員充足を目指した入試改革を検討・実施することを目的に、学生募集活動の見直しと広報改革を行う。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
高大接続改革を見据えた入試改革の検討	具体的な実施内容	AO・推薦に代わる多面的評価入試の実施策策定	多面的評価入試設定・大学入学希望者評価テスト導入検討	大学入学希望者評価プレテストの分析・学部別選抜規定作成	大学入学希望者評価テスト導入による選抜と最終分析	高大接続改革入試の本格的導入
	数値目標	—	—	—	—	—
	進捗状況	新入試実施案検討完了・次年度導入	新制度入試（入試種別新制度・主体性分野ポートフォリオ）導入・検証実施	検証に基づいた新制度入試の基本設計完了・外部資格英語利用、全入試学力評価基準設定・導入	大学入学共通テスト実施に伴う選抜方法を導入・実施。DNC出願数との年度対比傾向を分析	高大接続型方式を総合型選抜で導入
募集活動の検証と新たな施策の検討	具体的な実施内容	学部志願から見た募集エリア活動履歴分析、「強み」における募集力強化	固定志願層の安定と高偏差を見据えた志願・募集方法のクロス分析	学部定員の充足と偏差値向上を見据えた志願高校帯分析と募集活動	学部定員の充足と偏差値向上を見据えた志願高校帯分析と募集活動	コロナ禍における募集広報活動の検討と実施 学部定員の充足と偏差値安定を見据えた志願高校帯分析と募集活動
	数値目標	教養入学者：100 薬入学者：95 看護入学者：85	教養入学者：110 薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100	教養入学者：110 薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100 心理入学者：60	教養入学者：110 薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100 心理入学者：60 千葉看護入学者：80	教養入学者：110 薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100 心理入学者：60 千葉看護入学者：80
	進捗状況	教養入学者：73 薬入学者：84 看護入学者：80	薬入学者：57 看護入学者：100 健康入学者：60	薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100 心理入学者：60	薬入学者：98 看護入学者：88 健康入学者：100 心理入学者：60 国際看護入学者：88	薬入学者：41 看護入学者：51 健康入学者：101 心理入学者：38 千葉看護入学者：79
広報改革の検討	具体的な実施内容	教養・医療系広報施策の検証と試行導入、長期的広報コンテンツの導入再調査	利用媒体単位での資料請求～入学までの受験生プロセス調査	志願・入学に直結した媒体の確定、志願獲得拡大につながる広報の整理	全学部完成年度・教育実績をブランドとする広報コンテンツ・新WEB系制作	SNS及びYouTubeを活用した広報活動募集広報が大学広報へ転機していく「統合的広報」を実績より最終分析、大学の広報手段を確定
	数値目標	資料請求数 前年比：110%	資料請求数 前年比：105%	資料請求数 前年比：105%	資料請求数 前年比：105%	資料請求数 前年比：105%
	進捗状況	資料請求数 前年比：110%	資料請求数 前年比：101%	資料請求数 前年比：107%	資料請求数 前年比：127%	資料請求数 前年比：132%

② 人件費比率抑制のための制度の検討・実施、補助金増加策の検討・実施、固定費の効率化の推進を図る。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
職員の人事制度の円滑な実施	具体的な実施内容	導入	検証	検証	検証	検証
	数値目標	職員人件費比率 23%	職員人件費比率 20%	職員人件費比率 18%	職員人件費比率 16%	職員人件費比率 16%
	進捗状況	職員人件費比率 22%	職員人件費比率 12%	職員人件費比 8.7%	職員人件費比 7.8%	職員人件費比 6.9%
教員の人事制度の検討	具体的な実施内容	検討	導入	検証	検証	検証
	数値目標	教員人件費比率 62%	教員人件費比率 55%	教員人件費比率 45%	教員人件費比率 39%	教員人件費比率 39%
	進捗状況	教員人件費比率 69%	教員人件費比 54%	教員人件費比率 49%	教員人件費比率 47%	教員人件費比率 44%
補助金増加策の検討・実施	具体的な実施内容	要件確認 対応検討・実施	要件確認 対応検討・実施	要件確認 対応検討・実施	要件確認 対応検討・実施	要件確認 対応検討・実施
	数値目標	補助額 H28比 110%	補助額 H28比 110%	補助額 H28比 110%	補助額 H28比 110%	補助額 H28比 100%
	進捗状況	補助額 H28比 110%	補助額 H28比▲32%	補助額 H28比▲50%	補助額 H28比▲52%	補助額 H28比▲37%
施設・設備維持のための長期計画の策定	具体的な実施内容	長期計画の策定	実施・見直し	実施→見直し	実施→見直し	実施→見直し
	数値目標	完成	—	—	—	—
	進捗状況	長期計画案策定	—	—	—	—
経費の効率化の検討	具体的な実施内容	ワーキング・グループによる経費効率化の検討	実施・見直し	実施・見直し	実施・見直し	実施・見直し
	数値目標	検討報告書	管理経費 14% 教育経費 35%	管理経費 12% 教育経費 32% 2018 決算対比 管理経費+2% 教育経費 +10%以内 (*収容定員 60名増加による)	管理経費 9% 教育経費 30% 2019 決算対比 管理経費+5% 教育経費 +15%以内 (*収容定員 120名増加による)	管理経費 9% 教育経費 30% 2020 決算対比 管理経費+2% 教育経費 +10%以内 (*収容定員 40名増加による)
	進捗状況	事務管理経費削減 (業務委託の見直し、消耗品の削減、各種機器の選定)	H28比 管理経費▲5% 教育経費▲19% *学部設置経費除く (教:65,033千円)	2018 決算対比 管理経費▲26% 教育経費▲12% *学部設置経費除く (教:11,000千円)	2019 決算対比 管理経費▲19% 教育経費▲4%	2020 決算対比 管理経費▲23% 教育経費▲12%
法人業務の体制の確立	具体的な実施内容	前年度業務の検証、改善	事務組織改編による体制の再構築 業務の確立、検証	業務の検証、改善	業務の検証、改善	業務の検証、改善
	数値目標	—	—	—	—	—
	進捗状況	法人業務の体制整備完了	法人業務の確立	—	—	—
業務分掌の見直しと業務の効率化の検討	具体的な実施内容	各部署業務の棚卸し、業務分掌の見直し	各部署業務の整理、効率化策の検討、協議	業務効率化をめざしWGによる業務削減の推進	各部署業務の検証、改善	各部署業務の検証、改善
	数値目標	—	—	—	—	—
	進捗状況	事務組織の改編案を検討、H30に事務組織改編	事務組織改編の実施	現状の効率化実施策を共有した	各部署の事務業務の一部を電子化し、翌年度より開始する電子化業務の説明会をおこなった	各部署の事務業務の多くを電子化し運用を開始した結果、業務効率化を図れた

3. 教育改革の実施

教育の質向上を図るために、教育課程、教員組織の適切性、学修成果、教育支援体制、社会ニーズとの適合性、教育資源の適切性等を検証し、教育のPDCAサイクルを回しながら教育改革を実施する。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
教育課程の見直し・検討 ー教養学部完成年度後を見据えてー	具体的な実施内容	DP、CPに基づく体系的な教育課程の再編成(学則変更)	DP、CPに基づく体系的な教育課程の再編成(学則変更) 教員の共通理解	GPA、CAP、成績評価等の分析による効果の検証、見直し	GPA、CAP、成績評価等の分析による効果の検証、見直し	GPA、CAP、成績評価等の分析による効果の検証、見直し
	数値目標	カリキュラムリ、カリキュラムマップの再設定	共通理解のための説明会、研修会の実施	—	—	—
	進捗状況	検討した後、志願状況を踏まえ教養学部募集停止	—	—	—	—
授業参観制度の導入、アタテオブラーニソダへの転換推進	具体的な実施内容	授業参観制度の構築ALの実態把握と定義化	授業参観制度の導入ALの努力義務化	授業参観制度の実施と評価検証ALの義務化	授業参観制度の検証と見直しALの実施内容の検証	授業参観制度の検証と見直しALの実施内容の検証
	数値目標	構築・定義化(12月) 周知・共通理解(3月)	参観科目30% AL実施率50%	参観者率90% 参観科目40% AL実施率80%	参観者率95% 参観科目50% AL実施率100%	参観者率100% 参観科目60% AL実施率100%
	進捗状況	実施の検討	参観者率80.8% AL実施率47.0%	参観者率前期75.8% 参観者率後期61.6%	参観者率前期— ※コロナ禍により実施せず 参観者率後期96.2%	参観者率前期100% 参観者率後期100%
学修総合支援センターの見直し	具体的な実施内容	課外学修の充実・向上のための施策の検討、実施	課外学修の充実・向上のための施策の検証、見直し	課外学修の充実・向上のための施策の検証、見直し	課外学修の充実・向上のための施策の検証、見直し	課外学修の充実・向上のための施策の検証、見直し
	数値目標	対象者に対する参加者数 リメディアル学習：60% 教職支援講座：70% 公務員講座：70% 資格取得支援講座：70%	対象者に対する参加者数 リメディアル学習：70% 教職支援講座：80% 公務員講座：80% 資格取得支援講座：80%	対象者に対する参加者数 リメディアル学習：75% 教職支援講座：85% 公務員講座：85% 資格取得支援講座：85%	対象者に対する参加者数 リメディアル学習：80% 教職支援講座：90% 公務員講座：90% 資格取得支援講座：90%	対象者に対する参加者数 リメディアル学習：80% 教職支援講座：90% 公務員講座：90% 資格取得支援講座：90%
	進捗状況	教養学部の募集停止により学修総合支援センター廃止	—	—	—	—
教職員の共同研修を通じて学部目標の設定とPDCAサイクルの構築	具体的な実施内容	教職員合同による定期的な研修実施の検討・実施	教職員合同研修による学部目標の設定	教職員合同研修による学部目標達成状況の検証と見直し	教職員合同研修による学部目標達成状況の検証と見直し	教職員合同研修による学部目標達成状況の検証と見直し
	数値目標	検討(8月) 実施(9月)	検証・見直し(8月) 実施(9月)	検証・見直し(8月) 実施(9月)	検証・見直し(8月) 実施(9月)	検証・見直し(8月) 実施(9月)
	進捗状況	9月実施完了 学部目標を学長に答申	3つのポリシーの新たな策定を実施	—	—	—
PDCAサイクル及び教学マネジメントの確立	具体的な実施方法	—	—	GPA制度、CAP制度等の教学上の諸制度の評価・検証	GPA制度、CAP制度等の教学上の諸制度の見直し	GPA制度、CAP制度等の教学上の諸制度の見直し
	数値目標	—	—	評価・検証	見直し	見直し
	進捗状況	—	—	GPA分布の公表検討(R2より公表予定)	GPA分布をHP公表 CAPは学部科目を勘案し、現状(45単位)とする。ただし継続的に検討を行う。	GPA分布をHP公表 GPA、CAPについては教務委員会で継続審議となっている。

4. 学生満足度の向上

- ① 学生が納得する進路の実現を可能とする支援体制を構築し、就職率を向上させること、及び学生生活を充実させるための学友会活動、ボランティア活動等の活性化を図るための体制を強化し、学生満足度を向上させる。
- ② 効果的な奨学金制度の確立など学生の満足度を向上させる施策を検討・実施する。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
離籍率減少へ向けた具体的な施策の検討・実施	具体的な実施内容	離籍データ検証、他大学事例研究による施策の検討	離籍データ検証、他大学事例研究による施策の実施	離籍データ検証、他大学事例研究による施策の実施、見直し	離籍データ検証、他大学事例研究による施策の実施、見直し	離籍データ検証、他大学事例研究による施策の実施、見直し
	数値目標	離籍率 4%	離籍率 3%	離籍率 2.5%	離籍率 2.5%	離籍率 2.5%
	進捗状況	離籍率 5.9%	離籍率 6.3%	離籍率 5.3%	離籍率 3.3%	離籍率 3.8%
奨学金制度の見直し	具体的な実施内容	補助要件に対応する効果的な奨学金制度の検討、実施	効果の検証と見直し	効果の検証と見直し	効果の検証と見直し	効果の検証と見直し
	数値目標	離籍率 4%	離籍率 3%	離籍率 2.5%	離籍率 2.5%	離籍率 2.5%
	進捗状況	離籍率 5.9%	離籍率 6.3%	離籍率 5.3%	離籍率 3.3%	離籍率 3.8%
学友会活動等の課外活動活性化施策の検討	具体的な実施内容	満足度調査等によるニーズ検証、学友会再編、経費支援策の検討	学友会再編、定例会開催、経費支援の実施	定例会開催、経費支援の実施による参加率、活動実績の検証	学外指導者の採用や環境整備による活動実績向上施策の検討	学外指導者の採用や環境整備による活動実績向上施策の実施、検証
	数値目標	課外活動参加率 50%	課外活動参加率 55%	課外活動参加率 60%	課外活動参加率 65%	課外活動参加率 70%
	進捗状況	課外活動参加率 41%	課外活動参加率 46%	課外活動参加率 39%	課外活動参加率 25%	課外活動参加率 40%
就職率の向上と地場優良企業への就職者数の増加	具体的な実施内容	地元金融機関深耕により、地場優良企業からの内定獲得者数の増加	地元金融機関深耕により、地場優良企業からの内定獲得者数の増加	地元金融機関深耕により、地場優良企業からの内定獲得者数の増加	地元金融機関深耕により、地場優良企業からの内定獲得者数の増加	地元金融機関深耕により、地場優良企業からの内定獲得者数の増加
	数値目標	就職率 100% 地場優良内定 5 名	就職率 100% 地場優良内定 7 名	就職率 100% 地場優良内定 10 名	就職率 100% 地場優良内定 12 名	就職率 100% 地場優良内定 15 名
	進捗状況	就職率 99.4% 地場優良内定 6 名	就職率 96.5% 地場優良内定 4 名	就職率 100% 地場優良内定 10 名	就職率 93.8% 地場優良内定 27 名	就職率 96.0% 地場優良内定 35 名
企業開拓の拡大による就職先・インターンシップ先の増大	具体的な実施内容	訪問頻度・接触回数アップで就職先・インターンシップ先の開拓、派遣数増加	訪問頻度・接触回数アップで就職先・インターンシップ先の開拓、派遣数増加	訪問頻度・接触回数アップで就職先・インターンシップ先の開拓、派遣数増加	訪問頻度・接触回数アップで就職先・インターンシップ先の開拓、派遣数増加	訪問頻度・接触回数アップで就職先・インターンシップ先の開拓、派遣数増加
	数値目標	5 社開拓、80 名派遣	5 社開拓、85 名派遣	5 社開拓、90 名派遣	5 社開拓、95 名派遣	5 社開拓、100 名派遣
	進捗状況	11 社開拓 88 名派遣	3 社開拓、25 名派遣 インターンシップ科目受講生激減のため、次年度以降は取りやめ	—	—	—
教職協働による就職支援体制の強化	具体的な実施内容	教職連携で就職困難学生の入学時からの把握と対策の強化	教職連携で就職困難学生対策を推進、カウンセリング力向上	教職連携及びヒローワーク・外部機関の活用で就職困難学生の人間力アップ	就職困難学生の人間力アップ達成により地場企業へ就職斡旋・人材輩出	就職困難学生の人間力アップ達成により地場企業へ就職斡旋・人材輩出
	数値目標	困難学生対策強化 5 名	困難学生対策強化 7 名	困難学生対策強化 7 名	困難学生対策強化 10 名	困難学生対策強化 10 名
	進捗状況	困難学生対策強化 2 名	困難学生対策強化 7 名	困難学生対策強化 6 名	困難学生対策強化 4 名	困難学生対策強化 3 名
企業の採用ニーズの把握	具体的な実施内容	地域連携協議会の活用及び企業訪問時に企業アンケートを実施	地域連携協議会の活用及び企業訪問時に企業アンケートを実施	企業アンケート調査対象の地場有力企業数の増大	地場有力企業への調査をベースとした内定獲得の促進	地場有力企業への調査をベースとした内定獲得の促進
	数値目標	調査 50 社	調査 70 社	調査 80 社	調査 90 社	調査 100 社
	進捗状況	調査 22 社	調査 98 社	コロナのため未実施	調査 162 社	調査 85 社

5. 地域連携の推進

地域に根ざした特色ある教育・研究の実施や教育資源を提供することで地域社会に貢献していく。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
地域連携協議会 による企業、高 校、行政との連 携強化	具体的な 実施内容	企業との連携事業に よる連携協定締結 高大連携事業実施高 校の拡大	企業向けセミナーの拡大 (中堅社員研修追 加)	企業向けセミナーの拡大 (管理職研修検討) 高大連携事業実施高 校の拡大	地域連携協議会開設 5周年記念イベント開催	企業向けセミナーの拡大 (管理職研修検討) 高大連携事業実施高 校の拡大
	数値目標	研修受講者数：30名	研修受講者数：40名	研修受講者数：40名	研修受講者数：45名	研修受講者数：60名
	進捗状況	研修受講者数：61名	研修受講者数：37名	研修受講者数：56名	コロナ禍の影響によ 書面による報告会と した。	セミナーは中止。湯 本高校と医療系分野 での連携開始
市民への学び直 しのニーズ把握 と教育機会提 供、大学教育へ の接続検討	具体的な 実施内容	生涯学習アカデミー 講座数増加	生涯学習アカデミー 通年開催検討	生涯学習アカデミー 通年開催	講義形態を多様化し 地域の課題に対応	通信制教育の検討
	数値目標	受講者数:150名 ニーズ調査の実施(12 月)	受講者数:150名	受講者数:200名 ニーズ調査の実施 (12月)	受講者数:220名	受講者数:250名 ニーズ調査の実施 (12月)
	進捗状況	受講者数:99名 ニーズ調査の実施、講 座4コース追加)	受講者数:88名	受講者数:487名 ニーズ調査の実施 生涯学習アカデミー廃止	コロナ禍の影響によ り次年度に向け開催 方法を再検討	「HEaLTh センタ ー」活動開始

【専門学校】

1. 認可等の準備

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
理学療法士、作業療法士養成校指定規則の改定に伴う変更承認申請	具体的な実施内容	—	—	千葉・柏リハビリテーション学院において変更承認申請	—	—
	数値目標	—	—	申請・承認	—	—
	進捗状況	—	—	承認	—	—
高等教育段階の負担軽減新制度の機関要件確認申請	具体的な実施内容	—	—	各専門学校における機関要件の申請	各専門学校における機関要件の継続申請	各専門学校における機関要件の継続申請
	数値目標	—	—	申請・承認	申請・承認	申請・承認
	進捗状況	—	—	専門学校4校 承認	専門学校4校 継続承認	専門学校4校 継続承認

2. 管理・運営体制の整備

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
専門学校4校の業務の共通化・効率化	具体的な実施内容	—	—	効率化の検討・協議	効率化の検討・実施	効率化の検証・実施
	数値目標	—	—	業務内容の整理と共通化に向けた協議	事務業務の共通化の実施	事務業務の共通化の検証
	進捗状況	—	—	経理業務の共通化・効率化の協議	経理業務の共通化・効率化の協議継続、順次実施	経理業務の共通化・効率化を順次実施
共通学科（看護学科）の学科運営の相互協力体制の制度	具体的な実施内容	—	—	国家試験対策の関係専門学校の相互協力	国家試験対策の関係専門学校の相互協力	国家試験対策の関係専門学校の相互協力
	数値目標	—	—	国家試験対策の情報共有・整理	国家試験対策の業者統一	国家試験対策の検証・改善策の策定
	進捗状況	—	—	遠隔合同対策講座開講準備	国家試験対策業者を一部統一	国家試験対策業者を一部統一
学校評価実施に向けた基準等の整備	具体的な実施内容			学校評価委員の選任 自己評価の実施	学校評価委員の選任 自己評価の実施	学校評価委員の選任 自己評価の実施
	数値目標			学校評価結果の公表	学校評価結果の公表	学校評価結果の公表
	進捗状況			学校関係者評価の公表	学校関係者評価の公表	学校関係者評価の公表

【千葉・柏リハビリテーション学院】（平成 31 年 4 月合併のため、当年度より追加）

1. 学生の確保施策の実施

今後、厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、広報活動を強化・検証していく。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
学生確保施策の 実施	具体的な 実施内容	—	—	・高校訪問 ・高校ガイダンス参加	・高校訪問 ・高校ガイダンス参加	・高校訪問 ・高校ガイダンス参加
	数値目標	—	—	・訪問数 300 校（実数） ・参加数 150 件	・訪問数 305 校（実数） ・参加数 160 件	・訪問数 310 校（実数） ・参加数 170 件
	進捗状況	—	—	・訪問数 336 校（実数） ・参加数 156 件	・訪問数 319 校（実数） ・参加数 109 件	・訪問数 278 校 ・参加数 168 件

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、合格率の向上に繋がる教育体制を整える。また、卒業後の教育支援を充実させる。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
国家試験合格率 の向上	具体的な 実施内容	—	—	・組織的な支援体制による 合格率の向上	・組織的な支援体制による 合格率の向上	・組織的な支援体制による 合格率の向上
	数値目標	—	—	・作業療法士合格率平均 合格率以上 ・理学療法士合格率平均 合格率以上	・作業療法士合格率平均 合格率以上 ・理学療法士合格率平均 合格率以上	・作業療法士合格率平均 合格率以上 ・理学療法士合格率平均 合格率以上
	進捗状況	—	—	・作業療法学科 合格率：93.9% ・理学療法学科 合格率：91.9%	・作業療法学科 合格率：84.4% ・理学療法学科 合格率：70.5%	・作業療法学科 合格率：75.7% ・理学療法学科 合格率：73.8%

【岡山・建部医療福祉専門学校】（平成 31 年 4 月合併のため、当年度より追加）

1. 学生の確保施策の実施

立地条件から、さらに厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、募集地域を広げた広報活動を強化・検証していく。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
学生確保施策の 実施	具体的な 実施内容	—	—	・県外高校生の確保 ・県内高校生の安定確保 ・サテライト入試の導入 準備	・県外高校生の確保 ・県内高校生の安定確保 ・サテライト入試の導入	・県外高校生の確保 ・県内高校生の安定確保 ・サテライト入試の検証
	数値目標	—	—	・県外高校入学者数：40 人 ・県内高校入学者数：40 人	・県外高校入学者数：50 人 ・県内高校入学者数：30 人	・県外高校入学者数：50 人 ・県内高校入学者数：30 人
	進捗状況	—	—	・県外高校入学者数 41 人 ・県内高校入学者数 22 人	・県外高校入学者数 23 人 ・県内高校入学者数 25 人	・令和 3 年 4 月募集停止

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、合格率の向上に繋がる教育体制を整える。
また、卒業後の教育支援を充実させる。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
国家試験合格率 の向上	具体的な 実施内容	—	—	・国家試験対策の見直し、施策の実施	・国家試験対策の見直し、施策の実施	・国家試験対策の見直し、施策の実施
	数値目標	—	—	看護師国家試験合格率 平均合格率以上	看護師国家試験合格率 平均合格率以上	看護師国家試験合格率 平均合格率以上
	進捗状況	—	—	看護師国家試験合格率： 79.3%	看護師国家試験合格率： 92.3%	看護師国家試験合格率 90.5%

【葵会仙台看護専門学校】（平成 31 年 4 月合併のため、当年度より追加）

1. 学生の確保施策の実施

入学定員を増やしても、確実に学生が確保できるよう、広報活動を強化・検証していく。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
学生確保施策の 実施	具体的な 実施内容	—	—	・定員を確保するための 募集活動の実施	・定員を確保するための 募集活動の実施	・定員を確保するための 募集活動の実施
	数値目標	—	—	入学者：120 人	入学者：120 人	入学者：120 人
	進捗状況	—	—	入学者：122 人	入学者：123 人	入学者：122 人

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、高い合格率を確保できる施策を実施する。
また、卒業後の教育支援を充実させる。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
国家試験合格率 の向上	具体的な 実施内容	—	—	・国家試験に向けた教育 支援の実施	・国家試験に向けた教育 支援の実施	・国家試験に向けた教育 支援の実施
	数値目標	—	—	国家試験合格率 100%	国家試験合格率 100%	国家試験合格率 100%
	進捗状況	—	—	国家試験合格率 97.5%	国家試験合格率 95.8%	国家試験合格率 95.0%

【葵会柏看護専門学校】(平成31年4月合併のため、当年度より追加)

1. 学生の確保施策の実施

今後、厳しい学生募集環境になることが想定されるため、確実に学生が確保できるよう、広報活動を実施・検証していく。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
学生確保施策の実施	具体的な実施内容	—	—	・社会人入試志願者数の増加 ・高校新卒志願者数の増加 ・オープンキャンパス内容の再検討 ・高校訪問地域の拡大	・社会人入試志願者数の増加 ・高校新卒志願者数の増加 ・オープンキャンパス内容の再検討 ・高校訪問地域の拡大	・社会人入試志願者数の増加 ・高校新卒志願者数の増加 ・オープンキャンパス内容の再検討 ・高校訪問地域の拡大
	数値目標	—	—	・社会人入試志願者数 45人 ・高校新卒志願者数 85人	・社会人入試志願者数 45人 ・高校新卒志願者数 85人	・社会人入試志願者数 45人 ・高校新卒志願者数 85人
	進捗状況	—	—	・社会人入試志願者数 44人 ・高校新卒志願者数 180人	・専門学校を学部化したため募集を停止した。 ・国際看護学部の入試志願者数：198人	・専門学校を学部化したためR2年度より募集を停止した。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、高い合格率となる施策を実施する。
また、卒業後の教育支援を充実させる。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
国家試験合格率の向上	具体的な実施内容	—	—	—	・教育支援の検討、実施 ・国家試験対策の実施	・教育支援の検討、実施 ・国家試験対策の実施
	数値目標	—	—	—	国家試験合格率 100%	国家試験合格率 100%
	進捗状況	—	—	—	国家試験合格率 87.8%	国家試験合格率 新卒 92.2%、総合 91.9%

3. 専門学校の学部化に向けた準備

令和3年4月に専門学校を学部化するための準備、申請を行う。

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
葵会柏看護専門学校の学部化	具体的な実施内容	—	—	検討	開設準備	開設
	数値目標	—	—	事前相談 収容定員変更申請	指定申請	—
	進捗状況	—	—	事前相談により学部設置届出可 収容定員変更申請書提出	国際看護学部設置届出済 指定申請認可	国際看護学部開設

(3) 令和3(2021)年度事業報告

本法人は、平成31(2019)年4月1日より、学校法人医療創生大学として、医療創生大学、千葉・柏リハビリテーション学院、岡山・建部医療福祉専門学校、葵会仙台看護専門学校、葵会柏看護専門学校を設置校として運営している。

令和3(2021)年度は、千葉県柏市に国際看護学部看護学科を設置し、新たな学部・研究科構成でスタートする年度となったが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業、課外活動、研究活動、新入生の募集活動など、多くの活動に一部制限が加わった状態で実施する年度となった。

このような状況の中、中期計画に基づき、令和3年度の各事業について、各学校で以下のとおり実施している。

法人

1. 将来構想

・次期中期事業計画(令和4(2022)年度～令和8(2026)年度)の策定(令和3年度事業計画「1.新たな大学のあり方の検討」)

令和3年度は中期事業計画(第一次)の最終年度となったため、令和4(2022)年度～令和8(2026)年度の中期事業計画(第二次)の策定を行った。学校法人明星学苑からの分離、学校法人葵会学園との合併、大学名称の変更、法人名称の変更、健康医療科学部、心理学部、生命理工学研究科、国際看護学部の設置等、大きな変革の時期であった中期事業計画(第一次)(平成29(2017)年度～令和3(2021)年度)を経て、今後の18歳人口の減少の影響等、厳しい環境の中で生き抜くための重要な計画となるため、教員と事務職員が協働で草案を作成し、理事会で承認を得て策定した。

・諸規程の統合(令和3年度事業計画「1.新たな大学のあり方の検討」)

柏キャンパスの国際看護学部開設にあわせ、制定した諸規程を運営していく中で、諸規程の統合について検討を行った。しかしながら、統合することによる法人全体への影響や規程の体系性を担保することが叶わないことから、柏キャンパス独自で規程を制定し運用することとした。

大学

1. 新たな大学のあり方の検討

・新学部学科の設置検討

令和3年度は、中期事業計画(第一次)の最終年度である。

中期事業計画(第一次)の策定時は、18歳人口が減少していく中で、本学が永続することを目的として適切な学部・学科構成とするために「新学部新学科の設置検討」が始められた。

平成29年度から令和3年度までの間、平成31年4月には学校法人葵会学園と合併し、健康医療科学部作業療法学科、理学療法学科を設置し、教養学部地域教養学科の学生募集を停止した。令和2年4月には心理学部臨床心理学科、生命理工学研究科生命理工学専攻(修士課程、博士後期課程)、令和3年4月には千葉県柏市に国際看護学部を設置し、本学の構成は、5学部6学科、2研究科3専攻(い

わきキャンパス：4学部5学科、2研究科3専攻、柏キャンパス：1学部1学科) となった。

令和3年度は、平成31年4月に設置された健康医療科学部、令和2年4月に設置された心理学部、生命理工学研究科の設置計画履行状況報告を行う計画であったが、令和2年度に完成年度を迎えたものの1年間期間が延長されることとなった看護学部の設置計画の履行状況についても報告した。

この設置計画履行状況調査の結果を受け、文部科学省より「教育内容の充実等を通じ、入学未充足の改善に努めること。(健康医療科学部作業療法学科、心理学部臨床心理学科)」との意見(令和4年3月25日)が付された。

国際看護学部看護学科は、入学者88人(入学定員充足率110%)を迎え、令和3年度より教育・研究活動を開始した。

国際看護学部の認可時(令和2年8月5日)には、附帯事項として「薬学部薬学科の定員未充足の是正に努めること」「心理学部臨床心理学科の定員未充足の是正に努めること」の2つの遵守事項が付されていた。

これらの意見を受け、令和3年3月12日に開催された理事会で薬学部薬学科の入学定員を90人から60人に変更することが協議の後、承認され、令和3年4月21日付けで収容定員変更に係る学則変更の届出申請を行った。

また、心理学部臨床心理学科については、令和3年5月25日に開催された理事会において、学生の確保を目的として、学費を見直すことが承認され、同日、学則変更の届出を行った。

・看護学部の定員増の検討

令和3年(2021)年4月に開設された国際看護学部は、第1期生として88人の入学者を受け入れ、教育・研究活動を開始した。

施設・設備に関しては、前年からの計画通り、葵会柏看護専門学校と共用で使用した。

事務局はいわきキャンパスと連携し、キャンパス運営・学部運営を行った。

学部内委員会活動を4月から稼働し、いわきキャンパスと協働して所掌事項に基づき活動した。

広報活動においては、新型コロナウイルスの影響を受ける中で、進路ガイダンス参加・高校訪問・オープンキャンパス・ダイレクトメールなどを実施し、78人の入学者を得ることができた。

・地域連携協議会のあり方の検討(令和3年度事業計画「1.新たな大学のあり方の検討」)

教養学部地域教養学科の人材養成を目的とした「地域連携協議会」を、本学の養成する人材像や社会人として身に付けるべき能力等に対する第三者評価として、令和3年9月に、「地域連携協議会(教育部会・産業部会)」役員を対象としたアンケート調査を行い意見を聴取した。調査結果は10月に実施した自己評価委員会で報告されている。今後は、産業部会に実習先等の医療系分野の意見を加え、外部の意見を教育課程の編成に取り入れていく。

・DX(デジタルトランスフォーメーション)推進計画の策定(令和3年度事業計画「1.新たな大学のあり方の検討」)

令和3(2021)年4月に設置した「DX推進委員会」は、「医療創生大学DX推進計画」を策定し、令和4(2022)～令和8(2026)年度の中期事業計画(第二次)に含め、理事会で承認を得た。委員会では、当該計画に基づき、教育、学習、研究、業務運営をデジタルで変える(デジタル技術を効果的

に活用する)ことで、直接的・間接的にリソースを人的・資金的に提供していく。

文科省の私立学校施設整備費補助金を活用してハイブリット型講義室等の機能向上に努め、令和4年3月に教員を対象とした授業での活用に関する説明会を実施した。

・完成年度後の学部学科の統廃合や定員の見直しの検討（令和3年度事業計画「1.新たな大学のあり方の検討」）

平成31年4月に開設した健康医療科学部は、作業療法学科（入学定員40人）、理学療法学科（入学定員60人）の2学科で構成されている。

作業療法学科の入学者は、平成31年度20人（入学定員充足率50%）、令和2年度38人（入学定員充足率95%）、令和3年度22人（入学定員充足率55%）と推移し、入学定員を充足していないことから、健康医療科学部の完成年度を迎えた後、作業療法学科と理学療法学科を統合することについて検討した。

検討した結果、統合する場合の時期、統合までの申請に係るスケジュール、養成する人材像、及び3つのポリシー、学科の名称等について、再度検討する必要があることから、次年度も継続して検討することとした。

2. 収支改善策の検討・実施

・高大接続改革を見据えた入試改革の検討（令和3年度事業計画「2.募集・広報ターゲットの拡大」既存入試の見直しと新入試（高大接続入試）の導入）

令和3年度入試より、総合型選抜入試において高大接続型方式を導入し、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を評価・判定する入試を実施した。

高大接続型方式では、「調査書」の他に、受験生自身が高等学校等時の学習や課外活動、学校行事以外の活動等の記録について記載する「学び・活動の記録」、大学で行う「基礎講義」を受講した上で、そこで課された課題について各自探究し、その中間報告会として「探求課題の中間報告会」を実施した上で、提出を課した「高大接続探究課題報告書」、「面接（口頭試問を含む）」を試験科目とした。

高大接続型方式における入学志願者数は全学部で6人となり、想定した志願者数には至らなかった。

令和3年度の総合型選抜入試（高大接続型方式）では、受験生の関心・意欲・態度、表現力を把握することができたものの、思考力について把握することが困難であった。

また、総合型選抜入試においては、高大接続型方式の他、面接プレゼン型方式、スポーツ実績型方式の3つの方式で実施することとしていたが、方式ごとに試験科目が大きく異なったため、同一入試種別内でも点数に差異が生じるのではないかという誤解と、方式数が多いことで入試が複雑に見えた等、課題が残った。

これらの課題を受け、大学入学時の学力の3要素をより正確に把握し、可否の判定ができるよう、試験の実施方法を入試・広報委員会で検討した結果、令和4年度入試においては、思考力をより正確に把握するためのグループディスカッションを加えるとともに、複雑化していた試験実施方法を簡素化し、受験生に理解しやすいように整理し実施することとした。

・募集活動の検証と新たな施策の検討

(いわきキャンパス)

令和3年度は、入学定員を充足させることを目標として募集活動を実施した。

募集体制は、募集施策を入試・広報委員会で協議し、企画課で広報業務・入試業務を担当し実施した。

事務局内に設置された募集・広報ワーキング・グループ（以下、「WG」という。）も令和2年度以降継続して実施し、過去の入試実績や募集活動について検証しながら、「高校生を安心させる広報」を念頭においた。

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、一部の活動が制限される中であったが、以下の広報活動を実施した。

【高校訪問】

事務職員全員で本学の募集対象地域である東北6県（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）に茨城県、栃木県、新潟県を加えた地域の高校を分担し、新型コロナウイルス感染症の影響が少ない時期に実施した。

【オープンキャンパス】

感染拡大防止の観点から、午前・午後入替制、事前申し込み制とし、入替制のため、短時間で学部理解や相談が受けられるように企画し実施するとともに、WEB型のオープンキャンパスを実施し、情報の提供を行った。

また、当初の実施回数は5回としていたが、大学見学会として期中に5回実施し、大学見学の機会を設けた。

【進学相談会】

進学相談会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年に比べ開催回数が大幅に減少した。令和3年度に業者主催で実施された進学相談会には24回参加し、高校生、保護者へ情報提供を行った。

【学校ガイダンス】

学校ガイダンスは、進学相談会と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数、学校が縮小されていた状況であったが、延べ51校の学校ガイダンスに参加した。

【ダイレクトメール】

高校生に直接情報を届けることを目的として、学科の内容紹介、オープンキャンパスの告知、スカラシップ入試の内容、一般入試、大学入学共通テスト入試のスケジュールについて、延べ61,238人本学の資料請求者に対しダイレクトメールを送付した。

また、スカラシップ入試の告知は全国4,946校、心理学部の内容、オープンキャンパスの告知、一人暮らし奨学金については、地域を限定した延べ2,733校、合計7,679校に対してダイレクトメールを送付した。

【WEBによる広報】

WEBによる広報を強化するため、ホームページに公開する情報を検討し、大学の活動が日々確認できるよう「今日の大学」(WEB上の大学の日記として位置づけたもの)を継続して実施するとともに、本学の教員の紹介の機会として教員によるコラムリレーを実施した。

また、入試に関するQ&Aを整理し、受験生が戸惑わないように努めた。

以上のとおり、各種募集活動を実施したが、いわきキャンパスにおける入学者数は231人となり、昨年度の277人に比べ46人が減少した。

中期事業計画(第二次)の期間では、18歳人口の減少がさらに加速し、募集環境が悪化することが予測できる。

今後、各学科の特色(他大学との違い)を明確化するとともに、本学における教育活動についてさらに理解が得られるよう広報活動を実施していく。

(柏キャンパス)

柏キャンパスでは、高校訪問、オープンキャンパス、進学相談会・高校内ガイダンス、ホームページ等、受験媒体により、高校教員や高校生、保護者に対して情報の提供を行っている。

広報業務・入試業務については教務学生課が担当し、募集活動を行った。

広報のメインエリアは千葉県全域・茨城県(県南地区中心)・埼玉県(東部地区中心)・東京都とし、年間を通じて高校訪問・進学相談会・校内ガイダンス参加を行った。進学相談会については栃木県も対象エリアとし、参加した。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、訪問の受け入れ制限や相談会・ガイダンスの中止などもあったため、受験対象者と上記エリアに加え、静岡県・栃木県を含めて高校の進路指導部へのダイレクトメールをこまめに送付し、情報提供に努めた。

オープンキャンパスについては、感染対策を徹底し、年間10回全て来場型で実施した。上記広報活動の効果もあり、令和元年度の参加者総数347名から435名へ増加した。

次年度は更に参加者増を目指し、昨年度のアンケート結果に基づいた内容の強化、内容をホームページ・Twitter・Instagram・LINE等にて事前に公開し、集客することを計画している。

・広報改革の検討(令和3年度事業計画「2.募集・広報ターゲットの拡大」: SNS及びYouTubeを活用した広報活動)

(いわきキャンパス)

令和3年度は、SNS及びYouTubeを活用した広報活動を実施し、資料請求数を前年比105%(令和2年度5,772人)に増加させることを目標に実施した結果、資料請求者数は、132%(令和3年度7,594人)へ増加した。

【SNS】

Twitter、Instagramを活用して情報を提供した。

Twitter広告は、山形県、宮城県を対象に、年に3回、本学の入試内容理解を図るために実施した。

また、大学の日常についても、事務局、及び健康医療科学部、心理学部で配信した。

Instagramは、事務局のほか、健康医療科学部、心理学部で活用して情報を提供した。

【動画の配信】

令和2年度に続き、Youtubeを活用し、遠方からでも気軽に簡単に学部の理解ができるように、教員紹介動画、部活動・サークル活動紹介動画、入試説明動画、学費説明動画、奨学金説明動画等、及び理学療法学科、臨床心理学科の模擬講義動画等、合計16本の動画を作成し配信した。

また、360°カメラを活用し、ホームページ上へ大学施設の動画を公開した。

さらに、各学部の教員を紹介するための教員紹介動画、部活動・サークルを紹介するための動画を作成し、WEBオープンキャンパスで公開した。

(柏キャンパス)

柏キャンパスでは、動画の作成、ホームページの内容の追加、YouTubeチャンネルを開設し、WEBによる広報を強化した。

また、TwitterやInstagramによる広報を実施した。次年度も継続して実施し、LINEの活用も開始し、WEBでの発信力を強化していく計画である。

・職員の人事制度の円滑な実施

いわきキャンパスでは、職員人件費の削減策が平成30年1月以降継続して実施しており、平成29年度に在籍していた事務職員62名が、令和4年3月31日までの5年間で23名(カウンセラー含む)へ減少したことに伴い、職員人件費比率は目標16.0%に対し6.9%(昨年度7.8%)へと下がった。職員数が減少した中で、支障なく大学を運営し、内部質保証システムを運営していくためには、業務及び作業の見直しと効率化策の推進が必達であり、コロナ禍の影響もあって予想以上に事務業務のDx化が進んだ。

今年度は各部署の業務を作業別一覧表に細分化し、6月より各自がそれぞれの業務に従事した時間を記録することとした。各部署の年間業務スケジュールをもとに事務局スケジュールを作成し、業務の漏れや遅延の防止を図ることとした。今後は、個々の業務内容と当該業務に要する時間、業務量のデータをもとに、業務量の平準化と業務の標準化を進め、人事制度が適正に運営できる組織へ移行できるように業務分掌と職員の配置の見直しを進めていく。

なお、各部署では事業の進捗管理を自己点検チェックリストを活用し、毎四半期に自部署の振り返りと目標達成のための改善を行った。年度末には、部署長は課員との個別面談と部署全体の振り返りを行い、事務局長との面談にて次年度への改善事項及び各課員の評価を報告した。

・教員の人事制度の検討

平成30年1月より毎年度実施している教員人件費の削減策は、令和3(2021)年度においても継続実施した効果があり、教員の人件費比率は目標39.0%に対し44%(昨年度47.0%)であり目標は未達成であったが昨年度より改善した。

教員評価でみれば、令和2年度第3回全学教育委員会にて承認された教員活動評価調査書の改定及び規程改定の試行期間を経て、令和3年度よりあらたな教員活動評価が稼働した。各項目にある「具体的な取り組み計画」は年度当初に、結果を年度末に記入し、学部長へ提出することとし、目標とそ

の結果についても学部長が行う概略評価に反映させる様式へ修正した。

また、令和3年度第1回全学教育委員会には、学部長が行う概略評価の結果から、学長が選定する「優秀教員」に対し表彰することが承認され、概略評価結果が昇格人事に反映されることとなった。

各学部では事業計画をもとに目標数値を立て、学部長が中心となって学部運営を進めている。令和3年度第3回全学教育委員会で承認された「学部の目標達成度評価」については、学部長が、目標指数の達成度や優れた取り組みを報告書にまとめ提出し、学長が優れた学部に対し研究費の増額を行うこととなった。

・補助金増加策の検討・実施

(私立大学等改革総合支援事業採択、及び競争的外部資金の積極的な獲得を目指す)

令和3年度は、昨年度まで採択されていた「私立大学等経営強化集中支援事業」が終了した。

対象の期間は終了したが、平成30年7月17日付けの理事会で決定し、令和元年7月26日、令和2年7月28日に理事会で内容が更新されていた「学校法人医療創生大学経営改善計画（平成29年度～令和3年度）（5カ年）」について、令和3年8月10日に更新した。

また、「教育の質に係る客観的な指標」に係る調査において、高得点を狙うため、当該調査で設定されている要件を満たすことを目的として、各事業に取り組み、目標としていた当該事業における補助増減率「0.0%」を達成することができた。

なお、令和3年12月17日に日本私立学校振興・共済事業団の実地調査が実施された。

・経費の効率化の検討（部署間共有の検討、費用対効果の検証、光熱水費の削減など）

電力契約先の見直し、建屋内・外灯照明のLED化、学内申請の電子化によるペーパーレス化、ICT化の推進、及び教室配置の見直しを進め、大学運営の維持管理にかかる経費の削減をおこなった。それらの結果、管理経費は昨年比▲23%であった。

・法人業務の体制の確立（学校法人葵会学園との合併に伴う業務の見直し・効率化（会計システムの導入促進など））

令和3年4月に千葉県柏市に国際看護学部が開設したことに伴い、総務課関係業務（人事関連、調達関連、会計システム、資産管理、研究費管理、図書館など）、教務学生関係業務（教務系システム、シラバス、教授者便覧、履修の手引き、各種委員会、学習支援システム、学生証作成、学割など）の業務支援を継続して実施し、引き継ぎを進めた。

・業務分掌の見直しと業務の効率化の検討

いわきキャンパスでは、教務学生課より企画課へ入試業務を移管し、企画課が担う広報と入試を連動させ、広報力を強化し、企画課が担当していた新任教員の採用、未完成学部の履行状況報告、教員審査、指定申請など、教学にかかる業務を教務学生課へ集約した。業務効率化を進めるうえで、適正な部署へと業務分掌を修正した。次年度は、同窓会業務を企画課から教務学生課へ移管し、学生の入学時から卒業後までを教務学生課が担うこととする。

また、学生の保健管理業務は、専門的知識が伴うことから、保健管理センター運営委員会との連携を強化することとした。

業務の効率化については、前年度に検討し職員が制作した「物品・消耗品等の調達」「図書調達」「出張命令（許可）願」「出張報告書」「教員研究計画書」「教員研究報告書」を電子申請システム（Garoon ワークフロー機能）の運用を開始し、ペーパーレス化だけでなく職員による書類の回付作業を削減した。

また、学部や事務局での共有ドライブを活用し、申請作業の電子化を進めた。教員の兼職、外部委員、講師派遣の状況を確認し、明確に申請作業を区分けし、効率化を図った。さらに、来年度に向け、押印申請の電子化、学部起案の電子化を検討した。

3. 教育改革の実施

・授業参観制度の導入

いわきキャンパスでは、FD・SD委員会を中心に、専任教員全員による授業参観制度を前期・後期の2回実施し、授業参観率は100%を達成した（前期：120名中120名、後期：122名中122名）。授業参観の効果を高めるため、FD・SD委員会にて教授者と参観者の話し合いの機会を設け、学生にフィードバックする方針を決定した。

また、より多くの授業を対象にできるよう、授業の録画による参観方法について検討した。

柏キャンパスでは、FD・SD委員会を中心に、全教員による授業参観を実施し、授業参観率は前期100%（専任教員25名）、後期100%（専任教員25名）であった。次年度も継続し参観実施を図っていく。

・PDCA サイクル及び教学マネジメントの確立

教学 マネジメントの確立に向け、その骨格の1つとなる「学修成果・教育成果の把握・可視化」の試みとして、学生の入学前から卒業後までの一連の学びの実態についてデータ化を進めることとした。また、本学学生のデータを分析し、学部学科ごとの「学生標準モデル」を構築することで、在学生の学びの指針とすることを試みた。

学生情報のデータ化については、入学前教育課題データ、入学後の各期末試験データ、国家試験模試データ、国家試験合格者名簿などを収集し以下のようないくつかの分析を行い、その結果を教務委員会へ提出し、各学部学科で情報の共有を行った。

1. 1・2年次必修科目の合否分布グラフを作成し、学科内学生の得意科目、不得意科目を洗いだし、特定の科目で評価が低いことを見出した。
2. 卒業生の専門科目成績データと国家試験合否データを分析することで、国家試験合格に必要な「授業レベル」、「成績評価」などが、科目や教員単位で適正に評価されているか「ヒストグラム」を活用して検証を行った。科目単位での成績平均点からは履修者全体の理解度を、標準偏差からは履修者全体の理解度のばらつき度合いを視覚的に把握できるようになった。
3. 成績分布データに入試種別のデータを加えて成績分布を求めた結果、AO、推薦による入学者は成績が良くないのではという想定を覆し、入試種別と成績には特に相関がないという結論を得ることができた。
4. 薬剤師国家試験合格者の科目成績平均値と在学生の科目成績平均値をレーダーチャートで比較したことで、国家試験に必要な知識の偏りを視覚的に認識できる仕組みの試案ができた。

上記結果より、DX 委員会と協力し、薬剤師国家試験合格者の科目成績平均値との比較（レーダーチャート）で示したような「学修の可視化」が実行できる portfolio システムの選考を行った。

また、上記のデータを利用し、令和 3 年度事務局研修会（教育改革 W.G.）を実施した。この研修会では、学生の現状把握として本学学生（特に薬学部学生）の成績や出身高校の偏差値などで分類を行い、どのような学生が留年・退学等に陥りやすいについて分析するワークを行った。

国際看護学部は、本学医療系学部の PDCA サイクルに沿い、その確立を目標として教務委員会を中心に活動してきた。

専門科目は令和 4（2022）年度より本格的に開始するため、令和 3（2021）年度は一部の基礎科目について基礎学力に応じた履修が可能となるようプレースメントテストを実施し、専門基礎科目については各科目の成績データ及び国家試験対策の低学年模擬試験の結果等により学生の理解度及び理解度のばらつきを把握した。今後は視覚的な把握ができるよう努めていく。

・遠隔授業の実施

令和 3（2021）年度におけるいわきキャンパスでの遠隔授業の実施は、昨年につき、新型コロナウイルス感染症対策としての一部講義での実施に加え、非常勤講師やゲストスピーカーの招聘など用途を広げている。

また、本学では、これまでに、遠隔授業の実施のための環境として、次のような設備をしているが、遠隔授業の実施に合わせて、いくつかの改善を行った。

・LMS (Learning Management System)の全学的利用

これまで、インターネットを介し、全学的に利用できる LMS を継続して利用しているが、2021 年度から、リアルタイムでのアンケート（クリッカー）機能や出席管理機能を有するシステムに更新した。

・遠隔授業で用いる Web 会議（Microsoft Teams）を含んだ包括ライセンス(Microsoft 365)の利便性を向上させるため、利用するアカウントを大学の所有する学術ドメイン(isu.ac.jp)に統一した。これまで利用してきた汎用ドメイン(isu-st.jp)を停止し、使い分けによる混乱を避けることが可能となり遠隔授業の利用環境を改善した。

・全学生の情報デバイス所有

全学生の情報デバイスの所有は継続している。2021 年度からは、学生が情報デバイスを購入するものとした。部毎の利用形態の違いや個人による必要能力の違いもあることから、学生が目的に合った機器を購入するものとした。これにより窓口での問い合わせが大幅に減少している。

これらの資源を利用し、LMS 及び Web 会議システムを利用した同時双方向型の遠隔授業及び対面と遠隔の混在するハイブリット型授業を行っている。

・授業配信設備の整備

ハイブリット型の授業に対応できる遠隔授業用設備として、昨年度に続き施設整備補助金「遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保に係る補助事業」を使用し 5 教室を整備した。これらは、昨年度の経験を生かし、できる限り簡単な操作で利用できる構成としており、簡易的な授業録画システムとして利用することも可能としている。

柏キャンパスでは、新型コロナウイルス感染症対策として遠隔授業を行った。授業形態については、ソーシャルディスタンスを確保するために複数の教室を利用して、インターネット上での LMS 及び

Web 会議システム (Microsoft Teams)、教室設置の映像機器により対面授業及び同時双方向型授業を行った。また、教室または教員の研究室から PC を用いて同時双方向型及びオンデマンド型授業を実施した。上記の授業前に、学生へは各自にて PC または端末等を準備し、遠隔授業可能かどうかを確認し実施した。教員へは教員間及び教務学生課で支援体制を整備した。今後も新型コロナウイルス感染症予防に努め、2021 年度同様にインターネット上での LMS 及び Web 会議システムを円滑に利用しながら安全・安心な授業を展開していく。

・大学基準協会の指摘事項への対応と内部質保証システムの見直し (令和 3 年度事業計画「3.教育の質の向上」)

大学基準協会による 2018 年度の大学評価結果「保留」、2020 年度の再評価結果「適合」を踏まえ、指摘事項の改善に取り組んでいる。「学生の受け入れ (定員管理)」や「教員・教員組織」の指摘事項も然ることながら、「内部質保証体制」に関する指摘が多かったことから、2020 年度 (令和 2 年度) に見直し、新たに医療創生大学内部質保証体制図を策定した。

2021 年度においては、新たな内部質保証体制のもと、7 月・10 月・1 月・4 月の四半期に一度、自己評価委員会で各部局相互に点検・評価を行い、全学教育委員会へ報告し、さらなる改善に取り組む、という PDCA サイクルを機能させている。2022 年度には、前回 (前述) の改善報告書を大学基準協会へ提出することとされており、2024 年度には次期大学評価を受審する予定のため、自己評価委員会に加え、具体的事項についての自己評価を担当する実施委員会を組織し、体制を整えている。

大学基準協会による大学評価にて指摘のあった事項に対する具体的な対応状況は以下の通りである。

(1) 大学院において、学習成果を効果的に測定し、その結果を教育内容・方法の改善に生かす。

生命理工学研究科では、大学院生から提出される研究計画書及び研究報告書に基づき、研究の進捗状況を把握し指導に当たった。また、後期博士課程においては研究の中間発表会を実施し、評価委員からのコメントをフィードバックした。人文学研究科では活動報告書と活動報告チェック票に基づき、指導方法を見直すなどの対応をした。

(2) 大学院において、研究指導計画として、研究指導の方法及びスケジュールを定め、あらかじめ学生に明示する。

両研究科とも研究指導の方法及びスケジュールを定め、履修の手引きに記載して学生に明示した。

(3) 大学院 FD を適切に実施する。

生命理工学研究科では、研究指導を教育の延長と捉え、「競争資金獲得アプローチ」をテーマに FD 研修会を令和 4 年 1 月に実施した。

人文学研究科では、「公認心理師試験の時期を見据えた修士論文指導方法及び年間指導計画」をテーマに FD 研修会を令和 3 年 12 月に実施した。

・学力向上施策及び国家試験合格 100% へ向けた施策の実施 (令和 3 年度事業計画「3.教育の質の向上」)

令和 3 (2021) 年度より、各学部学科において国家試験対策年間計画をたて、その計画に基づき国

家試験対策を実施することとした。薬学部では、1年生から6年生まで、看護学部、健康医療科学部、心理学部では1年生から4年生までの国家試験対策学修を各学年ごとに計画され、その狙いなどが記されている。今年度の国家試験を受験した薬学部薬学科と看護学部看護学科の2学科の国家試験合格率は、薬学科は90.57%（新卒92.16%）、看護学科は保健師国家試験が82.6%（新卒95.0%）、看護師国家試験が90.1%（新卒91.8%）であった。

また、国家試験対策年間計画の1年生に対する取組として、学内学習塾「クラムスクール」を実施した。この試みは、入学時に実施するプレースメントテスト等による基礎学力が定着していない学生に対し、土曜日を中心に学内で優秀な上級学生が指導する学習塾として、薬学部・健康医療科学部にて実施した。受講生の多くは、前期基礎科目の成績向上につなげることができ、今後「学力不振からの離籍防止」にも大いに期待できると考える。

・入学前から卒業後までの学生データの分析と留年対策（令和3年度事業計画「3.教育の質の向上」）

令和3（2021）年度は、薬学部のデータを整理し、入学年度別にまとめた偏差値と薬剤師国家試験合格者数や、薬剤師国家試験合格者の科目成績平均値と在学生の成績の比較（レーダーチャート）ができるような簡易的な仕組みが可能となった。今後、DX委員会を選定した学修の可視化が実行できるシステムが導入されれば、在学生自身が比較的簡便に自己の成績分析を行えるものとする。

今後は、入学前の成績等を取り込むことで、早期に留年予備軍を検出できるようなデータを整理して行きたいと考えている。

4. 学生満足度の向上

・離籍率減少へ向けた具体的施策の検討・実施（令和3年度事業計画「3.教育の質の向上」離籍防止システムの検証と学生カルテの見直し）

令和3（2021）年度の離籍率は3.8%で、前年度の3.3%に比べて大きな数値の変化はなかったが、中期計画として離籍対策をスタートした平成29年度の5.9%から比べ、2年連続で3%台に減少させることができたのは対策の効果が現れたものと考えられる。

離籍の要因やプロセスを把握するため、従前行ってきた分析方法を改め、複数の要因を重要度毎の割合で分析する「重み付け」分析を実施した。また、昨年度改定されたチューターガイドラインに基づき、チューター面談から得られた情報を共有しやすいよう、離籍危険度の数値化を実践し、早期発見による離籍防止に対する効果を検証した。柏キャンパスの離籍率は1.1%であった。チューターガイドラインの策定、全学生へのチューター面談のスケジュールを策定し実施した。面談結果を学生カルテへ反映し、離籍アラートの早期抽出に努め、アラートの学生情報は全教員で共有し、対応した。

・奨学金制度の見直し

令和2（2020）年度に引き続き、コロナ禍における修学支援措置として、「学生等の学びを継続するための緊急給付金」が実施されたのを受け、給付奨学金受給者のほか132人の学生に受給した。

柏キャンパスでは、日本学生支援機構貸与奨学金を利用する学生は、約7割であった。高等教育の修学支援新制度の受給者は約2割が対象となっている。

制度についてはC-Learning・ガイダンスなどでの告知を行った。

・学友会活動等の課外活動活性化の検討

いわきキャンパスでは、コロナ禍の影響を強く受け、地域の感染状況によって課外活動に制限をせざるを得ない状況が続いた。昨年度、新入生への活動アピールをする機会が夏期になってしまったことから、会場を多くの教室に分けて多人数が集まらないようにするなどの感染防止対策を行い、入学直後に学友会説明会を実施した。

学園祭はコロナ禍によって中止することが無いよう、オンラインによるトークショー企画に切り替え、学園祭実行委員の学生たちによる活動を途切れさせることなく、次の年へのバトンを渡すことができた。

柏キャンパスでは、学友会活動を開始し、令和2年度は4つの愛好会が活動した。次年度以降は新入生に向け団体の説明会を実施し、新入部員獲得のサポートをしていく計画である。

・就職率の向上と地場優良企業への就職者数の増加

令和3(2021)年度の就職率は96.0%で、昨年に比べ2.6%の上昇となった。地場優良企業として、薬学部と看護学部は市内医療機関に31名就職したほか、教養学部は目標としていた福島県教員採用に5名が合格し、昨年度の2名に比べて増加した。

・教職協働による就職支援体制の強化

いわきキャンパスでは、オンラインを活用した合同企業説明会を3月に実施した。薬学部では業種を時間帯で区切った2部制で実施し、企業・医療機関と学生の接触機会を増やすことができた。

また、令和4年度に完成年度を迎えることとなる健康医療科学部では、オンラインと対面の両方を同日に行うことで、多様な企業ニーズに応えると同時に学生のスキルアップができる内容として実施した。

柏キャンパスでは、就職支援委員会が中心となり、1学年に向けキャリア形成の考え方などを踏まえたガイダンスを実施した。

・企業の採用ニーズの把握

企業が学生に求める人材像を把握するため、就職先企業に対するアンケート調査を実施した。得られたデータを分析し、企業に求められる人材育成を教育プログラムに組み込み、企業の採用ニーズと本学学生のマッチングを図れるよう、取り組みを進めていく。

・学生団体（学友会）の在り方検討と新型コロナウイルス感染防止対策の実施（令和3年度事業計画：「3.教育の質の向上」

大学の位置する自治体のコロナウイルス感染状況に応じて、課外活動への制限を度々行わざるを得ない状況が続いた1年であった。そのような中、学友会に属する学生が減少傾向にあるため、細分化されていた委員会組織を改編し、学友会の人員不足に対応できる体制を整えた。

新型コロナウイルス感染防止対策として、活動指針を学生・教職員に周知し、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用、手洗い・消毒といった3つの基本を徹底した。毎朝の健康チェックを慣習とするため、Learning Management System を利用した健康観察表への記録を義務づけ、「感染しな

い、させない」意識付けをした。

5. 地域連携の推進

・地域連携協議会による企業、高校、行政との連携強化

地域連携協議会での活動はコロナ禍の中、ほとんどできない状況であった。役員会、総会については集まりを避け、書面表決による連絡・審議として実施した。また、令和3年9月に「地域連携協議会（教育部会・産業部会）」役員を対象としたアンケート調査を行い意見を聴取した。調査結果は10月に実施した自己評価委員会で報告されている。今後は調査項目の見直しを行っていく。

・市民への学び直しのニーズ把握と教育機会提供、大学教育への接続検討

健康医療科学部の学生・教員による「HEaLThセンター」の活動を開始した。

令和3（2021）年度の公開講座は、健康医療科学部理学療法学科が担当し、12月、1月、2月、3月の4回に分けて「理学療法学科教員による運動教室」を実施した。参加者は4名であった。

専門学校

1. 認可等の準備

・2021年度高等教育段階の負担軽減新制度の機関要件確認継続申請

昨年度に引き続き専門学校4校の設置する県に、高等教育段階の負担軽減新制度の機関要件確認継続申請を行い、専門学校4校ともに適用機関の継続承認を受けた。

2. 管理・運営体制の整備

・専門学校4校の業務の共通化・効率化を図る

経理システムにも慣れ、大学経理担当者と専門学校経理担当者間での情報を確認共有し業務の共通化・効率化を図っている。

学生募集については、各学校の広報担当者間による募集方法の情報交換やパンフレット配布協力、高校訪問の対象地域分け相互協力を継続して実施するなど、学生確保により実効性のある効率化を図っている。

・共通学科（看護学科）の学科運営の相互協力体制の整備

今年度もコロナウイルス感染症対策を実施する中で3校共通実施には至らなく、昨年同様に複数校のスケールメリットを生かし、一部の業者統一による経費の削減は行った。

実習実施時期の変更や遠隔授業の実施など各学校の授業運営が複雑となっているため、国家試験対策方法などの情報を共有し各学校で活用している。

・第3者評価実施に向けた基準等の整備

高等教育段階の負担軽減新制度の適用機関の継続承認を専門学校 4 校ともに受けていることから、学校関係者評価については継続して実施した。

引き続き千葉・柏リハビリテーション学院と葵会仙台看護専門学校の 2 校については、第 3 者評価の実施に向けた基準等の整備を図っていく。

千葉・柏リハビリテーション学院

1. 学生の確保施策の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、進路説明会及び見学会の中止が相次いだ。

更に、従来型のオープンキャンパス開催については人数制限を設けざるを得ない状況であったため、従来型とは別に、少人数を対象とした小規模型オープンキャンパス、来校できない方のためのオンライン型オープンキャンパスなど、種類と日数を増加開催し、希望者のニーズに応えてきた。

その結果、入学試験開始直後から多くの受験者が希望し、受験者数は前年度比で 1.14 倍となった。

また、入学者の学力についても前年度を上回り、学生募集活動の目標として掲げている定員の確保と入学者の質の向上の両方を達成した。

2. 国家試験合格率の向上

理学療法学科、作業療法学科共に全員受験を心がけて実践してきた。

自宅の学習環境が整わない学生や学力低下者を対象として、日曜祝日や夜間の学校開校を実施したり、グループごとに担当教員の個別指導を付けて国家試験対策を実施してきたが、合格率としてはやや芳しくない結果となってしまった。

また、在学中に不合格となった場合の次年度受験に向けた学修支援コースに通う受験者は、半数以上が合格し、既卒者としては合格率がやや高いものとなった。

次年度は、学習体制・教員配置等の見直しを改めて行い、合格者を一人でも多く出し、必ず卒業後の就職につなげて行きたい。

岡山・建部医療福祉専門学校

1. 学生確保施策の実施

2021 年 1 月に岡山県、岡山市担当課、在校生、各高等学校・予備校、地域住民等に学生募集停止の通知（ホームページにも掲載）を行い、2021 年 2 月以降は 2021 年 4 月入学予定者の出身校、在校生の出身校、過去指定校を出していた高等学校を重点的に訪問し、学生募集停止の理解を求めた。

2021 年 4 月の入学生は 48 名と大きく定員を下回った。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験合格率を上げるために、昨年同様1年生から模試を実施し、3年生は従来の夏季休暇・冬期休暇期間に業者・非常勤講師並びに専任教員による補講を行い国家試験対策の徹底を図る。

2021年度看護師国家試験の結果は、受験者21名中19名(90.5%)の合格となった。

葵会仙台看護専門学校

1. 学生確保施策の実施

令和4年度新入生122名が入学する。コロナ禍で特に県外高校生が越境を敬遠する中、357名の受験生には心から感謝申し上げたい。

総数は前年度比50名減で、要因は県外志願者数が前年度92名から23名減の69名であった。一方、既卒者は40名から4名増の44名、葵会奨学金申請は5名から25名増の30名に上った。

コロナ禍により学生募集のための学校訪問や進路ガイダンスが中止となったが、他の学校も条件は同じであり、今後もより丁寧かつ戦略的な広報活動が求められる。新年度から例年6月末から7月に依頼していた指定校を4月から実施し、例年20名程度の指定校志願者を30名以上とする。

2. 国家試験合格率の向上

第111回看護師国家試験は、125名(新卒120名・既卒5名)が受験(受験率100%)し、新卒114名(合格率95.0%)、既卒3名(合格率60%)、総数117名合格(合格率93.6%)の結果であった。

新卒不合格者6名は准看護師資格は取得しており、進学・就職率は100%であった。今年度も「全員受験・全員合格・全員就職」を目標にきめ細やかな支援を推進する。

具体的には4月時点で模擬試験等結果から合格圏外レベルの学生を小グループ化し、重点的に弱点対策を実施していく。また、全教職員が「国家試験100%合格」を実現するために、個々の強みを最大限に発揮できる組織づくりを行っていく。

葵会柏看護専門学校

1. 学生確保施策の実施

令和3年4月に国際看護学部を開設し、専門学校は令和2年度から募集を停止した。

2. 国家試験合格率の向上

国家試験対策担当教員が中心となり、各学年の学生の学修状況と学修効果の把握に努め、学年担当教員と連携し、学生の科目修得レベル別(模試の結果等を参考にして)に国家試験対策を進めた。学修効果が表れない学生は、空き時間や授業時間後に個別指導を行い、自宅での学修継続につながる支援を徹底して実施した。また、保護者との個別面談を増やし、自宅での学修継続の必要性を促した。

このような教育支援の結果、第2期生の国家試験合格者は、受験者77名に対して71名の合格(合

格率 92.2%) で昨年度より向上した。また、昨年不合格となった既卒者 9 名全員が受験し、8 名が合格となり総合合格率は 91.9%であった。

III 財務の概要

(1) 令和3年度決算について

2019(平成31)年4月に1大学4専門学校を有する学校法人医療創生大学として教育事業を開始して3年目を迎え、2020(令和2)年4月に開設した心理学部は2年目を迎えた。また、2021(令和3)年4月に千葉県柏市の葵会柏看護専門学校敷地内に医療創生大学国際看護学部が開設した。

資金収支計算書

学校法人は、毎会計年度に当該会計年度の諸活動に対応するすべての(収益事業会計以外)収入・支出の内容、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにしている。

当年度の収入においては、学生生徒等納付金収入、補助金収入(432百万円)を計上している。

当年度の経常外経費として、大学いわきキャンパスにおいて、健康医療科学部の設置経費(5百万円)、大学柏キャンパスにおいて、グラウンド整備費20百万円、仙台看護専門学校において、地震被害による校舎等修繕費として26百万円、教室増設レイアウト変更工事費5百万円を支出した。資金収支差額▲56百万円のうち、経常外経費56百万円を除外すると±0円となる。これには、大学いわきキャンパスでは、遠隔授業活用推進事業(10百万円)、AV教室プロジェクト更新費(2百万円)、電話交換機設備更新(7百万円)、大学柏キャンパスでは、校舎3階改修費5百万円、専門学校では、講義用モニター及び券売機導入(3百万円)が含まれている。また、今年度開学した国際看護学部、2年目を迎えた心理学部、3年目を迎えた健康医療科学部にかかる支出が含まれており、今後の学年進行に伴い学生数が増加していくことからみて、さらに経常経費上の収支バランスは整いつつある。また、2018年2月より進めている人件費削減策および管理経費削減策の効果が表れているといえる。

(単位:百万円)

	2021予算	2021決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,490	3,287	203
手数料収入	65	48	17
寄付金収入	5	8	▲3
補助金収入	363	432	▲69
付随事業・収益事業収入	73	80	▲7
雑収入	28	83	▲55
借入金等収入	0	0	0
前受金収入・その他の収入	987	1,177	▲190
資金収入調整勘定	▲1,180	▲1,177	▲3
前年度繰越支払資金	3,971	1,696	2,275
収入の部合計	7,931	5,633	2,298
人件費支出	2,319	2,131	188
教員人件費	1,877	1,686	191
職員人件費	392	346	46
役員報酬支出	14	18	▲4
退職金支出	36	81	▲45
教育研究費支出	1,261	971	290
管理経費支出	576	436	140
借入金利息・返済支出	90	88	2
施設関係支出	0	38	▲38
設備関係支出	20	45	▲25
資産運用支出・その他の支出	314	506	▲192
資金支出調整勘定	▲32	▲222	190
翌年度繰越支払資金	3,333	1,640	1,693
予備費	50	-	-
支出の部合計	7,931	5,633	2,298
資金収支差額	▲638	▲56	▲582

事業活動収支計算書

学校法人は、毎会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入・事業活動支出の内容を明らかにし、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために作成している。なお、資金収支計算書にはみられない非資金取引科目がある。

経常費等補助金収入の内訳としては、大学 274 百万円、専門学校 158 百万円となっている。減価償却費の内訳としては、大学 499 百万円、専門学校 219 百万円となっている。

(単位:百万円)

科目	2021 予算	2021 決算	差異
学生生徒等納付金	3,490	3,287	203
手数料	65	48	17
寄付金	5	11	▲ 6
経常費等補助金	363	432	▲ 69
付随事業収入	73	80	▲ 7
雑収入	28	50	▲ 22
収入計	4,024	3,908	116
人件費	2,317	2,107	210
教員人件費	1,877	1,686	191
職員人件費	392	346	46
役員報酬	14	18	▲ 4
退職金・退職給与引当金繰入	34	57	▲ 23
教育研究費	1,858	1,618	240
減価償却費	597	644	▲ 47
管理経費	640	510	130
減価償却費	64	74	▲ 10
支出計	4,815	4,235	580
教育活動収支差額	▲ 791	▲ 327	▲ 464
教育活動外収支差額	▲ 23	12	▲ 35
経常収支差額	▲ 814	▲ 315	▲ 499
特別収支差額	0	6	▲ 6
予備費	50	-	-
基本金組入前当年度収支差額	▲ 864	▲ 309	▲ 555
基本金組入額合計	0	▲ 721	721
当年度収支差額	▲ 864	▲ 1,031	167
事業活動収入計	4,024	3,950	74
事業活動支出計	4,888	4,260	628

貸借対照表

財政状態を明らかにするために作成されるもので、資産の部、負債の部及び純資産の部からなり、資産、負債及び純資産の科目ごとに当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して記載している。

資産の部の総額は、令和2（2020）年度末に対し707百万円の減少となり、18,648百万円となった。固定資産が657百万円減少して16,874百万円となり、流動資産が51百万円減少して1,774百万円となった。固定資産の減少理由は、令和3年度の減価償却によるものである。

負債の部においては、398百万円の減少となり3,819百万円となった。減少理由は、長期借入金、長期末払金、未払金の減少等である。

基本金においては、第1号基本金にて721百万円の組み入れとなった。また、第4号基本金は、大学および専門学校の令和元年度決算数値をもとに算出し組み入れを行った。

（単位：百万円）

科目		2021年度末	2020年度末	増減
資産の部	固定資産	16,874	17,531	▲ 657
	有形固定資産	16,313	16,941	▲ 628
	特定資産	536	562	▲ 26
	その他の固定資産	25	28	▲ 3
	流動資産	1,774	1,825	▲ 51
	資産の部合計	18,648	19,355	▲ 707
負債の部	固定負債	2,375	2,528	▲ 153
	流動負債	1,444	1,689	▲ 245
	負債の部合計	3,819	4,217	▲ 398
純資産の部	基本金	28,892	28,171	721
	1号基本金	28,569	27,848	721
	4号基本金	323	323	0
	繰越収支差額	▲ 14,063	▲ 13,032	▲ 1,031
		純資産の部合計	14,829	15,138
	負債及び純資産の部合計	18,648	19,355	▲ 707

(2) 財務比率

●法人全体の状況

法人全体の事業活動収支計算書をもとに、財務比率を算出した。

令和3(2021)年度は、平成31(2019)年4月に学校法人いわき明星大学と学校法人葵会学園が合併し、1大学4専門学校を有する学校法人医療創生大学として教育研究活動を開始して3年目である。また、令和3(2021)年4月、大学に国際看護学部が開設し、葵会柏看護専門学校は募集を停止し、2・3学年で教育活動をおこなった。

これまでの法人の活動は、平成29(2017)年度は、周年事業寄付金による経常収入の増加により各種比率に大きな影響を及ぼし、近年の財務比率との比較が困難な結果となった。平成31(2019)年度は学校法人葵会学園との法人合併、多額の寄付金収入により経常収入が増加した。このような状況からみて、財務比率による法人全体の検証は難しい状況である。

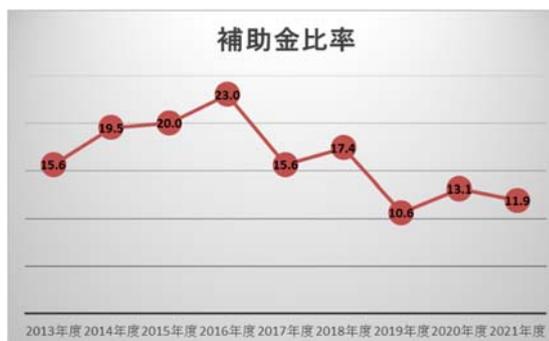
しかし、この数年にわたる大学の収容定員充足率の回復に伴い、学生生徒等納付金比率が比較的安定していること、運営経費のうち、管理経費割合が15%程度に抑えられていることは望ましい状況であるといえる。また、経常費補助金比率は昨年度同等であるが、今後も、大学運営をより安定化するための補助金獲得という観点から、先進的な大学教育研究活動を推進させる施策や国際化に向けた体制等を構築しさらに補助金収入増加を目指すこととなる。

		R03決算	R02決算	法人合併 H31決算	H30決算	H29決算	H28決算
		2021	2020	2019	2018	2017	2016
収入 構成	学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)%	83.4%	83.5%	73.4%	75.8%	46.4%	71.4%
	補助金比率 (教育活動収入補助金/経常収入)%	11.0%	11.1%	6.4%	17.0%	15.4%	22.7%
	寄付金比率 (教育活動収入寄付金/経常収入)%	0.3%	0.3%	15.2%	1.0%	34.7%	0.5%
支出 構成	人件費比率 (人件費/経常収入)%	53.5%	53.9%	47.4%	77.2%	56.2%	86.2%
	人件費比率(退職金関係除く) (人件費/経常収入)%	52.0%	51.9%	45.4%	67.1%	53.2%	81.8%
	教育研究費比率 (教育研究費/経常収入)%	41.1%	45.5%	42.0%	55.7%	36.0%	66.9%
	教育研究費比率(減価償却額除く) (教育研究費/経常収入)%	24.7%	29.9%	27.6%	35.3%	20.7%	39.7%
	管理経費比率 (管理経費/経常収入)%	13.0%	15.0%	13.4%	15.1%	11.1%	16.7%
	管理経費比率(減価償却額除く) (管理経費/経常収入)%	11.1%	13.1%	11.6%	12.2%	9.6%	13.0%
	減価償却額比率 (減価償却額/経常支出)%	16.9%	15.2%	15.6%	15.7%	16.3%	18.2%
経営 状況	教育活動収支差額比率 (教育活動収支差額/教育活動収入)%	-8.4%	-14.8%	-3.1%	-48.0%	-3.3%	-69.8%
	経常収支差額比率 (経常収支差額/経常収入)%	-8.0%	-14.7%	-3.6%	-47.9%	-3.3%	-69.8%
	事業活動収支差額比率 (基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入)%	-18.3%	-18.7%	-3.1%	-48.4%	-3.5%	-71.1%

●大学の状況

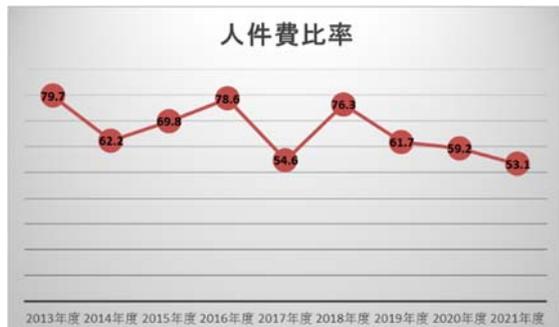
大学の状況を経年でみていくと下記のグラフのとおりとなる。

① 主な収入の推移



学生生徒等納付金比率及び補助金比率は、大学の重要な自己財源であるため、安定していることが望ましい。令和3(2021)年度は、令和2(2020)年度と比較し、学生数の微増により、学生生徒等納付金比率は若干増加した。定員充足率の回復に伴い学生生徒等納付金比率が継続して安定している。補助金比率は、1ポイント減少している。

② 人件費の推移



令和2(2020)年度と比較し、令和3(2021)年度の人件費比率および人件費依存率が減少している。平成30(2018)年2月から実施している人件費削減策は、令和3(2021)年度においても継続実施しており、また、賞与を3カ月から2.7カ月に削減した効果もでている。人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)を見ても顕著である。未完成学部(健康医療科学部、心理学部)を2つ抱えている状況から見て、人件費依存率が増加すると予測していたが、大学全体の定員充足率が回復傾向にあることも良い影響を及ぼしている。

③ 主な経費の推移



令和3(2021)年度は、令和2(2020)年度の教育研究経費比率および管理経費比率は減少している。学生数増により増加することを想定していたが、契約電力の見直しとLED化およびICT化等をさらに推進したため経費比率が減少した。

教育研究経費比率は、教育研究活動の維持向上を支え、経常費補助金の配分と密接な関係を持つ費用であるため、比率は高い方がよい。また、施設設備が老朽化してきているため設備更新や施設修繕を計画的に実施し施設設備の延命も視野に入れ、大学を長期に安定維持していくことは重要である。

下表は2013年からの大学の状況を各種比率で表したものである。なお、平成25(2013)年度から平成27(2015)年度までは、学校法人明星学苑の設置校時のいわき明星大学部門の数字を使用している。また、学部設置にかかる経費は、法人部門へ計上している。平成29(2017)年度は周年事業寄付金による経常収入の増加により、一時的に収入が増加している。令和3(2021)年度は事業活動収支差額比率が4か年に渡り回復していることをみても経費削減策の効果が表れている。

	比率	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	人件費比率	79.7	62.2	69.8	78.6	54.6	76.3	61.7	59.2	53.1
2	人件費依存率	92.7	99.8	130.1	108.6	116.4	98.3	74.8	71.0	62.6
3	教育研究経費比率	49.8	47.1	44.9	60.9	36.4	49.8	51.0	49.0	44.0
4	管理経費比率	11.4	9.6	12.1	9.6	7.4	6.4	9.8	8.5	6.9
5	借入金等利息比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	▲ 33.9	▲ 19.0	▲ 309.7	▲ 50.4	1.4	▲ 33.0	▲ 21.2	▲ 16.3	▲ 3.7
7	事業活動収支比率	133.9	119.0	409.7	150.4	98.6	133.0	121.2	116.3	103.7
8	基本金組入後収支比率	133.9	119.0	409.7	150.4	98.1	108.5	121.2	110.3	102.4
9	学生生徒等納付金比率	78.4	62.3	53.6	72.3	46.9	77.6	82.6	83.3	84.8
10	寄付金比率	1.1	0.4	0.3	0.7	35.2	1.0	1.5	0.6	0.7
11	経常寄付金比率			0.2	0.5	35.1	0.8	1.4	0.4	0.4
12	補助金比率	15.6	19.5	20.0	23.0	15.6	17.4	10.6	13.1	11.9
13	経常補助金比率			20.1	23.0	35.1	17.5	10.9	13.0	11.7
14	基本金組入率	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 0.6	▲ 22.5	0.0	▲ 5.4	▲ 1.2
15	減価償却額比率	17.9	18.1	11.4	20.5	17.1	17.3	18.9	17.6	19.7
16	経常収支差額比率			▲ 26.8	▲ 49.0	1.6	▲ 32.5	▲ 22.6	▲ 16.7	▲ 4.0
17	教育活動収支差額比率			▲ 26.8	▲ 49.0	1.6	▲ 32.5	▲ 22.7	▲ 17.2	▲ 4.2

(3) 学校法人の会計について（学校法人会計の特徴と企業会計との違い）

私立学校は、建学の精神に基づく教育と教育研究活動を将来にわたり継続的に実施していくこと、そしてその会計処理についても収益事業を目的とした一般事業会社のような企業会計の原則とは異なり、継続的な運営を可能とする収支の均衡がはかられているかどうかを把握することが求められている。

また、私立学校の教育条件の維持、向上そして経営の健全性を高め、在学する学生等の修学上の経済的負担の軽減をはかるため、経常的経費に対する補助を国から受けている（私立学校振興助成法第4条）。ここでは、その補助を受けるために定められた学校会計基準の特徴について6つに分けて説明する。

なお、主な収入は学生生徒納付金や経常費補助金であり、この額は年初にほぼ確定されているため、支出管理は企業以上に重要と位置付けられており、この支出を制御することを目的として、厳格な予算書作成（予算主義）が行われている。

【企業会計との違い】

	学校法人会計	企業会計
目的	非営利目的	営利目的
活動	教育研究活動	利益獲得のための経済活動
会計基準	学校法人会計基準	企業会計原則
会計年度	4月～翌年度3月	さだめられていない
作成書類	資金収支計算書	キャッシュ・フロー計算書
	活動区分資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	損益計算書
	貸借対照表	貸借対照表

【学校会計の特徴】

①一般原則

4つの原則により会計処理を行い、計算書類を作成している。

・ 真実性の原則：

財政及び経営の状況について真実な内容を表示すること。

・ 複式簿記の原則：

すべての取引について複式簿記の原則によって正確な会計帳簿を作成すること。

・ 明瞭性の原則：

財政及び経営の状況を正確に判断することができるように必要な会計事実を明瞭に表示すること。

・ 継続性の原則：

採用する会計処理の原則及び手続きならびに計算書類の表示方法については毎会計年度に継続して適用し、みだりにこれを変更しないこと。

②勘定科目及び教育研究経費と管理経費の区分

各計算書における記載科目が学校法人会計基準に定められている。特に資金収支計算書における教育研究経費支出と管理経費支出の区分は経常費補助金算定の基礎となっており、また、その区分については、文部省通知により管理経費に限定列挙されている 7 つの項目以外は、その主たる用途に従い、それぞれ直接把握するか、その使用割合など合理的な配分基準により按分することで処理することとされている。

管理経費となるものは以下の 7 つである。

- ・ 役員の行う業務執行のために要する経費及び評議員会のために要する経費
- ・ 総務・人事・財務・経理その他これに準ずる法人業務に要する経費
- ・ 教職員の福利厚生のための経費
- ・ 教育研究活動以外に使用する施設、設備の修繕、維持、保全に要する経費（減価償却費含む）
- ・ 学生生徒等の募集のために要する経費
- ・ 補助活動事業のうち食堂、売店のために要する経費
- ・ 附属病院業務のうち教育研究業務以外の業務に要する経費

③部門別内訳表の作成

学校法人会計基準第 13 条において、学校法人、各学校、研究所、各病院、農場、演習林などの部門ごとに資金収支内訳表を作成することとなっている。また、学校法人会計基準第 24 条に基づき、同様の部門ごとに事業活動収支内訳表を作成している。なお、資金収支内訳表及び人件費内訳表の部門の記載にあたっては、2 以上の学部を置く大学にあつては学部、2 以上の学科を置く短期大学にあつては学科、2 以上の課程を置く高等学校にあつては課程にそれぞれ細分するものと定められている。

④総額表示と純額表示

計算書類に記載する金額は、総額表示であるから、収入と支出、貸借対照表科目の資産と負債・基本金・繰越収支差額を相殺していない。ただし、預り金に係る収入と支出（例えば源泉徴収された所得税・社会保険料等）、また、その経過的な収入と支出（例えば仮受金・仮払金等）及び食堂に係る収入と支出、教育活動に付随する活動に係る収入と支出（例えば売店や寮等）については純額をもって表示している。

⑤収益事業会計

私立学校の教育に支障のない限り、その収益を経営に充てるために私立学校法第 26 条において、収益を目的とする事業（18 の業種）を行うことが認められている。これらは、一般に公正妥当と認められる企業会計の原則に従って計算書類の作成を行っている。学校法人会計基準による受託事業収入・施設利用料収入・補助活動収入・雑収入などについても、法人税法上の収益事業（34 業種）に該当する場合は、それが教育活動に係るものであっても収益事業として課税対象となる。学校では教育研究活動の一環として実施しているもので、決して利益の獲得を目的にしていなくとも、税務上は収益事業として課税される場合もある。

⑥財務諸表

学校法人が作成しなければならない計算書類は以下のとおりである。

・安全性をみるもの

「資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、活動区分資金収支計算書」

学校法人は、毎会計年度に当該会計年度の諸活動に対応するすべての（収益事業会計以外）収入・支出の内容、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするために作成している。

・採算性をみるもの

「事業活動収支計算書、事業活動収支内訳表」

学校法人は、毎会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入・事業活動支出の内容を明らかにし、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために作成している。なお、資金収支計算書にはみられない非資金取引科目がある。

・年度末の財産をみるもの

「貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表」

財政状態を明らかにするために作成されるもので、資産の部、負債の部及び純資産の部からなり、資産、負債及び純資産の科目ごとに当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して記載している。

【勘定科目の説明】

①資金収支計算書

No.	勘定科目名称	内容
1	学生生徒等納付金収入	学生からの授業料、実験実習料、入学金等
2	手数料収入	入学検定料、学内試験料、成績証明書等の発行手数料
3	寄付金収入	個人・企業等からの寄付金
4	補助金収入	国、地方公共団体、日本私立大学振興・共済事業団からの補助金
5	資産売却収入	学校の資産等の売却による収入
6	付随事業・収益事業収入	企業からの受託事業収入、収益事業
7	受取利息・配当金収入	預金等の利息
8	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入他
9	前受金収入	翌年度入学生の学生生徒等納付金収入
10	その他の収入	前年度の未収入金収入
11	資金収入調整勘定	資金収入を伴わないもの（当年度の未収入金、前年度の前受金）
12	前年度繰越支払資金	前年度末に繰り越した支払資金総額
13	人件費支出	教職員の給与、役員の報酬、退職金
14	教育研究経費支出	教育研究活動（奨学金含む）など
15	管理経費支出	理事会、学生募集、広報など教育研究以外のもの
16	施設関係支出	建物、構築物など固定資産に関する支出

17	設備関係支出	備品、図書など諸活動に使用するもの
18	資産運用支出	特定資産の積立など
19	その他の支出	前年度の未払い金、前払い金など
20	資金支出調整勘定	資金支出を伴わないもの（当年度の未払金、前年度の前払金）
21	翌年度繰越支払資金	次年度へ繰り越す支払資金の総額

②事業活動収支計算書

No.	勘定科目名称	内容
1	学生生徒等納付金	学生からの授業料、実験実習料、入学金等
2	手数料	入学検定料、学内試験料、成績証明書等の発行手数料
3	寄付金	資金収支計算書の寄付金収入に現物での寄付を加えた収入
4	経常費等補助金	国、地方公共団体、日本私立大学振興・共済事業団からの補助金
5	付随事業収入	企業からの受託事業収入
6	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入他
7	人件費	教職員の給与、役員の報酬、退職金（財団交付金と引当金の相殺）
8	教育研究経費	教育研究活動（奨学金含）、減価償却費など
9	管理経費	理事会、学生募集、広報、減価償却費など教育研究以外のもの
10	資産処分差額	資産処分時の除却損など
11	その他の特別支出	臨時の場合の支出（災害損失・過年度修正額など）

③貸借対照表

No.	勘定科目名称	内容
1	固定資産	有形固定資産（土地・建物）、特定資産（積立金）、固定資産
2	流動資産	現金・預金等の資産
3	固定負債	支払期限が長期のもの（長期未払金、退職給与引当金）
4	流動負債	支払期限が短期のもの（未払金、前受金、預り金）
5	第1号基本金	設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額、規模の拡大や教育の充実のために取得した固定資産の価額
6	第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣が定める額
7	繰越収支差額	累積された当年度収支差額の収入または支出の超過額

監査報告書

令和4年5月25日

学校法人 医療創生大学
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 医療創生大学

監事 鷺田千秋 
監事 森 保彦 

私たち学校法人医療創生大学の監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人医療創生大学寄附行為第16条に基づき、令和3年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)における学校法人医療創生大学の業務及び財産の状況について監査を行いました。その結果について下記の通り報告いたします。

記

1. 監査方法の概要

監事は、理事会、評議員会及び学部長会等の重要な会議に出席したほか、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、法人事務局及び大学、千葉・柏リハビリテーション学院、岡山・建部医療福祉専門学校、葵会仙台看護専門学校、葵会柏看護専門学校の関係部署の責任者及び担当者から業務執行の状況を聴取するとともに、業務及び財産の状況を調査しました。さらに、計算書類(資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細書)を検証しました。

2. 監査の結果

- (1) 学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、適法かつ正確に法人の収支状況及び財産状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

2021年度 学校自己評価

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、昨年度に続き教職員による学校自己評価を実施しました。卒業生に対して実施した教育評価の満足度・到達度のアンケート結果とあわせ評価しました。集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めてまいります。

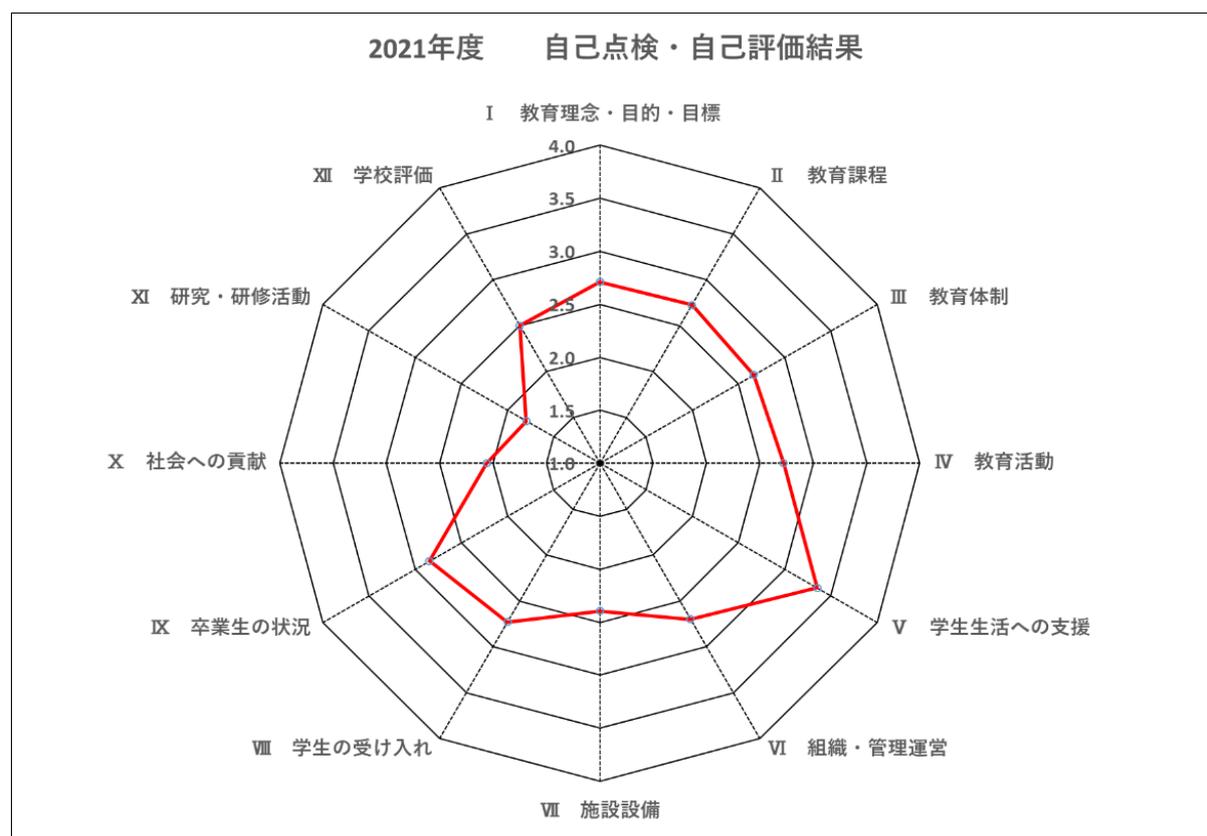
【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

I	II	III	IV	V	VI
教育理念・ 目 標	教育課程	教育体制	教育活動	学生生活支援	組 織・ 管理運営
2.7	2.7	2.7	2.7	3.4	2.7

VII	VIII	IX	X	XI	XII
施設設備	学生受け入れ	卒業生の状況	社会への貢献	研 究・ 研修活動	学校評価
2.4	2.7	2.8	2.1	1.8	2.5

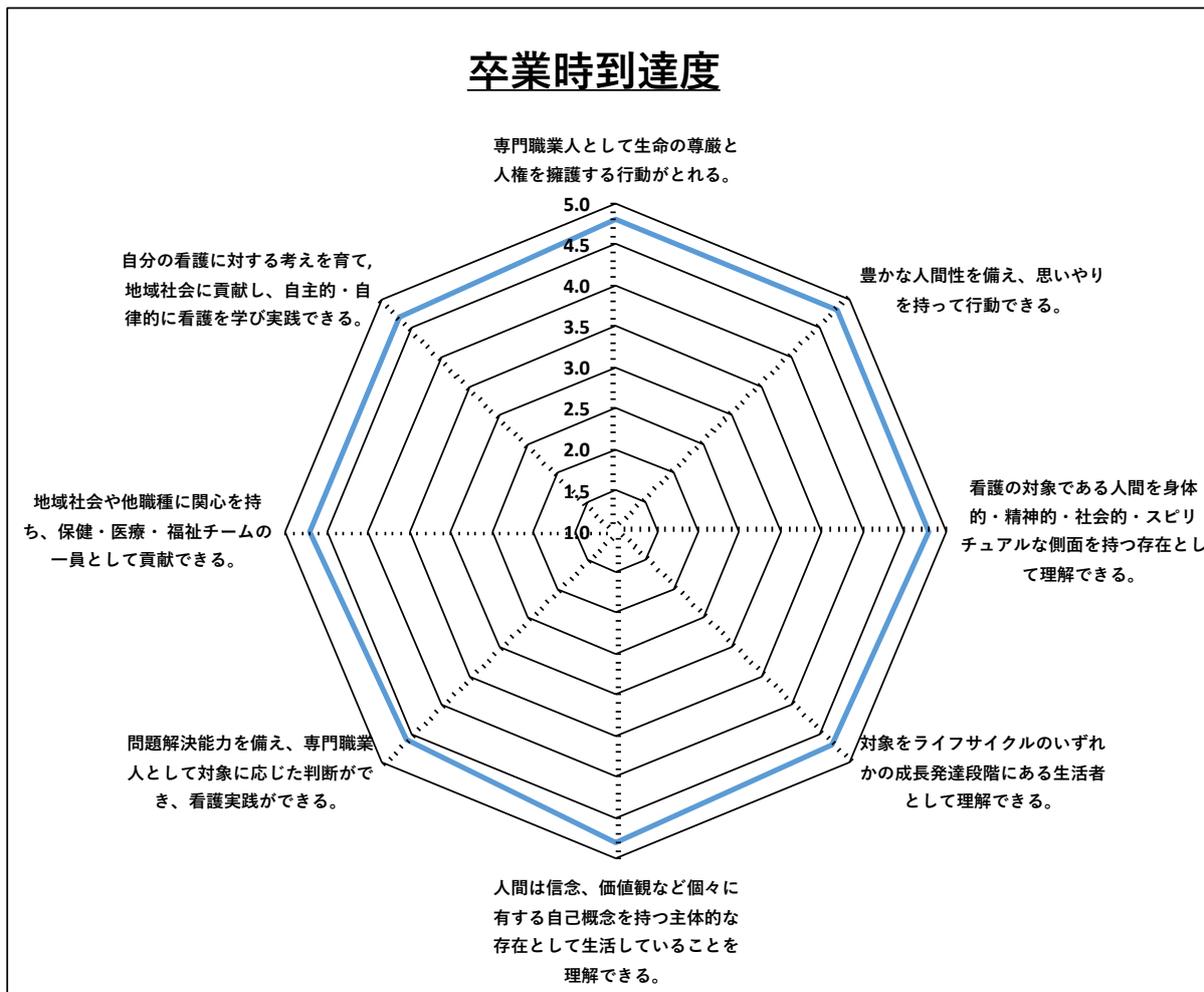
【大項目評価のレーダーチャート】



【卒業生(第3回生)の到達度】

	教育評価（卒業時到達度）	平均
1	専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。	4.8
2	豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。	4.8
3	看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.8
4	対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。	4.7
5	人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。	4.8
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。	4.6
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。	4.7
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。	4.7

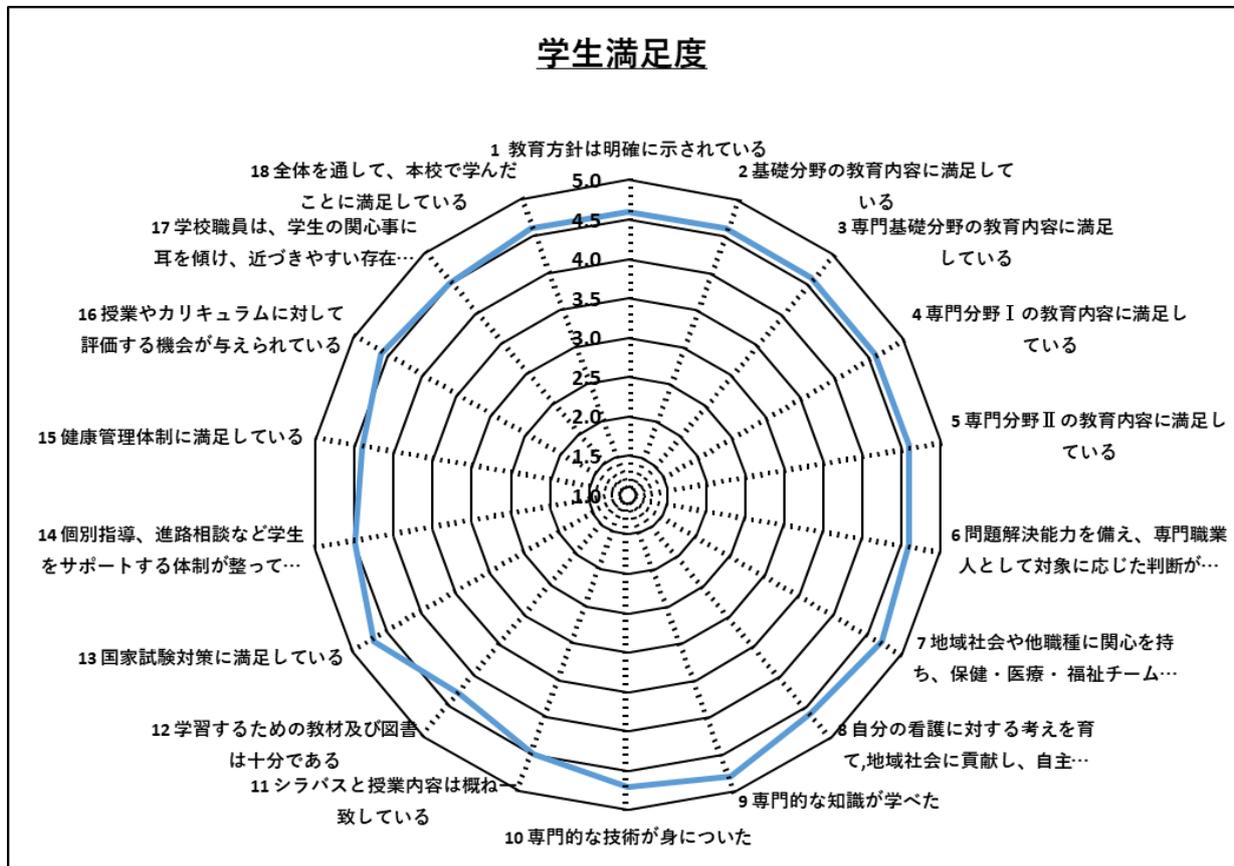
5:到達できた 4:少しできた 3:どちらともいえない 2:あまり到達できていない 1:全く到達できていない



【卒業生(第3回生)の満足度】

	教育評価 (卒業生満足度)	平均
1	教育方針は明確に示されている	4.6
2	基礎分野の教育内容に満足している	4.6
3	専門基礎分野の教育内容に満足している	4.6
4	専門分野Ⅰの教育内容に満足している	4.6
5	専門分野Ⅱの教育内容に満足している	4.6
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる	4.6
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる	4.7
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる	4.6
9	専門的な知識が学べた	4.8
10	専門的な技術が身についた	4.7
11	シラバスと授業内容は概ね一致している	4.5
12	学習するための教材及び図書は十分である	4.3
13	国家試験対策に満足している	4.7
14	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	4.5
15	健康管理体制に満足している	4.4
16	授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている	4.6
17	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	4.5
18	全体を通して、本校で学んだことに満足している	4.6

5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:ややそう思う 1: 思わない



【大項目評価の自己評価の要約と評価】

I 教育理念・目標

教育目標は、「学生便覧」に明示し入学時オリエンテーションで説明しているが、教員が日常の場面で教育目標に具体的に触れ、学生が教育目標を意識した行動をとることができるよう促す必要がある。一番低い項目が「学生・保護者への浸透：2.1」であった。コロナ禍が続く中、コロナ禍前の教育体制に戻る時期がまだまだ見えないため、学生のみでなく保護者への文書や情報ツール（インフォクリッパー）を活用しながら、教育に対する姿勢を伝えていきたい。

卒業生に対するアンケート結果からは「教育方針は明確に示されている」に対する評価は5段階中4.6と昨年度の3.9より満足度は高かった。

II 教育課程

2022年度カリキュラム改正のための準備作業を進め、新教育課程を整備することができた。次年度は2つのカリキュラム評価体系の構築をすすめ、教育課程を評価していきたい。

卒業生の教育評価（学生満足度）からは各分野の教育内容に関して5段階中4.5～4.6と昨年度の3.8～4と比較し高評価であり満足度が高いと評価できる。

III 教育体制

単位認定や国試対策、個々の学生への支援は3.0～3.8と良好であるが、実習関連項目が全般的に低かった。最も低い細目は「実習科目に見合った実習施設：2.2」「実習施設の見直し：2.2」

「効果的な教育方法の検討の場：2.2」であった。学生数に見合った実習施設の確保が優先された結果と考えられ、教育目標を達成するためには実習施設の現状と教育方法の吟味が今後も重要となる。また領域毎に授業研究や模擬授業を開催する機会を検討する。

IV 教育活動

シラバス等の見直しは、領域毎に検討し授業計画や改善につなげている。今年度も新型コロナ対策のため、学生の主体的学習を十分サポートできたとはいえない。最も低い細目は「日常的な教材研究の実施：2.6」であった。教員は実習やコロナによる対応業務から講義前の十分な時間の確保が難しい状況が考えられる。次年度は教材研究や視聴覚教材数の拡大を図り、効果的な授業作りを目指したい。

V 学生生活支援

学生に対する支援は他の項目と比較すると今年度も高い評価であった。健康管理に対する支援が細やかに提供できている。最も低い細目は昨年度同様「中途退学者を少なくする支援：2.9」であった。退学理由は家庭環境や生活面、学習困難などさまざまである。学習支援は入学時より留意している部分ではあるが学習困難となる前の早期支援と同時に学習困難者への活動をより充実させる。また、個別面談により、より綿密な学生支援を継続する。学生からの評価は国試対策支援、個別指導、健康管理体制共に5段階中4.4～4.7と満足度は高かった。

VI 組織・管理運営

学校運営上の決定は週1回の運営会議で適時迅速な対応に努め、教職員は、業務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議や各委員会等で検討できている。タブレットの導入や遠隔授業に向けた準備のためのプロジェクトチームは情報管理委員会として新たに活動を開始し

た。学校情報ツール（インフォクリッパー）を活用し、適時に学生・保護者への周知ができて
いる。昨年度同様、最も評価が低い細目は「運営に必要な人数と職種：1.4」「教員ラダーの活
用：1.4」であった。業務のスリム化・効率化と教員ラダー構築の必要がある。

VII 施設設備

施設・設備は指定規則に則っており、モデル人形やシミュレーター教材は充実しているが、
コロナ禍のため教室環境の見直しをしたことと、3 学年ともに 120 名となり昨年度より学生総
数が増加し、ゆとりの空間がさらに減少した。このため「憩いの場作り：1.5」と前回より、0.4
ポイント低下した。限られた空間で、過密にならない工夫が今後も必要である。前回と同様に
図書に関する項目が低評価であり、今年度は図書委員会を中心に図書、図書室の充実を目指す。
学生評価は 5 段階中 4.3 であった。

VIII 学生受け入れ

広報を中心に東北 6 県の高校訪問や進学セミナー参加による学校説明、当校の学校見学やガ
イダンスを継続している。いままで実施していた高校要請の模擬授業はコロナ禍により一時中
断している。コロナ禍の現在、密を避けながら少人数にわけ工夫したオープンキャンパスを開
催し、学校の周知に努力し、受験倍率も高水準で維持できている。

IX 卒業生の状況

第 111 回国家試験合格率は現役生で 95%、3 回生のみ 96.6%、既卒込みで 93.6%であった。
既卒者への学習支援の成果として既卒者も 3 名合格した。希望者には准看護師資格試験も受験
させ、国家試験不合格の学生も資格を持って卒業できた。就職希望者の就職率は今年度も 100%
を維持できた。卒業生による教育評価の「本校で学んだことに満足しているか」の項目は 5 段
階中 4.6 と昨年度より +0.3 ポイントの高評価であった。

X 社会への貢献

学生自治会がないこと、ボランティアが組織化されていないことから、当校のボランティア
件数は少ないが、新カリキュラムでは地域を重視する科目としてボランティア活動が含まれた
科目を設定している。対外的な貢献として研修時に使用する教材の貸し出しや研修の講師を実
施し貢献している。

XI 研究・研修活動

評価ポイントは 1.4~2.0 と低評価である。外部研修の計画や機会が少なく、全項目中、最も
低い評価であり、引き続き今後の課題である。クラス数は各学年 3 クラスあるため、授業回数
が多くなること、領域実習や学校行事、クラス担当、講義など業務が多岐にわたり、特にコロ
ナ禍における対応に多くの時間を費やすなど教務は多忙ではあるが、自己研鑽するための機会
を設けられるような環境づくりが重要である。

XII 学校評価

今年度の学校評価は前年度より全項目のポイントが下がっている。学校評価をすることで当
校の課題が明確となるため、評価結果をもとに改善できるようそれぞれの項目について検討し
ていきたい。

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価項目等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

3 学校関係者からの評価意見

評価者：病院看護部長

(1) 自己評価項目等の適切性

- ① 自己評価は適性にできており、評価指数も妥当だと考えます。教育全般に関して、実習施設として伝えておきたいことを②③に記入しました。
- ② 学生数が多く先生方の指導が行き届かないところもあると思いますが、実習目標達成に向けて指導がきちんとできていると思います。学生達が患者に寄り添い、積極的・意欲的に実習に取り組んでいるのは先生方の能力の高さと努力によるものだと考えます。
- ③ 先生方の対応能力・コミュニケーション能力の高さが、実習施設との協力体制につながっています。指導者、師長、先生が連携して情報共有ができており、互いに協力して学生に関わっており、それが「いい看護」につながり「いい実習」ができていると思います。患者からの「ありがとう」「とても気持ち良かった」など感謝の言葉が、学生の喜びや楽しさ・うれしさにつながっていると考えます。
- ④ 感染対策への意識が高く、きちんとした対策が取られています。学生たちは、「自分達がきちんとしないと患者さんが感染してしまう」という高い意識をもって実習に臨んでおり、学校での生活指導がきちんとできており評価は高いと考えます。
- ⑤ 先生方には、現任看護師研修の講師や褥瘡対策に派遣して頂き、また、教材の貸し出しにも協力していただき「社会貢献」の評価は非常に高いと考えます。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

自己評価の結果を踏まえて、今後の改善方策が適切に考えられています。

- ① 学生数が多く指導が行き届かない面が実習でも見受けられます。演習も何回やったからいいのではなく、必要な学生には自宅で自分自身や家族で演習してみるなどの自主的学習方法も必要なのではないのでしょうか。
- ② 実習が始まると、講義前の十分な時間の確保が難しく講義の事前準備ができない状況が先生方にはあるようです。そうすると、休日も講義の準備に当てなくてはならなくなり、公私の区別がなくなり心身のバランスが崩れ、優秀な人材の喪失につながりかねません。この辺の具体的な改善策が必要なのではないのでしょうか。

(3) その他

- ① 自己肯定感の高い学生がおり、実習指導者の評価との間に差が生じる場合がある。何をもちえてできると判断しているのか、評価の視点に曖昧なところがあるためなのか、だとすれば、評価の視点を明確にする必要もあるのではないのでしょうか。
- ② 能力の高い学生の獲得が、地域での学校評価につながるため、今後も学生獲得に力を入れて行っていただきたいと思います。

評価者：学校顧問

(1) 自己評価項目等の適切性

教育理念を「学生便覧」に明示し、入学時のオリエンテーションで説明しているが、日常の中に教員が具体的に触れないと浸透しにくいことを理解している。教育活動は、今年度のカリキュラム改正に伴い2本のカリキュラムが実施されるので、教員が良く熟知していないと混乱が起きることもある事を理解している。教育体制は模擬授業や授業研究を行う事で、お互いが学び合う場として共有ができることはよく理解されていて、できるだけ早期のうちに開始することが望まれる。教育活動では、シラバス委員会が機能している事の確認をしている。学生生活支援は日ごろきめ細やかに実施されていることが、学生満足度が高い結果になっている。組織運営では新人教員の育成が重要になっているので、分析通りに育成ラダーを早期のうちに作る事も重要である。施設設備では、図書については3回生が卒業している時期にて比較的新しい書籍が多いが、120名になっていることを多少勘案することや、コロナウイルス感染症の影響を受け、過密にならないような工夫も求められる。学生受け入れでは、コロナウイルスを考慮したうえでのオープンキャンパスを行う努力し、受験生の確保に努めている。卒業生の国試受験に備えての教育や士気低下防止のサポートをしている。学校全体では、教員一人一人の課せられたことを遂行できていると言えるが、社会貢献、研修・研修活動、学校評価は今後に期待される場所である。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

教育目標を「学生便覧」に明示し、オリエンテーションで説明しているが、日常の場面で理念や目標の浸透を図っていることは適切である。卒業目標を保護者の理解してもらうことで、卒業まで学生が学生生活の家族の支援が受けられることと思われる。教育課程では今回はカリキュラム改正があり今後2年間は2つのカリキュラムが存在することで教員は煩雑になるが、2つの過程を平行していく必要がある。教育体制は教員同士の意思疎通を図り教科担当者が学生の信頼を得られるように、学生に同じことが言えるように新人教員を育てる必要がある。教育体制は領域ごとに研究授業や模擬授業ができることができるような体制の検討が望まれる。教育活動はコロナ禍が2年目となり昨年の経験を活かすことが望まれる。学生生活支援では学習支援や生活態度の支援を行い「中途退学者」を減らし、学力低迷者を早期に発見し指導することが重要であり、生活態度では保護者の協力が必要である。これも入学の時の動機づけが必要と思われる。組織・管理運営では、運営委員会の懸案について迅速な対応と、業務分掌が実施されており、適時に学生と保護者への周知がされている。教員定数は満たされているが業務改善を行い効率よいシステムの構築が望まれる。施設設備は学生の増員により憩いの場が減少したので、利用する時間や場所を決めるなど工夫が望まれる。図書の実績を図ることが挙げられているが、図書委員会が機能し毎年少しずつ増やすことが良いと思われる。学生受け入れでは、過密を避けながらのオープンキャンパスや周囲へ学校の存在を周知していることが評価され受験倍率も高水準で維持できている。卒業生の状況では、卒業生は国家試験合格率95%であり全国平均よりやや上回るが、毎年100%を目指しており、新卒者と既卒者への継続的な対応が望まれる。社会への貢献は昨年度もボランティアの育成を計画していたがコロナ禍のため実施することが困難であった。社会が落ち着いたらできるように準備が求められる。研究・研修活動は評価ポイントが低いですが、内部研修や外部研修をできるところから行う必要がある。学校評価では、学校の課題が見えてきているため、評価をもとに優先順位をつけて全員で取り組み、改善できるように進める必要がある。

(3) その他

2021年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、どこの看護学校でも実習も十分行えないまま1年が経過した。本校も教員は学問と臨床をつなげるために、教材の工夫や教員の経験を通して試行錯誤しながら3年間の学習支援をしてきた。国家試験はコロナ禍であっても手加減はないので、今までにない経験の中で力を注いできた。各学年120名という大所帯であったが、国の平均値を上回る結果であり評価できる。また、重要な役割には補助者を設け、十分な成果が出るよう改善をしたことが、層を厚くしていることで次年度に生きることを期待ができる。また、学生満足度でもよい評価を得たことは、今後の教員の取り組みにも励みになる。しかし「これでよい」と思うことは進歩がなくなるため、これからも教員一人一人が個々の課題と向き合い取り組むことがより一層の「学校の力」となり、学生の満足度を高水準に保つことに繋がる事と思う。この結果を分析評価し、研究・研修活動に役立てることを期待する。

【総評】

昨年度同様コロナ禍により学校関係者評価会議は、委員が一堂に会することがかなわず、各委員の書面により集約することとした。

当該校は、3回生を輩出し、学校自己点検・自己評価も3回目となる。昨年度から教職員評価に加え、卒業生評価も実施されている。

卒業生評価では全項目4（そう思う）以上の高評価であった。卒業時到達度では8項目平均が昨年度の4.2から4.7に、卒業生満足度も18項目平均が昨年度の4.0から4.6へと共に上昇した。今結果から学生の学習面・生活面の充実がうかがえた。

今後とも、看護教育をめぐる諸情勢・諸動向を注視しながら、今回の点検で明確化した諸課題を一つずつクリアーしていき、ますます地域社会に貢献できる学校であり続けることを願う。